

社会福祉法人 雲柱社

2007（平成 19）年度事業報告

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱社 事業報告

I : 事業基本理念・事業目標に基づく、社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念 (1999年12月24日)

- (1) 私たちは、賀川豊彦の思想と実践(キリスト精神)を継承し、神と人ともに仕える仕事をします。
- (2) 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- (3) 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- (4) 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

保育ブロック事業目標

- (1) 私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
- (2) 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受け入れ伸ばしていく保育をします。
- (3) 私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
- (4) 私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
- (5) 私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
- (6) 私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

グループかがわブロック事業目標

- (1) 私たちは、障害児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行います。
- (2) 私たちは、障害児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
- (3) 私たちは、障害児・者の家族が抱える課題を深く受け止め、その解決に向けて努力します。
- (4) 私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
- (5) 私たちは、障害児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適なケアを提供するために、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

児童館ブロック事業目標

- (1) 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- (2) 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
- (4) 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- (5) 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

子ども家庭支援センター事業目標

- (1) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて、事業を行います。
- (2) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。
- (3) 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。

- (4) 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性にに基づき対応します。
- (5) 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。

社会福祉事業(第一・二種)

種別	名称	※□は2007年度開始	箇所
第二種	保育所	愛の園保育園・五日市保育園・神愛保育園・祖師谷保育園・高根学園保育所・ともしび保育園・光の園保育学校・黎明保育園・烏山保育園 ※__は分園併設	9
	児童厚生施設	さくら橋コミュニティーセンター・フレンドリープラザ墨田児童会館・文花児童館・外手児童館(墨田区)、汐入ふれあい館(荒川区)、和泉児童館・狛江市立岩戸児童センター(子ども家庭支援センター事業併設・狛江市)、上池台児童館(大田区)、たまだいら児童館ふれっしゅ(日野市)、平野児童館・亀戸児童館(江東区) ※__は学童クラブ分室併設館	11
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ・れいめい宝学童保育クラブ、第七峡田小学童クラブ・汐入小学童クラブ(荒川区)、深川学童クラブ・大島四丁目学童クラブ・大島八丁目学童クラブ(江東区)	7
	共同生活介護 (知的障害者ケアホーム)	かがわの家	5
	共同援助介護 (知的障害者グループホーム)	シリウス・ベガ・ミラ・カペラ(小金井地区) ジュピター(あきる野地区)	
	生活介護		1
	就労継続支援B型	小金井生活実習所	
	短期入所(ショートステイ)		
	居宅介護事業		1
	行動援護事業	かがわサポートセンター・ウイングス(小金井地区)	
移動支援事業			
東京都障害者(児)移動支援従業者養成研修事業	(かがわサポートセンター・ウイングス)法人本部	1	
第一種	知的障害児通園施設	賀川学園	1
	旧法知的障害者通所授産施設	かがわ工房(小金井地区) ワークスタジオかがわ(あきる野地区)	2

*2007年度南平プラネット児童館は日野市より指定管理業者の指定を受けることが出来なかった。

社会福祉事業(公益事業)

地域デイサービス事業 (知的障害学齢児 個別・グループ学習)	さくらの木(小金井地区)	1
-----------------------------------	--------------	---

小金井市小規模作業所	小金井市福祉共同作業所(障害者・高齢者共同)	1
ファミリー・サポート・センター	狛江市全域(和泉児童館内)、小金井市全域(小金井市子ども家庭支援センター内)	2
子ども家庭支援センター	江東区東陽子ども家庭支援センター・江東区大島子ども家庭支援センター・江東区深川子ども家庭支援センター、江東区南砂子ども家庭支援センター(江東区)、狛江市子ども家庭支援センター(狛江市)、小金井市子ども家庭支援センター(小金井市)、小平市子ども家庭支援センター(小平市)	7

収益事業

店舗賃貸ビル	和光ビル	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

II：法人の中期計画(～2010年)にもとづく事業の展開

基礎構造改革が進められていく中で、社会福祉法人の運営についても、内外ともに変革がせまられようになってきた。当法人は中期計画を策定しこれらの変化に対応してきた。今年度もいかに掲げる中期計画に基づいて事業を展開してきた。今後は、第Ⅱ期中期事業計画の策定に向かって作業を進めていくことが求められてくるであろう。2007年度は計画に掲げられた目標を現実の状況の中で再吟味しながら事業の遂行にあたってきた。

社会の状況が激しく変化する中で、当法人はミッションに立って、つつがなく事業を遂行して行くことが出来たことは感謝であった。

(1)次代を担う人材育成のための研修の強化と人材の登用。

社会福祉の人材確保に暗雲が立ち込め始めて来た。若年労働者が減少傾向にある中で、企業の人材獲得と肩を並べて、福祉の現場が人材を獲得していくことが、今後難しくなってくることが予想されている。当法人としては法人のミッションに立つ、志の高い職員の養成に力を注いできた。今年度も研修に力を注ぎながら、職制とその役割などを明確にし、今後法人を担っていく人材の育成に努めてきた。また、新しい事業にも積極的に取り組み前途ある職員の登用を図ってきた。

(2)経営の健全化と雇用の安定を基盤とした給与制度の策定。

収入が限定されている社会福祉事業にとって、今後一番心配されているのは労務倒産であるといわれている。すなわち、法人の財政が悪化して、職員の給与を払うことが出来ない状況に追い込まれることである。この危険を回避するために当法人は給与制度の改定、一定の事業の拡大を図りながら、スケールメリットを活かした法人運営を心がけてきた。また、サービスの安定と向上を図るために、正規職員の雇用を原則としてきた。雇用の安定を基盤にサービスの質の向上を目指していきたいと考えたからである。この方向性は施設経営の安定と健全化にもつながっていくものと考えられる。

(3)各事業別ブロックの質的向上、とともに施設が存在するエリア毎の協働関係の構築

今年度は、世田谷区から烏山保育園の委託を受け、1年間が経過した。行政の支援と職員の力により、利用者からの評価を得ることが出来た。これは法人保育ブロックの力量を示すと共に世田谷地区にある祖師谷保育園との協働や交流など、同区における法人の保育事業の展開にとって大きな意義があったと言えるであろう。同じように、江東区から亀戸児童館が委託されたことは、昨年スタートした平野児童館も

含めて、さらに、3つの単立学童クラブ、2つの法人立保育園、4つの子ども家庭支援センターとの協力関係を構築する場が拡がり、江東区における児童福祉サービスをいっそう向上させていく体制を作ることが出来た。

また、かがわブロック(障碍児、者事業)は、東京都から法人に委託された小金井生活実習所の事業展開に力を注いできた。1年を経て利用者の保護者から、「かがわさんでよかった」、と言う感謝の声を聞くことが出来た。これもまた小金井の地で粒々辛苦の実践を重ねてきた職員の努力の結果であると考えている。3月末にはここで本格的なパンづくりが開始され、施設の一部を改造してレストランも開店した。11月から一時保育を開始した愛の園保育園との協働を視野に入れた小金井地区での福祉事業の展開がこれからの課題となる。

今後、中期計画の方針にそって他の地域においても新たな協力関係を創出していきたいと考えている。

(4) 本部事務局の体制の確立、と共に法人のスケールメリットを活かし合理化・効率化によるコストの削減

現場の会計業務を本部で統括するようになってから5年が経つ。すべてがスムーズにしているわけではないが、かつての施設中心主義から抜け出して、法人の名の下に一致協力していく体制が出来つつあると考えている。この体制をさらに進めながら、スケールメリットを活かしての合理化、効率化等々へのとりくみを進めていきたいと考えている。

組織が大きくなった当法人としては、この流れを止めるわけにいかないが、それに伴う管理の強化や書類が際限なく増えていくような悪弊は厳しく排除していきたいと考えている。

また、法人のコンプライアンスの確立のための諸規定等の整備、IT関係の充実、書類のデジタル化、事務局職員の施設経営への参与、情報の公開、個人情報管理、苦情対応、社会の変化に対応した人事、労務管理等々については、新しい年度においても、引き続き力を傾注していきたいと考えている。

(5) 人材育成に力を注ぎつつ、必要とされる新しい事業にチャレンジする。

基礎構造改革の進展の中で、かつては公が担ってきた諸事業を民間に委託する傾向がますます強まってきた。民間の事業体にとっては事業を拡大するチャンスでもある。

当法人は、ミッションの尊重、法人施設との共働体制が可能な地域条件、財政の安定等々の諸条件を考慮して、公からの事業の受託に対応してきた。今後もこの姿勢を堅持して新しい事業にチャレンジしていきたいと考えている。

前述したように今年度は烏山保育園、小金井生活実習所、亀戸児童館、汐入学童クラブが新しく加わるようになった。さらに、2008年度4月から、練馬区の光が丘子ども家庭支援センター、小平市においてファミリー・サポート・センター、さらに墨田区において業平学童クラブが事業を開始する。また、2009年度4月からの事業開始を目指して墨田区立押上保育園の事業委託の引継ぎ業務が開始される。また、懸案であったともしび保育園の改築も次年度には着工、完成される。ここでも新しい福祉ニーズに答えていくことを視野に入れた施設の改築を考えている。これらの事業はいずれも法人の理念(ミッション)の具体化を目指して展開されるものである。

新しい年度も法人と現場が一体となって事業に取り組んでいきたいと考えている。

Ⅲ:理事会の開催

法人の最高決議機関である理事会の役割が重さを増してきている。今年度も重要議題を議するために、理事の方々に貴重な時間を割いていただいた。真剣な議論を経て多くの議案が議せられ法人の事業の充実と発展に繋がることになった。

開催日程並びに議事内容は以下の通りである。(会場は全て法人本部会議室)

- | | | | |
|-----|-------------|---------|------------------------|
| 第1回 | 2007年5月19日 | 午後2:00— | *2006年度事業報告並びに決算報告の件、他 |
| 第2回 | 2007年9月15日 | 午後2:00— | *2007年度第一次補正予算の件、他 |
| 第3回 | 2007年12月15日 | 午後1:00— | *就業規則の改定の件、他 |
| 第4回 | 2008年1月24日 | 午後6:00— | *小金井生活実習所パン焼き窯、他入札の件、他 |

- 第5回 2008年3月11日 午後6:00ー *ともしび保育園改築の件、他
 第6回 2008年3月29日 午後3:00ー *2008年度事業計画並びに予算の審議、他

IV:評議員会の開催

理事会とは異なった立場で、法人運営に関わっていただく評議委員会は直接の責任をとることを求められないが、理事会の決定事項について吟味し諮問する役割を担っている。これによって法人運営は健全さ維持することが出来る。年3回開催され、広い視野から貴重な意見をいただくことが出来た。日程、議事内容等は以下の通りである。(会場は全て法人本部会議室)

- 第1回 2007年5月19日 午前10:00ー *2007年度事業報告並びに決算報告の件、他
 第2回 2007年9月15日 午前11:00ー *2007年度第一次補正予算の件、他
 第3回 2007年12月15日 午前10:00ー *就業規則の改定の件、他
 第4回 2008年3月29日 午後1:30ー *2008年度事業計画並びに予算の件、他

V:協議機関の設置並びに委員会等の開催

1:担当役員会(月1回程度)

- ・理事長、常務理事、各事業ブロック担当理事によって構成
- ・理事会が開かれるまでの間、法人の動き、事業・人事・財政、等々の諸問題に対応してきた。

2:人事委員会(随時)

- ・担当役員会がこれにあたり、管理職等の人事、人材育成に関わる事項の検討し、必要に応じて理事会に提案を行った。

3:給与制度検討委員会(随時)

- ・社会状況や行政の動きを踏まえながら、今後の給与制度のあり方について検討し、理事長に諮問してきた。
- ・理事長はこれを受けて、必要に応じて理事会に議案として提出した。

4:広報委員会(2008年度より、IT委員会に改称)(随時)

- ・社内報の編集・発行、ホームページ関連の改訂等
- ・法人並びに施設のIT環境の整備について検討した。

VI:会議等

1:法人全体会ー財団法人、学校法人と合同で実施ー

2007年3月24日 午後2:00ー5:00 調布グリーンホール

- *礼拝 *三法人の課題と展望 *永年勤続者表彰 *辞令伝達

2:各ブロック全体会

①保育ブロック全体会

2008年2月10日 午後1:30ー5:30 戸山サンライズ

- *礼拝 *2008年にむかって課題と展望
- *講演「保育所保育指針改定と保育士の課題」 今井和子氏

②グループ賀川(障害児・者事業)全体会

第1回 2007年7月21日 午前9:30ー 賀川学園

第2回 2007年12月1日 午前9:00ー 小金井生活実習所

- ・国分寺教会でアドベント礼拝

第3回 2008年3月22日 午前9:00ー 小金井生活実習所

- *礼拝 *法人からの報告 *事業の課題と展望の共有 *実践の報告と共有、他

③児童館ブロック全体会

*2008年2月11日 午前9:30ー5:30 汐入ふれあい館

* 礼拝 * 2008年度の課題と展望 * 児童館ブロック事業目標の実践的検証

④子ども家庭支援センター全体会

* 2008年1月14日 午後1:00-5:00 法人本部礼拝堂

* 礼拝 * 2008年度の課題と展望、他

3:施設長会(宿泊を除く場所は法人本部)

①全体施設長会(年3回)

- ・全施設の施設長が集まって、法人の現状や今後の課題、人材育成、研修等について話し合った。
- ・各事業ブロック間の現状や課題について話し合い、相互に意見を交換し理解を深め合った。

第1回 2007年4月16日 午前10:30-4:30

「2007年度・法人の課題とは何か」

「2007年度・人材育成と研修の展開」

- ・話し合いと情報交換

第2回 2007年10月15日-16日(宿泊研修)青梅簡保の宿

- ・講演「社会福祉の変化と法人の課題」(川島理事)

- ・話し合い「法人の人材育成の課題と取り組み」

- ・情報交換と交流会

第3回 2008年3月19日 午前10:30-4:30

- ・「法人が求める施設長の資質とは何か」

- ・「施設の求められるコンプライアンスについて」

- ・話し合いと情報交換

②ブロック別 施設長会(毎月1回)

- ・各事業ブロック固有の課題や問題の検討(保育・児童館・かがわ・支援センターの四つに分かれて実施)

- ・ブロック毎の研修計画の立案と展開

- ・人事、労務、財政、危機管理、苦情対応などについての検討と対応策

VII:集会等

①賀川豊彦召天記念墓前祈祷会 2007年4月21日 午後3:00-

イエスの友会、松沢教会との共催で、毎年賀川豊彦の召天日である4月23日に多磨霊園の松沢教会墓地で行われていたが、今年度から参加者の都合も考慮して、召天日の直近の土曜日の午後に行うことにした。

* 奨励 松沢教会 堀 光男牧師

VIII:協力関係の構築

雲柱社の三法人(学校・財団法人)は、お互いの独自性を尊重しつつ互いに協力して事業にあたる。また、イエス団、本所賀川記念館との協力関係の維持に努めてきた。

①三法人理事長会の実施

- ・三法人の情報の交換、協力事業についての話し合い。他

IX:法人創立70周年(2008年)に向けての記念事業の準備と展開

①70年の歴史をたどるDVDの製作

②70年史刊行の準備

③記念会の開催の準備

2007年度 社会福祉法人雲柱社 研修報告

I:2007年度研修の課題と展開

1:法人のミッション理解の深化

*当法人の社会福祉事業は、法人事業基本理念(ミッション)に基づいて展開されている。法人の職員はこのミッションを深く理解し、その具体化のため努力していくことが求められてきます。今年度の研修もまた、この課題を中心に据えつつ、事業の質の向上(よりよいサービスの提供)を目指して、真摯に研修に取り組んできた。

*それぞれの研修においては、礼拝を守り御言葉に学ぶことから研修を始めることにした。また、法人の事業基本理念の理解と検証、賀川豊彦の思想と実践についても研修に取り入れて学んできた。

*各施設においては、毎日の仕事、職員会などにおいては、聖書を読み、祈りをもってはじめる事を心がけて来た。

*各施設においては、毎月1回程度、近隣教会の牧師による聖書研究の時を持った。

*各施設は、年3回程度近隣教会の礼拝に出席し交流を深めることにした。

2:職員としての専門知識の研修

*日々大きな変化を遂げつつある社会状況、それを受けて社会福祉の現場も変化しつつある。社会福祉の実践は一所懸命が求められる現場であるが、それはまた、仕事上の視野を狭くし、マンネリ化や独善性に陥りやすい危険も伴っている。

*現場での仕事を客観化し、さらに深めていくためには、専門知識の研修は不可欠であると考え今年度も各ブロックにおいて、それぞれの専門分野の研修にとり組んできた。

3:ニーズの把握と対人援助技術の向上

*利用者のニーズ(子どもや家庭の変化)が多様化してきている中で、その状況に対応していくためには、職員がニーズを的確に把握する力と、対人援助技術の向上が求められている。

*一方、利用者の苦情に対する対応に対する職員の力量が求められてきている。

*今年度はそのためのスキルアップにも取り組んできた。

4:事業ブロック間の交流研修と情報の交換

*四つの事業部門を持つ当法人は、そのスケールメリットを活かした専門知識、スキル、情報の交換を活性化するとともに、研修展開においてもこのメリットを活かしていきたいと考えてきた。

*今年度はブロック間で研修講師の派遣、見学、職員交換研修などにとり組んで来た。まだまだ、この分野の展開は不十分であり、今後の課題として残った。

5:社会福祉研究室の設置と自主研修の活性化

*今年度は、財団法人の配慮により研修棟の一室を専有の研修室として利用することが出来た。

*グループの研修、松沢塾、個人の研修準備など他と多様に利用することが出来た。

*また、図書なども少しずつ整備され、徐々に研修室としての体裁を整えてくることが出来た。

6:バランスのとれた研修の展開ー3つの研修スタイルを活かしてー

*OJTー(職場の上司、先輩から現場での実践に即して指導を受けるー

*OFF・JTー職場を離れて、研修を受けるー

*SDSー自分の課題を発見して研修に取り組む

職業人として成熟していくためには、この3つ研修がバランスよく展開されなければならない。当法人は各施設内研修、ブロック別研修、法人研修を一体として捉え、バランスの良い研修の展開に取り組んできた。

II:研修の展開

1:法人が実施した研修

(1):全体施設長研修 一年3回 (内1回は宿泊研修)

*第1回 2007年4月16日 法人本部

・「法人の課題と展望」

・「人材育成と研修の課題」

*第2回 2007年10月14日-15日 青梅 簡保の宿

・講演「社会福祉の変化と福祉法人の課題」 講師 川島克之(法人理事)

・「これからの人材育成」-提言と話し合い-

*第3回 2008年2月18日 法人本部

・「2008年度法人の課題と展望」-中期計画を踏まえて-

・「施設に求められるコンプライアンス」-最近の行政の動向から-

*全体施設長会に一部を研修に充てて実施した。

*法人のミッション理解を深め、現場での責任を担うものとして、それをいかに具体化していく かに
ついて研修を行った。

(2)新任施設長研修 2007年6月15日 午前9:30-12:30

*2007年度から施設長の任務を担う者を対象に実施した。

・法人のミッション理解と職員への伝達

・施設長の役割とそれを担うための資質、知識、スキルなど

(3)保育ブロック主任研修一年5回 (内1回は宿泊研修)

*施設長と並んで事業展開の責任を担う立場にある者として、知識、対人援助スキル、コミュニケーシ
ョン力、OJT展開力などを養うことを目的として研修を実施した。

*研修内容

・聖書の学び・論文講読・情報交換・安全管理、危機管理・主任の役割と課題など

・第1回 2007年4月22日-法人における主任の位置- 法人本部

・第2回 2007年7月17日-行事について- 法人本部

・第3回 2007年9月18日-安全マニュアルの点検- 法人本部

・第4回 2007年11月16日~17日-(宿泊研修 青梅簡保の宿)

講演「雲柱社の保育と賀川豊彦」 新沢誠治先生

「総点検-主任の役割と課題・園長との協働関係」

・第5回 2008年1月15日-危機管理の現状と今後の課題-法人本部

(4)ブロックかがわ主任研修

*法人のミッション理解・法人の課題と展望の共有、現状報告

*ブロックかがわにおける主任の課題・事業遂行上における問題への対応など

・2007年6月19日 9:30-11:30 小金井生活実習所

・2008年2月26日 9:30-11:30 小金井生活実習所

(5)保育ブロックリーダー研修

*保育ブロックにおけるリーダーの立場と役割、それを展開していくための理論とスキル、さら
その基本となる法人のミッション理解について研修を行った。

・2007年9月4日 午後1:30-5:30 法人本部

・2008年1月22日 午後1:30-5:30 法人本部

(6)子ども家庭支援センターリーダー研修

*法人のミッション理解を中心に研修を行った。

・2007年6月28日 午後4:00-7:00 法人本部

(7)児童館ブロックリーダー研修

*すべてが委託事業である児童館は、日々の実践の成果が事業評価に直結していく。

リーダーは館長を支えて事業展開を担っていくことになる。このためには幅広い視野、と職業人としての資質が求められる。今年度はこのような視点にたって研修を展開してきた。

*研修内容－聖書の学び・論文講読・リーダーによる発題と話し合いなど

- ・2007年6月14日 9:30－12:00 法人本部
- ・2007年9月13日 9:30－12:00 法人本部
- ・2007年11月8日 9:30－12:00 法人本部
- ・2008年1月17日 9:30－12:00 法人本部

(8) 経験年数別職員研修

①1年目職員研修 2007年10月20日 9:30－5:30 法人本部

* 準職員制度廃止に伴う正規登用準備研修

- ・聖書の学び ・法人事業基本理念の理解 ・法人の現状と課題の理解
- ・正規職員とは何か－3人の施設長による講義－

②2年目職員研修 2007年9月8日 9:30－5:30 法人本部

* 正規職員登用のための準備となる研修

- ・聖書の学び ・法人事業基本理念の理解 ・法人の現状と課題の理解と共有
- ・法人における正規職員の責務と課題

③3年目職員研修

* 障害者授産施設での労働並びに交流体験 北杜市 あさひ福祉作業所

* 春期研修 2007年5月25日－27日(2泊3日)

- ・田植え体験、養鶏、養豚体験、畑作業体験、椎茸栽培体験・パンづくり体験など
- ・ミッション研修 「共に生きる生活」(ボンヘッファー著)の読書会－夜に時間を用いて－

* 秋期研修 2007年10月5日－7日(2泊3日)

- ・稲刈り体験 ・養鶏、養豚体験 ・パンづくりなど
- ・ミッション研修 「共に生きる生活」(ボンヘッファー著)の読書会
- ・八ヶ岳連峰、南アルプス、富士山が見える雄大な自然の中で、農作業に汗を流し、障害者と交流し、同期の仲間との親交を深めることが出来た。

④4年目職員研修 2007年2月22日 9:30－5:30

* 専門職として本格的な働きが求められる時期にあって、法人の職員してどのような資質が求められるのか、ミッション理解と職業人としてのあり方、と言う二つの面から研修にとりくんだ。

- ・聖書の学び ・法人事業基本理念を検証する。
- ・職業人とは何か－ノーブリス・オブリージュの視点から－
- ・話し合い「私の悩み、私の課題」

⑤中堅職員研修－Ⅰ－5年～10年未満－

* 2007年6月23日 9:30－5:30 法人本部

* 仕事に慣れ、楽しさが増す年代であるが、さらに向上を目指すために法人のミッションに立ち帰って、仕事や自分を見直すことを目的に研修を行った。

- ・法人のミッション理解－聖書に学ぶ－
- ・法人における中堅職員の課題
- ・賀川豊彦の思想と実践の学び
- ・法人の課題と展望の共有
- ・コミュニケーション力の養成など

⑥中堅職員研修－Ⅱ－10年～15年未満－

* 2007年10月27日 午前9:30－5:30 法人本部

* 施設において主任、施設長を支え、後輩の職員の指導、相談相手となることが求められている 職員を対象とした研修

- ・聖書の学び 賀川豊彦の思想と実践－キリスト精神について－
- ・職場の人間関係を改善していくために－中堅Ⅱ職員の課題

⑦人材育成者研修－16年以上

* 今年度は、3年目職員研修のアシスタントとして参加した。

*3年目職員のアドバイザーとしての役割を担っていただいた。

⑧パート職員研修－1年目～2年未満－

*2007年6月2日 午前9:00－12:00 法人本部

・法人のミッション理解

・パート職員の方々への感謝とお願い－社会福祉の仕事の理解と働き方－

・パート職員就業規則等の説明・話し合い

⑨パート職員研修－2年目以上－

*2007年9月1日 午前9:00－12:00 法人本部

・法人のミッション理解

・パート職員の方々への感謝とお願い－社会福祉の理解と働きかた－

・職場での接遇マナー－利用者との関わりを中心に－

・パート職員就業規則の説明など

2: 各ブロックにおける研修

(1) 保育ブロック研修

①「施設長の役割とは何か」－3回－ 講師 新保 安雄氏 法人本部

・定例の施設長会の時間を割いて実施した。

・施設運営、労務管理、苦情対応等々について、実務に即して懇切丁寧な助言指導をいただいた。

②施設長宿泊研修 2008年1月11日－12日 御殿場 オムロン保養所

*2008年度の向かって、保育ブロックの人材育成と研修の課題、事業の展望、施設長の課題等々について研修を行った。

③0歳児保育担当者研修

*保育実践の分かち合い、情報交換、職員間の交流

*2007年9月25日 午後1:30－5:30 法人本部

*2007年12月4日 午後1:30－5:30 法人本部

④2歳児保育担当者研修

*保育実践の分かち合い、情報交換、職員間の交流

*2007年6月5日 午後1:30－5:30 法人本部

*2007年11月6日 午後1:30－5:30 法人本部

④調理職研修

*職務内容の充実と点検、情報の交換、職員間の交流

2007年5月29日 午後1:30－5:50 法人本部

2007年10月30日 午後1:30－5:3 法人本部

④保健職研修

*保育園での保健職の位置付けと職務内容の検討、実践の分かち合い、交流

*2007年6月19日 午後1:30－5:30 法人本部

*2007年10月23日 午前9:30－5:30 法人本部

－施設長との合同研修－

⑤特別保育事業研修

*各園における特別保育事業の現状についての確認、情報交換、今後の課題と展望など

*2007年6月26日 午後1:30－5:30 法人本部

*2007年11月27日 午後1:30－5:30 法人本部

(2) 子ども家庭支援センターブロック研修

①ひろば担当者研修

*不特定多数の親子が来館するひろば事業において、担当者はどのような対応や配慮が求められるのか、講師を招いて研修を実施した。

*2007年7月2日 午後1:00-5:00 法人本部

*講演とワークショップ 橋本マキ先生

②虐待対策ワーカー研修

*先駆型子ども家庭支援センター(南砂、小平、狛江)に勤務しているワーカーが集まって、各センターの虐待対策の状況、他の行政機関との協働上の問題等について話し合った。

*2007年9月29日 午後1:00-5:00 法人本部

*2008年1月5日 午後1:00-4:00 小平子ども家庭支援センター

(3)児童館ブロック研修

①乳児活動担当者研修

*0、1、2歳の活動の現状報告と情報交換、活動スキルの研修、現場見学など

*2007年6月4日 午前9:00-12:00 法人本部

*2008年1月21日 午前9:00-12:00 深川北子ども家庭支援センター

②幼児活動担当者研修

*幼稚園児の放課後のグループ活動の意義と活動の展開について研修

*2007年6月11日 午前9:00-12:00 法人本部

*2008年1月28日 午前9:00-12:00 法人本部

③小学生低学年担当者研修

*低学年を対象とした事業の現状報告、今後の事業展開、情報交換、

*2007年5月11日 午前9:00-12:00 法人本部

*2007年11月9日 午前9:00-12:00 法人本部

④小学生高学年担当者研修

*高学年活動の現状報告、利用児童減少への対策、情報交換、

*2007年5月18日 午前9:00-12:00 法人本部

*2007年11月16日 午前9:00-12:00 法人本部

⑤中・高校生担当者研修

*中・高校生の居場所、自立支援の場としての児童館活動似ついでについて研修

*2007年6月15日 午前9:00-12:00 法人本部

*2007年11月30日 午前9:00-12:00 法人本部

講演「中学生の性の問題について」 村瀬幸治先生

⑥自然体験事業研修

*2007年4月26日 午前9:00-12:00 新宿御苑

*新宿御苑においてネイチャーゲーム等の実地研修を行った。

⑦児童文化関係担当者研修

*各館の児童文化活動(図書の貸し出し、読み聞かせ、映画、演劇等々)の現状報告、情報交換

*2007年9月21日 午前9:00-12:00 法人本部

⑧創作活動担当研修

*各館の創作活動の現状報告、情報交換など

*2007年10月19日 午前9:00-12:00 法人本部

⑨コンピューターによる情報管理研修

*2008年2月5日 午前9:00-12:00 法人本部

*作業の効率化、データ保存の合理化等を目的に、実際にコンピュータを使って研修を行った。

⑩体育活動担当者研修

*今年度は、ドッジボールの試合のバリエーションについて研修

*2007年11月2日 午前9:00-12:00 外手児童館

(3)学童クラブ研修

①学童クラブ担当者研修

*児童の放課後の居場所として、ますますニーズが高まっている学童クラブ担当者の責任は重くなってきている。このような状況を踏まえて研修の充実にとり組んできた。

*今年度は、学童クラブの存在意義、子どものそだちと学童クラブ活動、職員のスキルアップ、保護者からの苦情対応、危機管理等々の研修を行った。

*東京都学童クラブガイドラインを参考にしながら、法人の学童クラブ活動(運営)マニュアルづくりにも着手した。

*2007年5月31日 午前9:00-12:00 墨田児童会館

*2007年10月11日 午前9:00-12:00 墨田児童会館

*2008年1月10日 午前9:00-12:00 墨田児童会館

②学童クラブリーダー研修

*主に単立、分室のリーダーを対象に研修を実施した。

*学童クラブ運営、パート職員へのOJT、行政対応など

*2007年5月24日 午前9:00-12:00 法人本部

*2007年9月27日 午前9:00-12:00 法人本部

*2008年1月31日 午前9:00-12:00 法人本部

2007（平成19）年度 社会福祉法人雲柱社 愛の園保育園 事業報告

記入者／武井まさ子

前文

慌しい世の中で、子どもも保護者もほっと出来、安心できる保育園でありたいと思い日々保育者は子どもの気持ちに寄り添いたいと願い努力してきました。がとても難しく、悩みながらの毎日でした。虐待で気にかかる子どもが園で見せるあれた姿に保育者は心を痛めてきましたが、9月に送致されました。今は保護者から厳しい怒りを向けられている状況です。現在も通園している妹の安全を確認しながら保育に当たっているところです。

11月からは念願だった一時保育を開始出来ました。初めは利用者の少なさに心配していましたが、徐々に集まり、今では日によってはキャンセル待ちをしていただく状況です。地域の方々のちょっと預かってもらえるところが欲しいという願いがひしひしと感じられるところです。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長後30分は自主事業）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（4名受け入れ、内特児対象：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年2回実施
- ・ 退所児童との交流 年3回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年21名受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 園庭開放 毎日
- ・ プール開放 夏期期間中120名ほど参加
- ・ 保育所体験 年30回・45人受入れ実施
- ・ 育児困難家庭への支援（5名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（9名受入れ在籍）
- ・ 自主的取組 障碍児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ	0歳	6名(2名)	18名		
たんぽぽ	1歳	4名(1名)	20名		午前、午後フリー
ちゅうりっぷ	2歳	4名	24名	2名	午前フリー
花	3歳	3名(1名)	27名	1名	
星	4歳	2名	26名		
月	5歳	2名	25名	1名	
他朝、夕、土曜日の保育士		22名(22名)			
合計		43名(27名)	140名	4名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294 日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	24日	23日	24日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回(5月、11月)

歯科検診 年1回(6月)

蟯虫卵検査 年1回(6月)

エ 保 育

各組の保育目標

つき組(5歳児)の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ・ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
- ・ 異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、

感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題 活動ごとにまたトラブルが起こるたびにクラス全体で話し合いをしてきた。皆で話し合う事によって個々の思いが膨らんだり、自省出来たり友達の中で成長していく姿が見られた。時にはじっくり一人一人と話すことを大事にしてきたことで、個々が自信を持って色々な事に取り組む姿がみられてきた。なかなか自分を出せずにいた子ども初めは大人が入り、つなげていく事で次第に友達の中で生き生きとした姿を見せてきた。遊びも何を如何したいかを話し合って進めた事によって、一つ一つが自分たちのものになっていった。家庭からの思いを引きずってくる子どもいたが、園での生活が楽しいので払拭出来ているように見えた。

ほし組（4歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 友だちと遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・ 意欲的に色々な事に挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

年間目標 評価・課題 前半は、気にかかる子の行動でトラブルが多かったり、一人一人がかまって欲しい気持ちが強く、他の子まで影響された。大人を試す行動が目につき始めた時に、担任が「良い・悪い」のけじめをはっきり付けてあげた事によって子どもたちの気持ちが安定してきた。同時に子どもたちが自信を付けられる様にお当番を入れたり、クラス皆の前で自分の思いを出せる場をあえて作った事によって一人一人に自信が付いてきた。また、子どもの遊びを見て何を求めているのかを担当が把握して、子どもたちの気持ちに添い取り組めた事が集団を作ってきた。発達の気にかかる子には、個別の対応が出来るプログラムを作り対応している。

はな組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたいことが表現できるようになる。
- ・ 外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・ 食事・排泄・睡眠・衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・ 様々な物を見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにする。

年間目標 評価・課題 一人ひとりが自分を出し、大人に関わって欲しい気持ちが表れている時には丁寧に関わってあげるように心がけていた。時には友達に手を出したり、力で牛耳る姿を見せた時は自分の感情、友達の思いを言葉に変えて伝えるようにしてきたことで、自分のやりたいことを表現し、友達と一緒に遊ぶ姿も見られるようになって来た。まだ、空間認知が難しくすれ違い時に踏んだり、ぶつかってしまうことがあるので、日常の中で体のバランスをどうやっていくかが課題になった。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せる

とともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。

- ・ 身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・ 簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・ 保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・ 大人やまわりの事に興味を持ち、見立て、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題 日々の中で一人ひとりの思い、甘え、不安を出来るだけ捉えるようにし、一人ひとりが満足する空間、遊び、大人のかかわりと見通しが持てるように心がけてきたが、子どもたちの思いと大人の思いがすれ違った半年であった。後半、ごっこ遊びをし、お話しの世界を広げてあげる事によって友達とのかかわりにも広がってきたし、皆で遊ぶ楽しさも感じ始めてきた。大人・友達と遊びこむ事によって信頼関係が出来、自分の思いを言葉にすることが出来るようになり、人との言葉のやり取りも増えてきた。子どもたちの表情が明るくなったことが嬉しい後半でした。子どもの気持ちをなるべく早く汲めるようになっていればと反省です。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・ 保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い身体を動かすことを楽しむ。
- ・ 安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・ 安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・ 身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

年間目標 評価・課題 1歳で、どれだけ自分の思いを出せて、それを保育者が受けていられるかが、これからの育ちに大事であるということを常に保育者は意識し、余裕を持って行動することを心がけた。担当グループでの活動を大事にしつつ、状況に応じてグループを超えたかかわりが出来たことで大人との信頼関係と安心感が持てることを考えていきました。友だちへの関心が高まり、叩いたり、噛んだり子どもへの対応も必要で、まだまだ、一人一人への対応が必要な年齢であることを押さえ、思いを言葉に変えてあげる事によって思いが満たされ安定していった。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
- ・ 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・ 個人差に応じて離乳を進め、色々な食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・ 優しく語りかけたり、発生や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ・ 聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

- ・ 安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触ったりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題 大人との信頼関係をつくることを大事にし、担当制で一人ひとり丁寧に関わることを心がけた。日々の生活全般で、手順を同じようにし、生活の見通しを持って安心できるように努め、個々にあわせて生活リズムを整えることを心がけた。子どもとの付き合い方を知らない親の姿が多かったので、親も含めて支える配慮が大事なクラスでした。時に親の立場に立ち過ぎたり、子どもの立場に立ち過ぎたりのバランスが難しい面もあったが、常に子どもの姿について話し合い、現実を踏まえたところで見直しが出来て行った。

つくし組（一時保育）の年間目標

- ・ お家の生活リズムにあわせながら、安心して過ごせるようにする。
- ・ 安心できる環境・人的環境を考え、居心地の事の良い空間を提供していく。
- ・ 思いを受けとめ信頼関係を作り、情緒の安定を図る。

年間目標 評価・課題 2007・11月より開始。始めは数人でしたが、平均5～6名利用するようになり、多い日はお断りする日もあります。ベテランが保育に当たっている事もあり、長泣きをしてどうしても困るという日は少なく、子どもたちの安心できる場としては良い環境になっています。また、一人一人のペースを大事にしてくれている。押し付けの保育になっていない事が居心地の良い空間を提供しているようです。アレルギーは、平常保育ではないところが難しいのですが、調理がしっかり対応してくれています。

2007 年度実施行事

- 4月 3日 入園式 ・ 保護者会総会（19日）
- 5月 日 保護者懇談会(随時各クラス) ・ 個人面談
- 6月 日 歯科検診・歯磨き指導・保育参観・学童訪問
- 9日 地域食事講座
- 2日 地域お楽しみ会
- 30日 まきばの会（ケアーの必要な子を支える会）
- 7月 2日 プール開き・地域プール開放
- 7日 1年生の会
- 13日 0歳父親懇談会
- 14日 5歳児お泊り保育
- 8月 30日 救命救急法講習会
- 13日 Wercomeday（敬老の集い）
- 10月 6日 地域食事講習会
- 13日 運動会
- 幼児遠足
- 11月 10日 秋祭り
- 14日 感謝礼拝・感謝訪問・歯科検診

クラス懇談会(随時各クラス)

- 29日 防災訓練(賀川と合同)
- 12月22日 クリスマス会・OBと地域のクリスマス会
- 1月9日 餅つき会
- 2月 日 保育参観・懇談会・年間総括
- 3月 日 新入児説明会・お別れ会食
- 15日 卒園式・進級を祝う会・卒園遠足
- 月例行事 誕生会・避難訓練

年間行事 評価・課題 一つひとつの行事が子どもにとってどういう意味があるのかを検討し、確認しながら、大事にしていきたいものは残し、日々の保育の中で大人と子どもがゆっくり、過ごせる時間を多く持てるようにしてきた。目的ねらいの確認もし、次年度に向けてのあゆみも作れた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題 年度初めに愛の園の調理目標を作り、そこに目標を置きながら子どもと食事を考えながら調理してきた。調理委員会も再会し、目標の確認をしながら愛の園の「食事」を皆で確認しあえたと思うし、これからも続けて行こうと思います。家庭での食事のあり方が気になっているところで、子どもの食の基本をどこに据えるかも確認しあい、健康の為の薄味・食材選びなども考慮しながら、楽しく食事をするために保育士と調理が話し合い食育について考え、話し合ってきた。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練 毎月1回 隔月は夕方

引き渡し訓練の実施(11月29日)

安全管理 評価・課題 非常災害時に関しては、職員や子どもが災害時、混乱することが少しでも少なくなるように毎月の避難訓練には力を入れてきた。また、隣の障害児・者の施設と合同の総合訓練を消防署立会いの下に消火訓練、通報訓練もしてきた。

防犯の面では防犯用のカメラや防犯ブザーを設置したり、不審者の侵入防止対策をしてきた。不審者の件では市の子育て支援課、警察との地域連絡体制をとっており、連絡が入ると保護者に伝えるようにしてきた。玄関の入り口などに対してセキュリティー対策をとる声に現在予算を組んでいます。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	19名

調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	28名

イ 健康管理

- 健康診断 年 1 回（7～9 月）
- 細菌検査 年 12 回
- 給食、0歳児調乳担当のみ毎月 1 回

ウ 職員会議

- 定例会 毎月 2 回
- 行事前打合せ会（随時）
- 期別反省会（年 4 回）
- リーダー会（随時）
- 乳児・幼児打ち合わせ会（週 1 回）
- クラス別打ち合わせ会（月 1 回）

会議 評価・課題 月 2 回職員会議を持っている。1 回は牧師先生に来ていただいて、聖書の学びをした後、諸問題について話し合い。2 回目は、学習検討委員会が企画してコミュニケーションの学習を 3 回に渡り、講師を呼んで話しあう会を設けた。その他に幼児ブロック・乳児ブロックのブロック別会議の中で、自分たちの抱えている悩み問題をじっくり話し合う事によってお互いの保育を知り、理解しあう関係ができていった。リーダー会では気になる子の話しを中心に話しをし、乳児・幼児ブロック会は平日のお昼に打合せを持つて話し合ってきた。リーダーが気になる子の話しにばかりになってしまったので、保育の中身のことを話し合える会にしていくことの確認もとる。

エ 研修報告

- 法人内研修
- 園内研修

- ・牧師先生に来ていただいて聖書の学びをしている。
- ・講師にお願いして*子どもの感情の育ちについて(5 月) *守秘義務について(6 月)
*人間関係について(7 月、11 月、12 月) を学び話し合う。
- ・発達が気にかかる子の巡回指導（月 1 回）
- ・小金井子ども地域ケア一連絡会
- ・子どもの文化学校研修
- ・私立保育園連盟研修 乳児研修
- ・東社協保育園団体研修 食事研修

研修 評価・課題 法人内、法人外の研修に参加し、その報告を職員会でしてもらい、皆のものとなるようにしてきた。法人の研修では法人の理念など学ぶことが出来たが、松沢塾への出席は昨年行かなかった人が参加した。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題 ・子ども達一人ひとりの成長を考えていく上で指導計画の充実に努力している。
・アレルギー児がますます増えてきて、食材が広がってきているので大変な面はあるが、医者、看護師、栄養士、保護者と話し合いながら進められ、他の子とあまり違わない物が提供できたのは良かった。子どもの食育を考える上で一人ひとりの食について保育者と調理側が調理委員会などを通し考えながら進めてこれたのはよかった。

(2) 設備関係

ア ・一時保育室建築 ・渡り廊下のひさし

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・クーラー取替え

設備関係 評価・課題 待ちに待った一時保育室の工事をすることが出来た。それに伴い1Fに運動用具、会議用イスなどの物置を改造した。その他老朽化によるクーラーの取替え、又痛んだ場所の修理が多かった。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

- ・食器補充 幼児の汁椀を木製に変える。

エ 固定資産物品購入 ガスオーブン購入

備品関係 評価・課題 一時保育室が出来たのでそこにおく、環境整備をした。(おもちゃなど)

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○(全園児数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

災害対策 評価・課題 月に一回避難訓練を行なう中で子ども達は、火事、地震などが起こったらどうしたらよいかの話を聞き、避難の仕方もうまくなってきている。非常食も防災訓練の日に昼食として食べながら、本当に地震が起っても保育園には食べるものがとってある事を伝えるとともに、在庫のものを新しいものと取り替えるようにしている。

3 地域社会との連携

- ・地域の子育て中の家庭を対象に母子通園、プール開放、育児講座、お楽しみ会などをおこなった。

地域社会との連携 評価・課題

- ・園に入所している家庭で気になる家庭の事を近隣にある子ども家庭支援センターと連絡を取りながら必要な場合には児童相談所、保健所、市の子育て支援課などと定期的に話し合いを持ってきた。以前から気になっていた虐待を受けている子が9月に送致になった。親からは恨まれ罵倒されているが、子どもは帰りたくないと言い、安定しているとの事なのでホッとしている。しかし親との関係は切れたまま妹がまだ来ているので心配な面がある。
- ・地域に向けてのお楽しみ会、プール開放などはとても喜ばれ、遊びに来ていた子どもが入園希望を出すというケースもあった。また育児不安があり、週一回母子通園で来られていた家族も保育者の子どもとの関わり、ほかの子どもたちの姿を見たり、悩みを相談したりして安心し、新しく幼稚園に入園した。支援センターの紹介で1時保育を利用する人も増えている。

2007（平成19）年度 社会福祉法人雲柱社 五日市保育園 事業報告

記入者／小山 正弘

前文

○乳幼児の保育環境・生活の仕方について、共通の認識をもつ足がかりが出来るように講師を招いて園内研修を行った。また他保育園の見学研修も行う。見学先を絞り、そのレポートを見せ合いながら、共通理解を高めていくことが出来たと考えている。「玩具のアルバム」づくり、「行事計画書」のマニュアル化、などを行い一過性のものとして終わってしまうことがないように(積み上げていくことができるような)準備に着手することが出来た。

○4月は95名スタート。途中入園のニーズに応え、年度末3月時点では104名の園児をお預かりすることになった。(定員97名)

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：6名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（その他：4名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年27日受け入れ
- ・ 保育所体験 年10回実施
- ・ 出前保育 年11回実施
- ・ 年末保育 12/29に実施。

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（3月現在）

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ	0歳	3名	9名		+看護師
たんぼぼ	1歳	2名	11名	1名	+パート1名
ちゅうりっぷ	2歳	3名	19名	1名	+パート2名(午前・午後)
れんげ	3歳	2名	21名	1名	
すみれ	4歳	1名	20名		+パート1名

いちよう	5歳	1名	24名	1名	
合 計		12名	104名	4名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294 日
24日	24日	26日	25日	27日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	24日	23日	22日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月
- 幼児 年2回（4月、10月）
- 歯科検診 年1回（6月20日）
- 蟻虫卵検査 年1回（5月8日配布。11日回収）

エ 保 育

各組の保育目標

いちよう組（5歳児）の年間目標

- ①神と人から愛され、自分が欠けがいのない存在であることを感じる子ども
- ②健康で体力のある子ども
- ③自分で出来ることを自分です。また、意欲的に物事に取り組む子ども
- ④友達と遊ぶことを楽しむ子ども
- ⑤色々な人との関わりの中で相手を思いやりつつ、自己発揮できる子ども
- ⑥自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり、表現する子ども

年間目標 評価・課題

子どもたちは、お泊り保育やクリスマス会を通して団結してひとつのものを上げる喜びを経験することが出来たのではないかと感じている。複雑な家庭環境等の理由から、気になる子どもが数人いた。落ち着いて話を聞くことが難しい子どもが数人いた年度であった。小学校とは早めに情報交換を行う。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ②身近な遊具や用具を使い、体を十分に動かし楽しむ子ども
- ③自分で出来ることを自分です。
- ④異年齢児に関心やいたわりを持つ。簡単なルールのある遊びを楽しむ子ども
- ⑤自然事象、動植物への関心や愛護の心、身近な社会事象などにも興味関心を持つ子ども

年間目標 評価・課題

全般的に子どもの欲求が満たされた保育が出来たと感じている。登園を楽しみにしていた子どもが多かったのではないかと感じられた。ルールを守りながら友達と関わる点・遊びの広がりについては、今後の課題として残ったかと感じられた。伸び伸びと生活・遊びを楽しめたと感じている。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ②散歩や戸外遊びなどで、自ら楽しんで体を動かす子ども
- ③身の回りのことで、自分で出来ることをしようとする。
- ④ごっこ遊び等友達と仲良く遊びを楽しむ子ども
- ⑤身近な自然や小動物に興味をもつ子ども

年間目標 評価・課題

家庭環境のために、登園・降園時間が不規則で保育のままならない園児がいた。連絡を取り合い改善に努めるが、改善には向かわなかった。引き続き努めていく。複数担任ではあるが、シフトの関係からひとり他クラスのクラスに入らざるをえないケースも多々あり、二人で連携をとりながら仕事を進めていくことが難しかったかと思われた。少しずつ慣れて落ち着いたクラスになっていったと感じられる。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ①自分の要求を大人の援助を受けながら言葉で伝えようとする子ども。
- ②体を思い切り動かして遊ぶ子ども（走る、はねる、飛び降りる等）
- ③保育士に声をかけられながら、自分で出来ることをしようとする子ども
- ④少人数の友達と関わって遊ぶことを楽しむ子ども
- ⑤身の回りの事物や自然などに興味を持つ子ども

年間目標 評価・課題

3人の保育士(ひとりは臨時職員)+パート職員一名があたる。クラスの人数が19人と多いことに加え、多動児を含め気になる子どもが多いクラスであった。そのため、散歩に十分にいけなかったり、室内外共に落ち着かないと感じられた日もあった。共に話し合いながら連携しあえた点については良かったと捉えている。2歳児室は朝夕・延長保育時間にも使用するため、室内の環境の作り方は大変難しいものであると感じている。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①保育士に受け止められながら、自分の世界を広げていく子ども
- ②自由に体を動かして遊んだり、色々な道具を使い一人遊びを楽しむ子ども

- ③自分でしようとする気持ちを持ちながら、少しずつ基本的な習慣が身についてくる。
- ④大人からの話掛け絵本を喜び、自分でも片言話すことを楽しむ子ども
- ⑤子ども相互のふれあいや、人とのふれあいを経験する。

年間目標 評価・課題

室内環境が整えられて、子どもたちはだいぶ落ち着いた生活・遊びが出来ていたのではないかと感じられる。食事も担当制でゆっくりしっかりとる体制が身についてきており、落ち着いたクラスとなった。基本的な生活習慣はそれぞれに出来ているクラスであった。

れんげ組（0歳児）の年間目標

- ①特定の保育士との愛着関係が出来、安心して過ごせる。
- ②はいはい、伝い歩き等を経ながらしっかりと歩けるようになっていく。
- ③基本的な生活習慣が芽生え、徐々に離乳食が完成していく。
- ④簡単な言葉を理解したり、言葉を発したり、大人の真似を楽しむ。
- ⑤身近な人の働きかけや言葉かけを通して、身の回りのものに関心を示す。

年間目標 評価・課題

ゆるやかな担当制をとり、それぞれに安心出来る愛着関係が出来たのではないと思うが、年度途中で園児数が変わった（増えた）こと、体調その他で関わる職員を一時変更せざるを得なかったことから、当園の0才児クラスの難しさを感じている。途中で入園してくる園児に適宜合致した玩具等の環境を整えていくことの難しさを感じている。

2007 年度実施行事

4月	1日	入園式・進級式
5月	11日	遠足（幼児は親子遠足）こどもの日、花の日
6月	13・14日	花の日。老人ホーム訪問。
7月	7日	夏祭り
7月	12・13日	お泊り保育
8月	2・3日	卒園児キャンプ
9月	14日	祖父母の集い
10月	13日	運動会
10月	26日	遠足（2歳クラス以外）
11月	2日	2歳クラス親子遠足
11月	8・9日	感謝祭・豚汁大会
12月	22日	クリスマス会
1月	7日	新年挨拶会
1月	19日	6年生同窓会
3月	5日	卒園式
2月	29日	お別れ遠足
月例行事	誕生会	園開放

年間行事 評価・課題

園庭開放は月に一日程度実施しているが、特に決められた日以外でも来ていただいて良いように案内している。特に宣伝はしていないが、人から人へ伝えられ、実施日は数人遊びに来るようになる。今後の課題としては、園内の雰囲気・子どもの様子が見やすい企画を考えてみることに思う。(例えば一緒に室内で遊んだり、給食を食べたりする日を設けるなど)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・乳幼児期における成長・発達を促すエネルギー量、たんぱく質量を考慮し、季節感を取り入れ、栄養素のバランスのとれた献立を作成し、実施することが出来た。
- ・今後も引き続き、子どもたちに食の大切さを伝えていきたい。(畑での野菜づくり・クッキングデー他)

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練 (月 1 回)

引き渡し訓練の実施 (9 月 8 日)

安全管理 評価・課題

小学校のグラウンドを使い引渡し訓練を行う。並び方・引渡し方、いつもと違う人がお迎えに来たときの想定など色々なケースが考えるので、更なる共通理解が必要であると考えられた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1 名
主任保育士	1 名
保 育 士	10 名
産休・育休職員	1 名
調 理 員	3 名 (栄養士含む)
看 護 師	1 名
嘱 託 医	1 名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	3 2 名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (10 月 16 日)

細菌検査 年 12 回 (全員)

ウ 職員会議

定例職員会 毎月 1 回

事前リーダー打ち合わせ会

乳児カリキュラム会議・乳児クラス打ち合わせ 毎月各 1 回

幼児カリキュラム会議・幼児クラス打ち合わせ 毎月各 1 回

反省会 (1 月 17 日)

非常勤職員研修 (12 月 7 日)

会議 評価・課題

事前にリーダーと議題を確認してから始めているので、各打ち合わせがスムーズに行われるようになってきている。発言しない職員がひとりもいないで参加することができるように小グループでの討論等工夫しながら行うようにした。内容にもよるが、役割を分担し、職員主導でどんどん進めていくことが出来るように整えていきたいと考えている。

エ 研修

・園内研修 毎月 1 回

・法人内研修 (階層別研修・職種別研修・他職場体験研修等)

・他保育園見学研修

・その他研修

研修 評価・課題

法人内の研修は、その内容が多岐にわたっており、充実していたと思われる。特に法人の使命としての精神に毎回触れることが大切だと思われた。保育内容については、皆が同じ他施設の見学研修に出掛けることで、共通のイメージが出来、とても大きな刺激になる。今後の検討課題として大いに役立つと感じている。学んできたことをそれぞれの職員が「感じ」、情報交換する場を積極的に作り出していくことが、これからより必要になるだろうと思われる。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

・小口現金出納事務、・実費徴収事務

- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

会計事務においては整理が進んでおり、業務も行いやすくなってきている。今後はパソコン等の導入で更なる業務の効率化を目指したい。事務所内もそのために整え始めることが出来た。児童処遇事務においては、より实际的に生きる書類となるように書式などを検討しているところである。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所を更新

設備関係 評価・課題

「環境整備チェックリスト」に基づき、職員が分担された箇所を定期的にチェックする。今まで気付かなかった点が報告されることもあり有効である。中には設備上の問題ですぐに直せないものも出てくるが、安全に関わるものについては、臨時的な対応をしながら、なるべく早く解決していけるように努めたい。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

子どもがその興味・関心に応じて遊び、また生活の場面においても各々の空間が保障されるように、コーナー的な室内のつくりを必要とする。少しずつではあるがおもちゃの棚・ままごとセット・しきり等を購入し、全体的に充実してきている。今後も家庭的で落ち着けるような雰囲気的环境づくりを目指し、少しずつ整えていく。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（4/13、3/26の2回。）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

避難訓練はほぼ予定通りに行われ、非常食糧の備蓄も出来ている。ただより現実的に災害を想定して訓練を行う為には、土曜日・朝夕・延長保育時間等、職員の人数が少なくなっている時間帯・曜日での避難訓練をしていく必要があると感じられた。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

近隣の老人ホームや障害者施設とは行事等を通して交流を続けている。特に障害者施設は近いこともあり、散歩のときにお互い立ち寄るなど無理なく継続した交流が出来ている。小中高生の職場体験等も可能な限り受け入れ、様々な人との交流が出来るようにしている。はじめ慣れない子どももいるが、ほとんどの子どもは喜んで関わりをもっている。

4 その他（特記）

(1) 卒園児キャンプ・・・8/2・3日。青少年旅行村。48名が参加。

(2) 6年生同窓会・・・1/19日。保育園内で実施。

(3) 母親講座・・・1/19。救命救急講座。15名の参加。

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 神愛保育園 事業報告

記入者／伊藤 美代子

前文

- 今年度は 2 回目の『第三者評価』を受けた。課題はいろいろあるが、建物の老朽化に伴う整備が大きなものと感じる。これは将来を見通して考えなければならないことであるが、すぐにできることもある。古いものの整理である。いらぬものは処分してもっとスッキリ暮らせるようにしたい。
- 子育て支援は 15 年目を終わり、色々と変化するところもあった。必要性は感じながらも、狭い園舎でできずにいた“5 時間開所”を行政の枠組み変化の中で実施できる意味は大きい。実施のための方策を子育て支援のスタッフだけでなく、職員みんなで考えながらの取り組みをした 1 年だった。在園親子の子育て支援も園全体で取り組んだり、卒園児支援のプログラムも多いが、これらの事業を正規職員が減った中で続けていくことは工夫も必要なのだと思う。神愛の大事な柱として続けているこの事業をしっかりと継いでいくために、パート職員の配置なども考えていきたい。
- 今年度は、大変なアレルギーの子が複数いて、その対応に追われ、保育職員の負担も大きかった。
- 保護者への発信を積極的にしたいと考え、園便りに日誌の掲載をした。これからも日誌の掲載を通して保護者との相互理解が進むことを願っている。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1 時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児のスポット受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（今年度は在籍 2 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年 6 回実施
- ・ お年寄りとの交流 年 10 回実施
- ・ 退所児童との交流 年 15 回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年 20 日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年 18 回・38 人受入れ実施
- ・ 出前保育 年 11 回実施
- ・ 子育てサークル支援 年 3 回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年 5 回発行

- ・育児困難家庭への支援（3名受入れ在籍）
- ・自主的取組 障害児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つくし	0歳	3	9	0	
たんぼぼ	1歳	2	10	0	
もも	2歳	2	14	0	
ちゅうりっぷ	3歳	1	15	0	
ひまわり	4歳	1	16	2	
ひまわり	5歳	1	16	0	
子育て広場	その他	1			
合 計		11	80	2	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294 日
24	24	26	25	27	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児	毎 月
幼児	年2回（ 5 月、 10 月）
歯科検診	年2回（ 6 月、 10 月）
蟯虫卵検査	年2回（ 6 月、 10 月）

エ 保 育

各組の保育目標

ひまわり組（5歳児）の年間目標

生活や遊び、さまざまな活動に向けて自分たちで工夫したり、話し合ったりして進めていく。人の話をよく聞き、自分なりの考えを持ち、自分の気持ちを言葉で伝えることができる。

年間目標 評価・課題

今年は特に配慮を必要とする子どもが数人いるというクラスの中で運営は大変だったが、色々な行事を楽しみ、節目を乗り越えていくたびに子どもたちは一回り、ふた周りと自信をつけてきた。話を聞くという場面でも大分落ち着いて聞けることもある。しかし、4期

になっても尚、落ち着かない日があった。卒園関連の準備では年長としての力を十分に発揮することができた。

この1年は、たてわり保育を考えながら3・4・5歳児の保育も考えた。園内で研修を重ねながら、これからにつなげていきたい。

ひまわり組（4歳児）の年間目標

- 自分が思ったり、考えたことを言葉で伝えあい、相手のことも受け止められるようになってくる。

年間目標 評価・課題

言葉で伝えたり、相手の思いを受けとめたりするということは、年中の集団として考えると、「帰りの会」を通してその力をはぐくんできたように思う。はじめは、自分が話したくてけんかになったりしたが、だんだんと相手の話に共感したり話し合いができるようになってきた。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- 生活が自立することで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- 色々な遊びを通して、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 友達と一緒に生活する中で、また遊ぶ中で気の合う友だちができ、一緒にいることや遊ぶことを楽しむ。
- 自分の気持ちを沢山出していく中で、楽しさや喜びを感じたり、様々な葛藤を体験し、友だちとのつながりを深めていく。

年間目標 評価・課題

外遊びが大好きでたくさん外での遊びを楽しんできた。中には、部屋の方が好きな子もいるが、その子は部屋でじっくり遊んでいる。どちらにしてもたくさん遊んでいく中で、友達同士の関係はより親密になってきている。個々の関係を見ると、まだ葛藤の中にいる子もいるが、変わっていくだろうことは予測できる。表現活動、調理活動等計画倒れになってしまったことがたくさんあったことは大きな反省である。

もも組（2歳児）の年間目標

- 沢山の自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して自分の気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- 日々の様々な体験の中で感じる嬉しさや新しい発見など、大人や他の子どもに伝えようとしたり、思いがぶつかった時には「どうしようか」と少しずつ考えようとする。
- 自分の好きな遊びをじっくりと遊んだり、遊びを通して他の子どもたちと遊ぶのが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。
- 絵の具や土粘土など様々な素材に十分触れて、のびのびと表現活動を楽しむ。
- 小動物を育てたり植物を栽培する中で、生き物に興味を持ち、触れ合うことを喜ぶ。

年間目標 評価・課題

子どもたちの自己主張に対して、保育者はそれぞれの気持ちに耳を傾け、受け止めてきた。それでも泣いたり怒ったりする姿はあるが、主張を通そうとばかりするのではない姿がたくさん見られるようになってきた。また、好きな遊びをじっくり楽しむという点でも打ち込んで遊ぶ姿をたくさん見ることが出来る。子ども同士の関わりも多く見られるようになり、女の子を中心に一緒に遊ぶ姿がよく見られるようになっている。表現活動は保育者の計画性のなさが大きな反省として残った。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- 保育しに親しみ、安定した中で十分に自分の思いを出す。
- 一人ひとりが自分の興味あるものに向かい、好奇心をふくらませ、じっくりと満足するまで探索活動を楽しむ。
- 他の子や保育士と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 歩いたり全身を動かして遊ぶことを楽しむ。

年間目標 評価・課題

0歳からの持ち上がりが2人という体制の中で、比較的早く落ち着いて過ごすことができた。「子どもの思いを受け止めることはどういうことか」「子どもに寄り添うことはどういうことか」話し合いながらすすめてきた。少人数でじっくり遊べるようにしたいと思いながら、勤務等の関係もあり十分にはできなかった。しかし、子どもたちは興味のある物、好きな遊びを通して関わりが見られ、誰かと遊びたいという気持ちがとても強くなっている。

つくし組（0歳児）の年間目標

- 園と家庭とで連携して、24時間の生活リズムを大切にすることで、気持ちよく過ごす。
- 大人とのかかわりの中で、様々な欲求や要求を十分に受け止めてもらい、信頼できる大人の存在ができ、その大人を介して、周りの人や物へと興味を広げていく。
- 姿勢を変えたり、移動、歩行など身体を十分に動かすことを楽しむ。
- 室内外での探索活動を楽しみ、見る、聞く、触る、しゃぶるなどの感覚や手の動きが育つ遊びを沢山する。
- 嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く・笑う・表情・仕草・喃語・片言などで自分の気持ちを表す。
- 大人が歌う歌を喜んできたりする中で心地よく過ごし、大人にあわせて声を出したり動作を真似て楽しむ。

年間目標 評価・課題

途中で産休に入る保育者がいて入れ替わり、互いに理解しあうのにある程度の時間は必要だったが、だんだん通じ合えるようになり、子どもにとってどうしていくのがいいのか色々話し合いながらやってきた。子どものかawaiiさと、育ちの楽しさを共有しながら保育でき

るのはうれしい。年度末にはそれぞれの日誌を通して学び、考えあえたのは良かった。保護者との関係も丁寧に作り上げてきている。

2007 年度実施工事

- 4月 1日 入園式
 - 6月 12日 こどもの日、花の日
 - 6月 1日 親子遠足
 - 7月 10日 プール開き
 - 7月 19～21日 4・5歳児キャンプ
 - 9月 14日 おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会
 - 10月 13日 運動会
 - 10月 13日 いもほり遠足（3～5歳児）
 - 10月 23日 収穫感謝礼拝
 - 10月 28日 神愛まつり
 - 12月 15日 クリスマス会
 - 1月 11日 餅つき
 - 2月 18～23日 作品展示
 - 3月 13日 お別れ会
 - 3月 15日 卒園式
- 月例行事 誕生会・隔月で園外保育

年間行事 評価・課題

年間行事については見直しをしながら進めているが、子どもの視点は大事にしながら、スリム化させてきている。しかし、どこを大切にしていくか？という確認は今まで以上に必要だということを痛感した。昨年、行事にかかる準備段階での作業の効率化を進めてきたが、少しずつ実ってきているように思う。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して、季節の素材を積極的に取り入れた献立をたてること、安心・安全な食材を使用していくことは、園としての大事な考え方である。それをより積極的に伝える方法として、季節の食材の展示を行なった。保育との連携という点では、お互いに意見を聞きながら進めているが、もう一步踏み出せないところもある。

カ 安全管理

交通安全教育（ 11月 17日）

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施（ 9月 3日）

安全管理 評価・課題

「ホンダ」の交通キャラバン隊による交通安全指導を実施した。子どもたちの興味、反応も大きく、親の反応も大きかった。日常の保育士による指導だけでなく、こういう機会も大切にしていく。避難訓練は子どもたちの中に浸透してきており、上手に避難できるようになっている。そしてかんたんメールでその報告をするように心がけている。引渡し訓練は、親の意識も大きいので防災の日を設定している。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1名
主任保育士	1名
保 育 士	11名
調 理 員	3名（栄養士含む）
看 護 師	1名
嘱 託 医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	16名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（ 9月～11月）

細菌検査 年 2回（5月、10月）

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月 2回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年 2回）

会議 評価・課題

職員会議は少ない時間で中身の濃い話し合いにしたいと、主任を中心にいろいろ工夫している。職員の意識もすこしずつ変化してきていると思うが、十分とはいえない面もある。期末反省は、年 2 回で十分な話し合いの時間をとっている。それぞれの反省を全体のものとして生かす努力がもっと必要と思われる。

エ 研修計画

- ・園内研修（年 5 回）
- ・法人内研修
- ・キリスト保育連盟研修
- ・全国私立保育園連盟保育総合研修大会
- ・全国私立保育園連盟カウンセリング研修
- ・子どもの文化学校研修
- ・東社協保育士会研修、給食研修
- ・幼保セミナー
- ・行政主導の研修

研修 評価・課題

外部の研修は近場に出かけることが多かったが、職員が自分で学びたいと思うところにいったのは良かったと思う。

職員みんなで共有していくために、会議の冒頭に研修報告の時間を入れるようにしたが、これは研修に参加した本人も、また報告を受けた職員も双方にとって良かったと思う。是非続けていきたい。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成・日誌・児童票
- ・給食献立表等の作成・給食日誌
- ・健康診断記録表等の作成・保健日誌

事務関係 評価・課題

会計事務、管理事務とも事務局の助けを借りながら、把握できるように努めている。まだ、園の会計全体全部は見渡せない部分もあるので、更に理解を進めていきたい。今年は年度途中で事務のパートを雇い入れたが、おかげで主任の事務管理にさく時間は随分減少した。仕事を移行してみるとこんなにやっていたのかと今更ながら驚いてしまう。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ 下水道の点検・清掃
- ・ 防災カーテンを新しくする

設備関係 評価・課題

施設の建物自体の老朽化と設備の老朽化と双方を考えなければならない。見渡せば更新したい場所はいくらでもある。耐震補強をしたことで建物は、メンテナンスを上手にしていることを心がけていく。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・ ひまわり組とひだまりの間に間仕切り設置

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

・

エ 固定資産物品購入

・

備品関係 評価・課題

出来るだけ予算に沿ってと思うが、時に必要なものが出てくることがある。(予算の段階で、職員、事務局としっかり話し合うことが必要である)

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全園児数+全職員数) × 3食 × (1日～3日) 分

災害対策 評価・課題

災害時の非難訓練もほぼ予定通り実施。本当の時はどうなるのか課題はその都度出されるが、話し合いながら進める。

障害児もいる中で、おぶいひもは各クラスに用意することを確認した。今年度は避難靴を保育園でまとめて購入し、いつでも必要に足りるようにした。防災頭巾なども用意しているもので十分なのか続けてみていく必要もある。

3 地域社会との連携

- ・花の日に近くのディサービスホームを訪問する。その後2回ほど訪ねることもあった。
- ・(十分ではないが) 江東区子ども発達センター、親子教室との連携
- ・近隣の小中学校との連携 今年、小学校の校長先生に保育園に来てもらい、年長の親と懇談する機会を設けた。保護者も校長先生も良い機会だったと評価している。
また、夏の保育園体験ボランティアにも協力していただいている。反対に中学校の職場体験も受け入れ、相互交流となっている。

地域社会との連携 評価・課題

ご近所との協力関係に少しひびが入った感があったが、今まで努力して改善してきたように思っていたが、小さな不注意であつという間にもとの木阿弥状態になってしまった。今後もパートの人も含め、職員全体で気をつけていくことを確認し、毎日チェックするようにしている。

子育て支援事業を進めていく上でも、民生・児童委員さんたちとの連携、また地域の方との連携を図りたいと考え、子育て支援の通信を送っている。しかし、反応はまだあまりない。

学校との連携では、小学校はお互いに行事を見学するなどの交流があるが、中学校では体験学習の場としての交流をこれからはかかっていきたい。

4 その他(特記)

2007（平成 19）年度 社会福祉法人雲柱社 祖師谷保育園 事業報告

記入者／上松 恵子

保育理念、保育ブロックで統一された保育目標と年間保育計画に基づき、どんな子どもに育てて欲しいかを常に問いかけながら、保護者の立場にも立ち、日々の保育を実践してきた。

2007年度は園舎新築に伴い、定員を93名から108名に変更し、保育時間も1時間延長から2時間延長になった。また、園長、看護師、保育士計5名の烏山保育園異動に伴い、園長が交代し、新入職員も加わり、新しい職員集団となった。夏まで工事が続き、新園舎に慣れるまで子どもも大人も多少の混乱は見られたが、素晴らしい園舎を与えられ、感謝である。

新園舎になり子どもにとって、より充実した保育環境を提供することができるようになった。新園舎を安全に使うためのマニュアルも整備しつつある。また、地域の在宅親子のニーズに対応するために子育て支援室を設け、子育てに関する相談や情報提供をしているが、より活用できる方法を探っていきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（特児対象：3名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 50日間受入れる
- ・ 保育所体験 延べ100人受入れ実施
- ・ 出前保育 年7回実施
- ・ 育児困難家庭への支援（3名受入れ在籍）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
うさぎ組	0歳	3名	9名		看護師・副主任6月頃まで
あひる組	1歳	3名	14名		
はな組	2歳	3名	17名		
つき組	3歳	2名	20名	1名	

ほし組	4歳	1名(1名)	24名		
ゆき組	5歳	1名(1名)	24名	2名	
	その他	主任、副主任			
合 計		17名	108名	3名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	25日	23日	24日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月(1回～2回) *耳鼻科検診 年1回(5月)
 幼児 年2回(5月、10月) *視力検査(4、5歳児)年1回(10月)

歯科検診 年1回(5月)

蟻虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆき組(5歳児)の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

・ 障害児2名を含めた5才児クラスとして、1年間通しみんなで考え合いながら、生活や活動を進めることができた。クラスのキッチンを使ってお米とぎなど、室内での新たな経験や部屋の活用ができた。今後の異年齢活動や交流の持ち方などを幼児クラス全体として考えていくことが課題だと思う。

ほし組(4歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。

- ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・二人担任ということで、分担しての保育も可能になり、遊びや生活面で個々の欲求に応じて見守っていくことができた。
- ・カリキュラムをゆとりあるものにしたため、子どもたちの負担の少ない生活を送れたと思う。

つき組（3歳児）の年間目標

- ・基本的な生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁寧に関わり、子ども達ができる流れを作るようにした。そのため初めは差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。
- ・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを活かすことが課題。
- ・クラス、仲間というところでは関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標 評価・課題

新園舎での生活は子どもの様子に合わせて環境を整えていったので、無理のない生活をおくることができ、個々のペースにあわせて保育することができた。障害児保育の中で、障害児の行事、活動等への参加の仕方なども考える事ができたが、家庭も含めての支援は難しいものがあった。

はな組（2歳児）の年間目標

- ・身の回りのことを自分でできるようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
- ・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
- ・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えのときと受け止め、自信をもって行動できるように援助していく。

年間目標 評価・課題

- ・子どもの自己主張に対して言葉にしてあげること、相手の思いを伝えること、大人の思いを伝えることなど職員間やかたよりがあったことは反省である。
- ・時間差での着替え、食事などをすることで、個々の欲求にも応えることができたが、一人ひとりの細かい部分まで確認していくことが不十分であった。

あひるグループ（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の

安定を図る。

- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標 評価・課題

- ・4月は新入園児、在園児が分かれて生活をし、お互いにゆったりと個々のペースを大切に過ごすことができた。新入園児が慣れてきた頃から、遊びを通して新入園児、在園児が合流しながら、小グループに分かれて生活することにより、落ち着いて過ごすことができた。
- ・後半みんなで楽しむ時間を作った。特にクッキングを多く取り入れ、実際に混ぜたり、音を楽しんだりした。普段あまり口にしないものを作ったり食べたりする機会となった。

うさぎグループ（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に手応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・月齢差があり、発達の面でも差が大きいクラスだったが、緩やかな担当制をとることで、生活面では臨機応変に個々に対応することができた。遊びの面では高月齢児への遊びと環境保障が難しく、2グループ制を生かしきれなかった。小人数保育の持ち方が課題。
- ・新園舎での生活になり、環境が安定するまでに時間がかかった。使い慣れていくことでより安定した環境設定ができると思う。積み重ねが必要。

2007年度実施行事

- | | | |
|----|----------|---------------|
| 4月 | 入園式 | イースター礼拝 |
| 5月 | 各クラス懇談会 | 3、4、5歳児親子遠足 |
| 6月 | 一週間縦割り保育 | プール開き 5歳児キャンプ |

	花の日子どもの日礼拝	竣工式
7月	夕涼み会	
8月	卒園児遊ぼう会	1年生キャンプ
10月	運動会	
11月	そしがや祭り	収穫感謝祭 5歳児プラネタリウム
12月	クリスマス礼拝	卒園児クリスマス
1月	餅つき	ほのぼの会 1週間縦割り保育
2月	各クラス懇談会	
3月	お別れ会	卒園式・修了式 進級式

年間行事 評価・課題

・それぞれの行事は係りが中心となって準備、実施、反省を行った。例年通りではなく、目的を再確認し子どもにとってどうかとの視点に立ち、見直すこともした。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

クッキングについては、園庭工事が完了後に自分たちで育てた野菜を使つてのクッキングを経験できた。おやつについては従来にも増して手作りおやつを提供した。新園舎では調理室のカウンターごしに子どもたちとのやりとりができ、より食事に関心を持ってもらうことができたように思う。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月15日）

安全管理 評価・課題

年度途中まで工事があり、完了後順次、安全管理の確認をしていった。新園舎では警備会社に警備を依頼し、防犯カメラ、玄関のオートロック装備などにより、安全面に配慮できた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	14名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
リトミック講師	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	16名

イ 健康管理

健康診断 年 1回 (6月)

細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回 乳幼児打ち合わせ 毎月 2回

行事前打合せ会 (随時) クラス、食事打ち合わせ

期別反省会 (年 2回) 主任会

会議 評価・課題

会議の召集者、性格、内容等を確認し、司会はベテラン職員がするなど意見を出しやすいよう工夫した。議題を整理し、時間内でおさめていく工夫をした。保育との同時進行となるため出席できない職員は記録を読み、報告を受け周知徹底をはかった。

エ 研修

- ・園内研修
- ・世田谷区の研修
- ・法人内研修
- ・自主研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修

研修 評価・課題

園内研修ではマニュアルや保育指導の確認など新職員集団としての共通認識をもつことを学びあった。また、法人研修、外部研修にも参加したが、個人別の研修計画を作成して実施していくことが今後の課題である。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

・園長の交代、新しい職員体制の中で、4月以降も工事が続き大変であったが、5月から事務パート職員が入り、スムーズな事務処理ができるようになっていった。

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題
 ・園舎新築のため、特になし

(3) 備品関係

- ア 備品購入
 - ・物置 ・園名看板 ・乳児用防災頭巾 ・小動物飼育小屋
- イ 保育用品購入
 - ・簡易テント ・大型散歩車 ・テーブル、椅子 ・三輪車
- ウ 給食用品購入

- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題
 ・前年度に新園舎用の備品を購入したので高額備品の購入はほとんどなかった。

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題
 ・9月保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・烏山地域の各種保育関係者が集まって作った保育ネット烏山に加わり、入園相談や防災訓練、粕谷児童館でのイベントなどに参加した。
- ・砧地域のぱる児童館、留学生会館等のフェスタにも毎年参加している。
- ・新しくできた「みんなの部屋」を地域の親子に遊び場として開放し、在園児とも交流しながらすごすことができるようになった。

4 その他（特記）

2007（平成 19）年度 社会福祉法人雲柱社 烏山保育園 事業報告

記入者／菊地 せい子

民営化保育園の運営は、雲柱社の保育園では初めての試みであり、民営化に反対もある中での船出であった。そのためこの 1 年間は緊張の連続であったが、管理職・職員が一丸となって取り組み、年度途中で誰一人辞める職員も出ず、大過なく 1 年間を終わることができ、第 3 者評価・世田谷区の保護者アンケートでも一定の評価を受けることができた。法人の理念にたちながら、07 年 1 月からの合同保育で子ども達と関わられたことや、事務の引継ぎが概ねスムーズにできたこと、6 人のパート職員が残ってくれたことなども円滑に移行できた大きな要因であったと思う。

昨年度の一番の目標はまずは子どもの最善の利益を考えながら、保護者との信頼関係を築き、園に対して安心と信頼を持ってもらうことであった。そのため管理職が先頭に立ち、よりきめこまかく丁寧な対応に努めたので、トラブルが大きな問題に発展せずに済んだ。しかし職員の自主性が育たないという問題も生じたが、1 年目であり仕方のない面もあり 2 年目以降の課題としたい。

保育全般については昨年までの踏襲を基本とし、1 年間の流れと保育の形は整い、保護者からの評価も得られ、職員の努力が実ったと思う。反面、行事を踏襲するために多くの時間を割かざるを得ず、もっと細かい保育内容の話や、子ども一人ひとりへの関わりなど十分に話し合う時間がとれず、今後の課題として残った。玩具、絵本等、室内外の保育環境整備も今後の大きな課題である。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 0 歳児保育特別対策事業実施（0 歳児取扱人員：13 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（0 歳児の受け入れ、4 時間延長） * 月延長登録児…平均 58 名
- ・ 休日、年末保育 * 休日利用…日平均 1、2 名 * 年末保育…3 名利用
- ・ 障害児保育事業実施（3 名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施（8 名）

イ 地域子育て推進

- ・ 中高生の育児体験受入れ 51 人受入れる
- ・ 地域交流事業 年 9 回・155 人
- ・ 卒園生交流 年 3 回・34 人
- ・ 育児困難家庭への支援（2 名受入れ）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		看護師 パート2名
ちょうちょ組	1歳	4名	18名	1名	パート2名
うさぎ組	2歳	4名	20名		パート1名
たんぽぽ組	3歳	2名	22名	1名	パート1名
やま組	4歳	2名	22名	1名	
ひ組	5歳	2名	21名		
	その他	休日、延長4名 主任2名			
合計		25名	116名	3名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 337日
24日	24日	29日	28日	30日	27日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
30日	30日	30日	25日	29日	31日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月（1回～2回）

幼児 年2回（5月、10月） *視力検査（4、5歳児）年1回（10月）

歯科検診 年1回（5月）

蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

・民営化以後1年しか保育ができないクラスなので、子ども達のやりたい気持ちを引き出し様々なことが経験できる1年にしようと心がけた。
親とのコミュニケーションもとれていたため、家庭の理解・協力も得られ、そのお陰でやりたいこともやれたと思う。

やま組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

・戸外遊びを中心とすることで、虫探しや草花をみたり身近な自然に触れることができた。また、集団遊びやゲームを取り入れることで身体を動かすことに努めた。
・いろいろなことを経験し自信がついてきたことで自己主張が強くなったが、自己主張は認めながらも、その都度クラス全体で話し合いをすることで、相手のことも考えられるようになってきた。

たんぼぼ組（3歳児）の年間目標

- ①・基本的な生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁寧に関わり、子ども達が自分でできる流れを作るようにした。そのため初めは差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。
- ②・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを活かすことが課題。
- ③・クラス、仲間というところでは関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標 評価・課題

・配慮児を含めてのクラス運営に悩みながらであったが、サポートを受けながら進めていくことができた。
・生活面での確立を目指し、子ども達と丁寧に関わることを心掛け、排泄、食事等スムーズに移行出来た。
・歌遊びをたくさん取り入れ楽しむことができた。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①・身の回りのことを自分でできるようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
- ②・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
- ③・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えのときと受け止め、自信をも

って行動できるように援助していく。

年間目標 評価・課題

- ・年度途中のクラス打ち合わせの後、10人ずつの2グループに分け、個々の生活リズムに合わせて時間差をつけるようにした。そのことで集団も小さくなり、ゆとりを持って子ども達と係わることができた。
- ・担任間のコミュニケーション不足や保育観の違いから、連携がうまくいかないこともあった。

ちようちょ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標 評価・課題

- ・保護者の対応がむずかしいクラスで前半は主任がクラスに入ることが多かった。
- ・少人数での活動、生活を大切に、一人ひとりの心の声を大切に、また見落とすことなく子どもに寄り添う保育をするよう心掛けた。
- ・1歳児の特徴である、やってみたいという気持ちに添って、じっくり時間を掛けて取り組み自信へとつなげていけるよう援助できた。

ひよこ（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に手応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・経験が浅い保育士も多かったが、経験者がリーダーシップを取り意思統一をして保育に取り組んだ。
- ・3グループに分けてゆるやかな担当制を取ることで、きめこまやかな配慮をすることができた。
- ・玩具、絵本の保育環境等は今後の課題である。

つき・ほし組（延長保育）の年間目標

- ①・家庭的で落ち着いた雰囲気で行う。
- ②・個々の子どもの状態を深く捉えて愛情を注ぎ、こまかい配慮によって楽しい時間を過ごす。

年間目標 評価・課題

- ・延長では落ちついた家庭的な雰囲気を大切に保育をした。
- ・お迎えの遅い子ども達はゆっくり、のびのびと過ごしていた。

にじ組（休日保育）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを知る。
- ③・一人ひとりのペースを考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④・異年齢児との世話をしたり世話をされる喜びを知る。

年間目標 評価・課題

- ・家庭的な雰囲気の中での保育を心掛けた。
- ・なるべく禁止ごとをなくし、個々のペースに合わせて生活をするよう心掛けた。
- ・1回利用のみの子どももいるので、怪我のないように気をつけて保育をした。

2007年度実施行事

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 4月 | 入園式 |
| 5月 | 保護者会 お楽しみ会 4. 5歳児遠足 |
| 6月 | プール開き |
| 7月 | 夏祭り 笹もやし |
| 8月 | お化けごっこ お楽しみ会 |
| 9月 | プール終い 敬老の集い お月見会 |
| 10月 | 運動会 5歳児リ 5歳児遠足 |
| 11月 | 3, 4歳児遠足 5歳児プラネタリウム 焼き芋会 お楽しみ会 |
| 12月 | 年末子ども会 キャンドルサービス |
| 1月 | 餅つき 豚汁会 |
| 2月 | 節分 保護者会 |
| 3月 | 雛まつり 就学・進級祝い さよなら遠足 |

年間行事 評価・課題

公立保育園の行事を踏襲するというので、大小にかかわらず担当職員を決め一つ一つ丁寧に取り組んだ。そのため効率の良い準備は難しく予想以上に時間を取られた。子どもたちや保護者には喜ばれ、初年度としては良い結果となった。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

食材そのものの味を大切に、旬のものを献立に多く取り入れるよう工夫した。また、子どもが調理室を身近に感じられるよう、調理室を見ることができる足台も準備した。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（1月24日）

安全管理 評価・課題

夜の警備にあたる人が高齢であったため、保護者から苦情が多かった。シルバー人材センターに求人を依頼し、後半は順調に行く。保護者から玄関の自動ドアのセキュリティの強化についての要望があったので、インターホンで出入りできるようにした。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
副園長	1名
主任	2名
保育士	23名
看護師	1名
栄養士	3名（調理師含む）
パート職員（調理、見回りも含む）	13名
リトミック講師	1名（非常勤）
嘱託医	1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年 3回（5月、プール前検診、10月）

細菌検査 年 12回

給食、職員・非常勤毎月1回

ウ 職員会議

（夜） 定例会 毎月1回 乳児、幼児、調理カリキュラム会議 毎月1回

（昼） 行事打合せ会 毎月1回（2ヶ月後のもの） 幼児打ち合わせ 毎月2回

安全委員会 毎月1回

会議 評価・課題

3 1人と人数が多く全員の会議では報告が中心となる。担当毎の小会議を取り入れ、検討などしやすいように努める。司会は初年度ということもあり、管理職が多く担当したが、後半は打ち合わせなど職員が進行するなど工夫した。また、事前に議題を示し、報告も文書化して事前に配布するなど、会議の効率化を図りたかったが、どうしてもぎりぎりになる月があった。保育との同時進行となるため途中参加職員と延長担当職員は記録を読み報告を受けているが、周知徹底はなかなかむずかしい。

エ 研修

- ・園内研修（中間年間保育まとめを含む）
- ・法人内研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修
- ・世田谷区の研修
- ・自主研修

研修 評価・課題

新採用15人（うち新人が7人）、雲柱社の6園4施設から16人の異動者という立ち上げの年であったため、外部・内部研修を重視した。経験別グループに別れタイムリーな内容の園内研修も行う。民営化1年目の途中検証や、まとめ講師を呼び行った。キリスト精神の学びの機会も少なく課題である。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

管理職4人で事務を分担し、本部事務局の協力を得て、各書類を期日に提出できたと思う。ただし、延長保育の請求等に関しては間違いが多く保護者に迷惑を掛けてしまった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・安全委員を設け、1ヶ月に1回、各保育室、ホール、園庭等の危険箇所の確認をし、安全委員会の指摘事項に基づき、修理できるところは修理した。
- ・また、園庭整備日を設け、全職員で整備を行った。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・食洗浄機
- ・移動用放送設備一式
- ・会議用テーブル
- ・パソコン 3台
- ・温蔵庫 2台
- ・大型テント
- ・卒園式用のカーテンと演台
- ・遊具棚 10台
- ・畳 8畳

イ 保育用品購入

- ・おむつ台
- ・ベビーベット
- ・保健用ベット
- ・乳児用エプロン 50枚
- ・園児用ソファ
- ・2歳児用の椅子とテーブル

ウ 給食用品購入

- ・食器（夕食用、0歳児用、麺類用80、コップ50）
- ・電子レンジ
- ・乳児用食器乾燥機
- ・高圧洗浄機
- ・電気釜 2台
- ・麦茶ポット 6個
- ・電気ポット
- ・箸（子ども、大人用）

エ 固定資産物品購入

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

- ・保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する。
- ・烏山総合支所との合同訓練は手違いから、できなかった

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・民営化1年目なので異年齢交流事業と中学生の育児体験受け入れしかできなかった。地域根ざした保育園は今後の大きな課題である。
- ・烏山地域の各種保育関係者が集まって作った保育ネット烏山に加わり、入園相談や防災訓練、粕谷児童館でのイベントなどに参加した。

2007（平成19）年度 社会福祉法人雲柱社 ともしび保育園 事業報告

記入者／三幣 典子

年主題 「分かちあう」 法人事業理念 保育理念にそって マタイ14章13節

園舎改築に向けて大きく動いた1年であった。4月に改築の希望を江東区に出し、6月には保育所施設整備計画を申請した。江東区が都内で一番待機児童の多い地域であり、区が積極的に保育所整備に動いていることで追い風を受け19年度中のハード交付金を受けることになった。仮設園舎の予定地も江東区から借りることができた。予想以上に急ぎ足で進んだ為、じっくりと現場の声を聞きながら新園舎の設計を練り上げることはむずかしかった。また、施設見学も例年より多く出かけたが十分ではなかった。改築に際して具体的な委員会を設けて次年度は臨機応変に対応していきたい。

「分かちあう」という主題は乳児には難解だが職員がその気持ちをもって日々の保育にあたることを心がけた。幼児クラスは礼拝からもこの言葉につながる話を多くきき、毎日の生活でも仲間とのかかわりから体験することができた。異年齢交流も昨年にもまして日常的で自然にすすめることができた。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「ひとりひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にすることも

1. ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
2. のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
3. 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
4. さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
5. 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点 *誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。

*子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。

*保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。

*保護者とともに、地域との交流をもって子育ての援助をする。

事業の内容と展開

キリスト教保育 幼児クラスは月に1回位担任がクラス礼拝の話をした。どう子どもに伝えたいのか悩むことが多く難しかったが、そのことが自分の学びにもなった。

幼児カリキュラム・乳児カリキュラムの時にキリスト教保育誌の読み合わせをおこなった。ともしび教会の山口牧師の勉強会は難解であった。次年度は検討するマニュアルの作成 保育・調理・看護・安全管理などそれぞれに委員を決めて作成中。

第三者評価受審 学研R&Gにて受審。利用者調査はおおむね信頼を得ていたが、職員調査は新人が多いためか経営者層との意識の差がでた。自由意見を受けて改善課題を設定し

て取り組んでいきたい。

1. 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：12名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児クラスの受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（特児対象その他：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施 4名

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年4回実施
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施
- ・ 退所児童との交流 年6回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年30日間受入れ 延84名
- ・ 育児相談 随時実施 年間101件
- ・ 保育所体験 年80回 延52組受入れ実施
- ・ 子育てサークル支援 年7回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行790通
- ・ 育児困難家庭への支援（2名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29実施 1名受け入れ

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ	0歳	4名	12名		
りす	1歳	3名	15名		
うさぎ	2歳	3名	19名		
こぐま	3歳	2名	19名		
ぱんだ	4歳	1名	19名	1名	保育アシスタント1名
きりん	5歳	1名	17名		保育アシスタント1名
こあら一時保育	1～5歳	1名	4名		保育アシスタント1名
その他		2名			
合計		17名+4名	101名+4名	1名	パート職員12名

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	24	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児（0歳児） 毎月 一回

幼児 年2回（5月10日、10月4日）

歯科検診 年2回（5月17日、10月11日）

蟻虫卵検査 年2回（5月7日配布、11月12日配布）

年間目標 評価・課題

「のびのびとしなやかに自分のからだを動かして遊ぶ子ども」

- ・ 月々の目標に添って配慮を行なってきた。受診に至る怪我は15件あった。次年度はこの件数をできる限り少なくしていきたい。例年と大きな変化はなかった。病気については今までになかった髄膜炎の発生が1件ありインフルエンザ16件（一月）発生した。単発で発生した病気はあるが、それぞれの子ども達が元気で過ごすことが出来た。
- ・ 安全・衛生面で有効な状況かどうか見直し、快適な環境設定を行なうことが課題である

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
 - ・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・ 生活の見通しを持ち自分の事もクラスの事なども自分たちで気づき、考え助け合いながら生活を送ることができた。
- ・ 気持ちのコントロールが難しく不安定な子ども達との関わりに悩んだが、他の職員から

のアドバイスも受けその子達と向き合い受けとめてきた。Ⅲ期になり周りの人の思いに気づき思いやる姿などもみられ成長が感じられた。

・ひとつひとつの行事を子ども達と考え作り上げる中で、その過程を通して十分楽しみ仲間意識を高めクラスの輪につながった。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

・ 異年齢との交流が多い事で自分たちが今までしてもらった事を自然と年下の子にしてあげる事が多かった。

・ 友達の姿に刺激され、根気よくチャレンジする姿が多く見られ、体力面、精神面においても大きな成長を感じた。

・ 登園時や夕方に寂しくて泣いたり居場所が見つけられずにスキンシップを求めてきたりといろいろなこどもがいたが一人ひとりとしっかり向き合い保育できるように努め信頼関係が築けた。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現せきようになる。
- ② 外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③ 食事・排せつ・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づきか感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

・ 幼児クラスになり子ども達はより友達同士の関わりが深くなり、遊びの面でも生活の面でも共に「分かちあう」ことが多くなった。

・ 1年を通し、基本的な生活習慣を丁寧に見ていくことができた。子ども達は出来るようになったことで自信を持ち、今度はもっとこうなりたいという思いができています。子ども達に伝えていく際、一人ひとりに対して伝え方を配慮して温かい気持ちで見えていけるようにする。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分のきもちを切り替えられるようになる。
- ②身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びのなかで、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

- ・担当制をとり食事面を丁寧に見ていくと共に、自分の主張を担当に出せる関係になれるよう心がけてきた。
- ・ごっこ遊びがひろがるように環境を整えていったが、表現ということに対してはもっと提供していければよかった。
- ・気の合う友達と一緒に過ごすことが楽しくなり友達関係が広がっていったが、トラブルも多かった。保育者がお互いの思いを聞き仲立ちしていくようにした。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③安心できる保育士との関係のもとで食事・排せつ等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心できる大人に見守られる中で、他のこどもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・新入の子が先ず落ち着けるようにと受けとめることを重視した。早い段階で皆が安心してすごし、周りへの関心もひろめられた。
- ・外で遊ぶことをたくさん経験し、土手や神社などでたくさん動き探索活動も十分おこなえた。
- ・気の合う友達が出来、その関係の中から言葉のやりとりや気持ち（思いやる）のやりとりが生まれ人との関係が広がっていく姿がたくさんみられた。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満ちし、情緒の安定を図る。
- ②安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
- ③保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排せつなどの生理的欲求をみたし、情緒の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食に慣れて幼児食への移行を図る。
- ④ 優しく語り掛けたり、発音やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤ 聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・担当保育者との愛着関係をしっかりと作りそこから人のつながりが広がり、その中で安定した情緒で安心して過ごすことができた。
- ・0歳児は保護者にとっても初めての園生活。子どもの成長を共に喜び合い、時に一緒に考え、子育てのよろこびを分かち合ってきた。しかし前半は保育者間の意志の疎通がうまくいかず保護者からのクレームも多くなってしまった。
- ・保育者や友達、周りの物とも様々なふれあいを大切に保育をしてきた。しかし、保育者の知識不足や話し合い不足から環境設定が不十分な面もあった。

こあら組（一時保育）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ② 保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④ 安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 身の回りの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・就労やリフレッシュ、通院といった理由での利用が多く、定員4名の枠を超えて保育を行なってきた。
- ・定期的に来ている子ども達にとってはひとつのクラスのようになっており、互いに登園を楽しみにしたり、育ち合う姿が見られた。
- ・一人ひとりが安心して過ごすことができ、また保護者の方も安心して預けることが出来る場所となるよう心掛け保育を行ってきた。

2007年度実施行事

- 4月 2日 入園式 (80,000円)
- 5月18日 親子遠足 (川口グリーンセンター) (245,000円)
- 6月 5日 子どもの日花の日 (3,300円)
- 7月 7日 夕涼み会 (20,000円)
- 12～13日 年長お泊まり保育 (ファミリーロッジ五日市) (116,000円)

- 26～28日 小中学生キャンプ（五日市青少年旅行村）（620,000円内520,000徴収）
- 7月23日～8月31日 中高生ボランティア受け入れ
- 9月13日 祖父母会（9,700円）
- 10月13日 ファミリーデー（76,200円）
- 11月 2日 いもほり遠足（幼児）（165,000円）
- 11月 6日 収穫感謝祭
- 12月15日 クリスマス礼拝・祝会（乳・幼児：210,000円）
- 21日 地域ともしびクリスマス（地域：円）
- 1月10日 餅つき会
- 3月 6日 大きくなったね遠足（円）
- 3月17日 お別れ会、卒園式（257,000円）
- 月例行事 誕生会（80,000円）

年間行事 評価・課題

幼児親子遠足は5月第三金曜日が固定しつつある。今回は保護者が現地で怪我をしてしまい保険の対応ができずしばらく治療費を支払う。保護者の園行事参加時の事故対応は検討課題である。クリスマスは地域の乳幼児と小学生を2日に分けて行ったので余裕をもって行なうことができた。進級式は年度の最後にして部屋の移動はしても最後まで担任と過ごせるようにしたので落ち着いて生活することができた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

食事年間目標

- 1 食べ物の大切さ、食事の楽しさ、感謝する気持ちを伝える。
- 2 クッキングを通して作る事の楽しさを知る。
- 3 食育を通じて「食」に興味を持つ。

栄養管理 評価・課題

・子どもと一緒に食事をする事で、楽しさ・感謝・大切さなどを日々の生活の中で伝えることができた。クッキング保育は保育と調理で連携をとりながら年齢に添って進めていくことができた。食育としてクッキングだけでなく、栄養指導なども行なっていきたい。

カ 安全管理

犯罪防止安全教育 危機管理アドバイザー国崎信江氏講座（子ども・大人対象）1月25日

非常災害時の避難訓練 毎月一回

引き渡し訓練の実施（9月1日） 緊急時・災害時カードの導入

危機管理マニュアルの整備

安全管理 評価・課題

法人保育ブロック共通で緊急時・災害時カードを導入した。園内外は安全委員を中心に毎月

安全チェックリストで点検を行い、環境整備をしてきた。次年度は6月より仮設園舎での保育になるので例年以上に安全対策を強化していく必要がある。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	15名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤医師・歯科医師）
臨時職員、パート職員	11名

イ 健康管理

健康診断 年 2回（5月、10月）
細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回
行事前打合せ会（随時）
期別反省会（年3回） 年度末会議6回

会議 評価・課題

・毎月の職員会は時間が延長することが多かった。議題を整理して課題を絞り効率よく話し合いを進めていくにはどうしたらよいか。司会と職員の意識も高めていく必要がある。また、3月に年度末の会議が集中しているのでこの点も整理していきたい。

エ 研修計画

- ・園内研修 年5回
- ・法人内研修 階層別・職種別研修
- ・私保連カウンセリング研修 3名参加
- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連東京私保連などによる研修

研修 評価・課題

改築のため施設見学を多く取り入れた。法人の年齢別研修は乳児クラスだったが、学んだことを現場で返すことが課題として残った。改築に向けての研修や話し合いが多かった為、例年より民間保育園協会や東社協の研修に送り出すことが少なかった。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

- ア 会計事務、管理事務
 - ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
 - ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

- イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）
 - ・保育指導計画等の作成
 - ・給食献立表等の作成
 - ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

主任が交代して、園長・新主任・事務（非常勤）の3人で事務関係の分担をしていく。小口現金・業者支払い・超過勤務集計など3人で確認して本部に送る前にミスが減らすようにしてきた。法人事務局の改編もあり、より効率よくミスなく報告していく為の組織作りが今後も課題である。

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検

- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新
 - ・給湯器故障により給湯器設置（480,000円）
 - ・水道管修理（110,000円）
 - ・電気配線工事（54,000円）
 - ・きりん組ドア修繕（25,000円）

設備関係 評価・課題

改築が決まったので設備には手をかけないでいたが、老朽化による故障で水道やガスの修繕がどうしても必要であった。保育に支障がでるものには工事をしたが、雨漏りなどはそのつどしのいできた。

(3) 備品関係

- ア 備品購入
 - ・パソコン購入（154,700円）

- イ 保育用品購入

- ・ 各クラス遊具類ほか (177,300 円)
- ・ 年長クラスロッカー (480,000 円)
- ・ 新年度準備用品 (425,000 円)

ウ 給食用品購入

・

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

備品では改築後でも使用できるものを購入した。FAXや印刷機はリース期間をだいぶ過ぎ買い替えの時期であったが購入を控え改築後まで見合わせた。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

避難降園訓練(引き渡し訓練)9月1日

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

(99+21)×3食×(1日)分 (アルファ米、水、缶入り味噌汁、乾パン)

災害対策 評価・課題

災害用の食料備蓄は9月の避難訓練の時期にあわせてアルファ米を子どもの給食で出していた。賞味期限があるので毎年少しずつ食べて買い足していきたい。

3 地域社会との連携

- ・ ともしび伝道所、コーラスともしび(中高齢者コーラス活動)との交流、園行事の参加
- ・ 東陽・大島・深川北・南砂子ども家庭支援センターとの連携
- ・ 発達センターCOCOとの連携
- ・ 2砂中、4砂中、都立東高、YMCA保育専門学校をはじめとする地元の中高生や保育を学ぶ学生ボランティア受け入れ

地域社会との連携 評価・課題

東砂町会の防災訓練に園長が参加して近隣社会との関係を深めた。改築に向けて園周辺の方々1軒1軒に挨拶に回り改築工事への同意書をいただいて回った。また、仮設園舎の地域(南砂中央町会)町会長や近隣にも説明に行き工事に対する理解を求めた。実習生はみずべボランティアの方々を受け入れたりして中学生からお年寄りまで様々な世代の方々と

子ども達に関わることができた。

4 その他（特記）

育児困難家庭を受け入れ、子どもとその家族を支える為にネットワーク会議に参加してきた。江東区も要保護児童対策協議会を発足させ、9月には虐待対策ネットワーク会議について江東区医師会シンポジウムにて保育園を代表して話をする機会が与えられた。ネットワーク会議にかけないものでもDVを疑うケースなどは随時、支援センターに連絡をしてアドバイスをいただいたり、関係機関と連携をとりながら進めてきた。

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 光の園保育学校 事業報告

記入者／松長とも子

前文

- 人事面では、烏山保育園の民営化に伴う、異動や退職など動きがあったが、平均経験年数は、昨年とかわらず、6年である。
- 第三者評価を受審し、アンケートからは（保護者、職員）概ね良い評価をいただいたが、まだ結果は出していない。結果を待つより、改善できるところは、園内研や職員会で内容を話し合い改善に努めた。
- 環境の見直しは継続的に行っている。定期的に環境チェックリストやヒヤリハットを用いて検討をし、できるだけ早期に、改善するようにした。その結果、大きな怪我を防ぐことができた。また、パート職員の方と共通認識しあうことが必須であるため、今年度は、法人のパート研修が年2回行われたため現場サイドでの研修は、1回に止めた。第三者評価のアンケート結果等をふまえ、共通認識がもてた。また、意見交換を通し、沢山の情報を得、現場に生かすことができた。
- 新規事業の2時間延長保育も 年目を迎え、利用者数は月平均4～5名と定着し、必要な事業になっているが、職員にとっての事業の目的や意味についての理解が不十分だったということで数回にわたり話し合いを重ね、理解を深めカリキュラムの見直しをしたり、仕事量の調整をした。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（特児対象：1名、その他：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年12回実施
- ・ お年寄りとの交流 年28回実施
- ・ 退所児童との交流 年7回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年45日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・60人受入れ実施
- ・ 調理講習会 年3回
- ・ 外国人児童受入れ（7名受入れ在籍）

- ・年末保育 12/29実施 20名
- ・在宅支援 パートナー登録者 52名
- ・出前保育 年8回 1回につき約100名

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ組	0歳	6名	18名		
もも組 さくら組	1歳	4名	24名		
たんぼぼ組 すみれ組	2歳	4名	24名		
ちゅうりっぷ 組	3歳	2名	28名		
ばら組	4歳	2名	28名		
ゆり組	5歳	2名	28名	1名	
	その他	リーダー(0才乳児幼児)			
合 計		21名			

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 296日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	24日	24日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月 1回
- 幼児 年2回(6月、10月)
- 歯科検診 年2回(5月、2月)
- 蟯虫卵検査 年2回(6月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組(5歳児)の年間目標

自然環境に働きかけ、よく見たり触れたりためしたりして遊ぶ。

友達の良さを認め合いながら個々の力を十分発揮する。

年間目標 評価・課題

、短い時間ながら集まりの会を定例にし、設定された活動と自己選択活動とのバランスをとりながら、子どもたちにとって居心地のよい場所になるように今年度もデイリープログラムの見直しをしながら進めた。年長児が行事の中心にいて進めていくことが多いため、行事の為の仕事となって、余裕がないかたちで生活してしまうことの反省がたくさんあげられた。行事の内容を見直しながらも、行事の為の行事にならないよう、見通しをもって生活できるために、次年度の担任に引き継ぎノートをいかして行く。また、年長児の役割が普段のなにげない生活の中で次年齢児に引き継がれていることは良いと思われる。

ばら組（4歳児）の年間目標

いろいろな活動を通して友達や保育者との関わりを深めて楽しく遊ぶ。

生活の決まりを守り、良い生活習慣を身につける。

年間目標 評価・課題

担任2名共持ち上がりではなかったが新しい関係を築きながらクラスとしてのまとまりがもてた。4月当初は、子どもたちの方にばかり気をとられ保護者との対応が少なかったため、苦情もあったので、月1回はこちらからクラス全員の子どものようすを連絡帳に書くことにした。その様な事もあり、親からの信頼を得られた。（連絡帳に関しては3歳、5歳児クラスも行うことにした）3歳クラスから気になる存在の子どもがいるが、保護者と年3回、区から派遣される、心理相談員をふくめて、話し合いがもたれ、良い方向に進んでいる。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

基本的な生活習慣を身につけ、何でも自分で行おうとする。

いろいろな行事を体験し、園生活の楽しさを知る。

年間目標 評価・課題

28名の集団の多さは、毎年の課題だったので、年度が始まる前に話し合いをして、担任を2週間シフトからはずし、小集団で生活ができるよう整えたことがスムーズなスタートに繋がった。今後光の園の3歳児保育として定着するよう話し合われた。子どもたち、自らができる仕事が徐々に増えるように年間指導計画に記してあるが、かばん掛けが子どもにとって使用しにくい姿があるので、検討をし、来年度からは、棚を入れることになった。

たんぽぽ組 すみれ組（2歳児）の年間目標

基本的習慣を身につける。

いろいろな経験を通して、いろいろな言葉を習得し、言葉で表現しようとする。

遊具や運動用具を使ったり、いろいろな運動遊びを通して、運動機能の発達をはかる。

年間目標 評価・課題

雨の日の散歩や昨年から始まったお散歩にも持って行けるバックを作成するなど豊かな生活になるような実践が見られた。

自己主張の激しい年齢なので、クラス担任のみの対応は無理があるためクラスの枠を超えた対応が出来るよう連携を努めた。

もも組 さくら組（1歳児）の年間目標

自分でしようとする気持ちを大切にしながら、基本的な生活習慣を身につける。

保育者に親しみ、感情を素直に交流して機嫌良く過ごす。また、友達にも関心を示す。

年間目標 評価・課題

トイレが部屋続きでないもも組がどうしたら安定した生活になるのか、職員の動き方を検証しあった。見通しをもつ為に、役割分担の内容を決めた。手作り遊具をふやすなど、環境を整えた。室内遊びの時、特に、噛み付き、ひっかきなどのトラブルが多いので室内環境に力を入れて取り組んだ。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

保育者との親密な関わりを基礎に安定した人間関係が芽生える。

活動しやすい、くつろいだ環境の中で歩行を目指し、いろいろな運動を楽しむ。

言葉以前の様々なサインをしっかりと受け止めることができ、自己表現が活発になる。

年間目標 評価・課題

子どもの様子や保護者からの苦情等は、分園のリーダーを通し、細やかに報告があがってくるので、早期対応ができ、大きな問題になることはなかった。ただ職員のメンタルケアの点で、職員間の協力態勢についてお互いの努力が大きかった。担当制の基本的な考えは昨年同様、プラスの面とマイナス面を具体的な場面に応じて検討した。

2006年度実施行事

- 4月1日 入園式
- 5月25日 幼児親子遠足
- 6月14日 子どもの日花の日
- 7月1日 プール開き
- 7月12日 お泊り保育（年長）
- 13日
- 7月20日 お泊り保育（年中）
- 21日
- 9月8日 創立記念日
- 9月14日 祖父母招待会
- 10月6日 ファミリーデー
- 10月19日 いもほり遠足（5歳児、4歳児）

- 1 1月15日 収穫感謝祭 お料理パーティー
- 1 2月15日 クリスマス礼拝、お楽しみ会
- 1 2月27日 餅つき
- 2月29日 お別れ会食事会、
- 3月15日 卒園式
- 3月19日 お別れ遠足

月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

5月の幼児親子遠足については、3歳児クラスを別の日に行ったほうが良いという案もですが、日程が難しく、実現が困難。総勢170名（保護者を含む）雨の日でも行うことができる場所を検討した結果栃木わんぱく公園に、来年度は行くことに決定。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ アレルギー児の代替食対応がふえているなかで、度々、誤食があったのでチェック体勢の改善や個人献立表作成をおこなった。
- ・ 調理と保育との連絡を密におこなった。
- ・ 食育やクッキング保育は年間カリキュラムをたて調理と保育とが連携し、見通しを持って進めることができた。今年度は他園で好評だったさんまを焼いて食べ、食育という視点からでも良い経験となった。

カ 安全管理

交通安全教育（ 月 日）

非常災害時の避難訓練（ 9月 1日）

引き渡し訓練の実施（9月 1日）

安全管理 評価・課題

環境整理マニュアルに基づいて定期的に点検をしている。

引き渡し訓練を今年度は、消防員立会いのもと、横川公園での引き渡しをおこなった。臨場感がありいつもより、保護者の協力を多く得られた。保護者の方も広域災害には危機感をもっているため、園便りにも、避難場所等を詳しく記載した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	21名
調理員	4名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	26名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回
 細菌検査 年 1～2 回
 給食、0歳児調乳担当のみ毎月 1 回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回
 行事前打合せ会（随時）
 0歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議(月 1 回)
 期別反省会（年 2 回）

会議 評価・課題

会議の目的にあわせ、十分生かすことができた。（各マニュアルの共有化）反省点としては、会議に出ていない職員が、議事録をきちんとみているのかどうかの、チェック機能の甘さがあったので改善していく。

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 年 5 回 約 5 万円
- ・法人内研修
- ・保育団 全国私立保育連盟研修参加 約 20 万円
 墨田区保育協会主催の研修（年 5 回）約 2 万円
 東社協の研修

研修 評価・課題

、園内研での研修がスキルアップにつながるような充実した学びあいをした。特に社会の現状認識や子どもへの関わり方や保護者との関わり方として、1日研修を企画し、他園の方数名も加わり「アサーション」対人援助技術の学びをおこなうことができた。

オ 退職・福利厚生

退職 2008年3月31日付 田中円佳
 中島 治
 塚本仁平

坂木綾乃

異動 2008年 4月1日付 松原万紀子（平野児童センター）へ

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・ 第三者評価を受審の結果はまだ出てないが、アンケートのところだけは手元に届いているので、職員内で研修し、改善できるところは、即実行している。
- ・ トータルネットの導入のため、保護者懇談会で説明し早めに準備を始めたのに、かなり時間がかかってしまった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

なし

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ 4、5歳児の保育室の間仕切り敷居改修工事
- ・ 給食室給湯配管改修工事、排水溝工事
- ・ 4、5歳児トイレ便器取替え
- ・ 図書室の壁や床などの内装工事

設備関係 評価・課題

- ・ 調理室内の設備としての保管庫が小さいため、地域活動にも支障があったので、給食室に入れられないものを、2階の調乳室の保管庫に入れて対応することができた。
- ・ 冷暖房器具が使用年数を超えているため、頻繁に故障する。来年度には、何らかの対応が必要と思われる。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・ 分園用パソコン 1台
- ・ 本園用ファックスつきカラーコピー 1台購入
- ・ 分園用ファックスつきコピー 1台購入

イ 保育用品購入

- ・ 各クラス用遊具

ウ 給食用品購入

- ・ 2階調乳室の食器洗浄機、食器保管庫設置

エ 固定資産物品購入

- ・ 電動式日よけシート設置

備品関係 評価・課題

調理室が狭いため、午前に使用する、乳児クラスのコップの洗浄や保管の仕方に衛生上の問題があったが、2階調乳室の環境を整えることができ、解決ができた。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

- ・ 各クラスの大人用ヘルメットと非難袋を購入し備え付ける。

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

備蓄している物の賞味期限を定期的（年1回の引き取り訓練に合わせて）に点検している。

防犯訓練が未実施なため、来年度の課題である。

3 地域社会との連携

- ・ 東駒形教会、賀川記念館との連携
- ・ 「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流
- ・ 墨田福祉保健センター「みつばち園」とのネットワークを強めていく。

地域社会との連携 評価・課題

・特殊建築物調査の指摘事項として 1、階段部分が現法規に適合した竪穴区画となっていない 2、非常照明が未設置となっている。等々の改修工事のためコンサルタントをふくめた話し合いをおこなっている。工事は来年度の5月の連休を予定している。

4 その他（特記）

2007（平成19）年度 社会福祉法人雲柱社 黎明保育園 事業報告

記入者／秋山 幸美

黎明保育園の保育方針の三つの大きな柱は、キリスト教保育・統合保育・全人保育である。各クラスとも保育方針に基づき年度の初めに大切にする保育目標をクラス懇談などで伝えた。又職員会の度に事業目標の読み合わせをし、雲柱社の職員として福祉に携わる事を自覚する様に心掛けている。

一時保育は5年目を迎え、夏頃より毎日10名を超える利用があり在宅での子育て家庭への支援が益々必要になっている。一時保育の「子育て情報誌」を年10回発行し、児童館や保健所で一時保育のアピールをおこなった。毎月の出前保育も定着してきており、地域の中で重要な役割を担っている。地域活動では、「出産を迎える親」を対象にした、スリング講座、赤ちゃんマッサージなどの取り組みを何度か入れた。夫婦で参加する家庭も増えて来た。今後も引き続き取り組みたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（1歳以上児受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（特児対象：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年62日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・60人受入れ実施
- ・ 出前保育 年12回実施
- ・ 子育てサークル支援 年3回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年10回発行
- ・ 育児困難家庭への支援（1名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（3名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	3	10		
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	18		
ひつじ	3歳	2	17		
ぱんだ	4歳	1	18		
きりん	5歳	1	19	1	
合 計		13	97	1	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 296 日
25	23	26	25	27	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	25年未有	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

乳児・幼児 年2回（6月、11月）

歯科検診 年2回（6・11月）

蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ・心身ともに健康な体で意欲的に過す ・友達同士認め合い、力を合わせて活動する
- ・自分で考え表現する・自律して生活する ・イエス様と共に生きる

年間目標 評価・課題

グループ活動を中心に協力して活動する事を年間を通して大切に考え、取り組んで来た。グループの中でリーダーを決め、取り組みをする時はグループで話し合う時間を作り、自分達の考えた取り組みが出来る様に進めた。1学期から乳児クラスに手伝いに行くなど異年齢での交流を大切にした。2学期からは3歳児を含めた縦割り活動を取り入れた。お別れ遠足などの活動では縦割りグループでの行動を主体にした。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・友達と一緒に充分遊ぶ。・自分の持っている力を出し合って行動する。
- ・物事に関心を深め、考え表現する。・基本的生活習慣が身につく

年間目標 評価・課題

年間を通してグループでの活動を大切に考え展開して来た。子ども同士の関わりが上手くいくように保育者は適切に遊びに入るようにした。集団でルールのある遊びが随分出来るようになってきている。子ども同士のけんかなどは、出来るだけ自分達で解決出来る様に見守る様にした。食事の後の片付けや掃除も自分達で出来るようになり、今何をしなければならぬか自分で考えられるようになって来ている。2学期より3・4・5歳の縦割り活動を

週1回位入れるようにして来たことで、自分達のクラスだけでなく、低年齢のクラスにも気使いが出来る様になって来ている。

ひつじ組（3歳児）の年間目標

- ・自分で出来ることは、自分でする。・体を使ってよく遊ぶ
- ・友達の中で充分遊ぶ。・自分の思いや感じた事を言葉で伝える。

年間目標 評価・課題

保育者と関わりを築く中で、子ども同士の関係も充実してきている。ごっこ遊びが盛り上がり自分達で発展させていく事が出来るようになって来ている。絵本やお話の中の出来事を遊びの材料にし、展開する姿が見られる。女の子達の遊びは充実している。

男の子の中で大事な時にふざけてしまう姿が見られ、今後の取り組みの課題である。

こあら組（2歳児）の年間目標

- ・自分のことは自分でしようとする。・周りの人に興味を示し、要求を言葉で伝えようとする。
- ・遊びに集中し楽しむ。・全身を使った遊びを楽しむ

年間目標 評価・課題

子ども達同士でイメージを共有して遊べる事が多くなって来た。言葉での遊びのやり取りも随分上手になって来ていると感じる。が、まだやりとりがうまくいかなくて手が出てしまう事がたまに見られる。今後も見守る必要がある。生活習慣は自分でしようとする姿が多くなり自立に向かっている。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

- ・よく食べ、よく眠る。・欲求や要求を行動や覚えた言葉で表そうとする。
- ・全身を使った遊びを楽しむ。・自分の興味のある物で遊ぶ。

年間目標 評価・課題

月齢にとらわれず、一人一人の育ちを見て無理の無い生活や関わりを大切にしてきた。子どものやりたい気持ちを大切に時には見守りながら待つことも意図的にしてきた。子ども同士の関わりが深まる中で他児の存在の大切さを伝えたり、思いやりが育つ様な働きかけをしてきた。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過す。
- ・発達にあった手足、身体の動きが見られるようになる。
- ・個々の要求や欲求を表し求めようとする

年間目標 評価・課題

甘えたい子どもの気持ちに寄り添う保育を大切にきて来た。前半は、担当制を大切に考え食事は担当の職員が行なえる様にした。その結果、大人との愛着関係が出来、無理なく毎日の生活をおくれている。保護者との信頼関係を築けるよう日々、会話や連絡帳を通したコミュニケーションを大切にきて来た。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・意欲と主体性を持って共に生きる。
- ・一日の生活を無理なく、楽しく過す。

年間目標 評価・課題

開所5年目を迎え、4月より保育料が下がったこともあり、比較的コンスタントに予約が入るようになった。夏以降は利用者が毎日10名を超え、キャンセル待ちが発生する日が多かった。保護者のニーズに応じた保育をしているが、その日にくる子どものペースや生活を大切に考え、無理のない保育を心がけていった。又、利用者の子育て相談にも関わりをふやしているが、後半は多人数の保育に追われ十分に受けられなかったと感じる。又、保育者の都合で11月より担任が入れ替わることがあったが、利用者や子ども達を不安にさせない様に心掛けた。

2007年度実施行事

- 4月 2日 新入園児歓迎会・11日イースター礼拝・22日害虫駆除
- 5月 12日 親子遠足（幼児）
- 6月 2日 親子遠足（乳児）
- 6月 13・14日 こどもの日・花の日礼拝訪問
- 7月 1日 プール開き・8月2・3日お泊り保育

- 7月 25・26日 学童・卒園児キャンプ 26日 音楽会
- 9月 7日さんまの日
- 13日 おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会・害虫駆除
- 28日 芋ほり遠足
- 10月 13日 運動会・19日 焼き芋大会
- 11月 10日 おまつり広場21・22日 収穫感謝祭礼拝・豚汁パーティー
- 12月 15日 クリスマス礼拝・祝会
- 1月 10日 もちつき会
- 2月 7日 シルエット劇場
- 2月 29日 幼児お別れ遠足
- 3月 1日 地域活動リトミック
- 3月 27日 進級式
- 月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

年間を通して滞りなく行われた。年度の初めより計画的に進めることが出来た。幼児クラス担任の力量が年々積み重なっていると感じる。昨年度の反省を基に適切にプログラムが行なわれており特に年長組の取り組みが充分に行なわれていた様である。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して食育に力をいれてきた。魚の姿煮、、空まめ、とうもろこしの皮むき、野菜の栽培など実際に眼で見て楽しんで食べることを大切にしてきた。又、幼児はクラスでのクッキングも定期的に入れ、自分達のおやつなども手作りした。年長児は4月より、米を研いで炊く経験もし、ご飯が炊ける匂いに感動していた。今後も取り組みを進めて行きたい。

カ 安全管理 毎月1日安全点検

交通安全教育（ 月 日）

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

環境教育、ゴミ処理を通してリサイクルの大切さを学ぶ（9月）

安全管理 評価・課題

防犯訓練を定例化する事で、危機意識も高まり防犯に対する意識は年々高まっていると感じ

る。職員の連携やチームワークが必要であると感じる。いつも備えをしておけるように心掛ける。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	16名
調理員	4名(栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名(非常勤)
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断	年	2回(6月、11月)
歯科検診	年	2回(6月、11月)
細菌検査	年	12回
ぎょうちゅう検査	年	1回

ウ 職員会議

定例会	毎月	1回
行事前打合せ会(随時)		
乳児・幼児・食事カリキュラム	月	1回
期別反省会	年	2回

会議 評価・課題

職員会は毎回議題を前もって公開し、会議が効率よく行われるように心がけた。幼児・乳児カリキュラムも同様である。行事のうち合わせと反省がうまく機能していないのが、今後の課題といえよう。

エ 研修計画

- ・園内研修(2回)
- ・法人内研修
- ・葛飾区子育て支援課・葛飾区私保連・全私保連・厚生労働省・東京都社会福祉協議会ムジカ教育研究所

研修 評価・課題

キャリア別に研修を組みスキルアップできるようにした。希望も入れたが、あえて目的を持って研修に臨んでもらう。研修後は報告の時間をとり、職員みんなで共有できるようにした。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

定期的に事務仕事を効率よく行なえる様に心がけた。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

園庭の固定遊具のメンテナンス

イ 老朽設備の点検、老朽箇所を更新

設備関係 評価・課題

大規模修繕より18年が経過し、夏に0歳児クラスのエアコンが壊れるなど暑い中大変であった。修繕に日数がかかり、教会の多目的ホールで数日過す事になった。又壁紙が大変に汚く、保護者から苦情があったこともあり、全クラス張り替える。2年に一度の床のワックスがけを行なう。又屋上から雨漏りがするなどしており、修繕の計画中である。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入
プロジェクター

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

プロジェクター購入（3月）

(4) 災害対策

ア 避難訓練
毎月1回

イ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

非常食の入れ替えを行なっている。毎年葛飾区より補助金がでている。

3 地域社会との連携

おまつり広場、地域活動、もちつき会、保育ボランティア活動、卒園児学童キャンプ
運動会、卒園式、一時保育登録児クリスマス

地域社会との連携 評価・課題

行事を通して地域の方を招いたり、逆に地域の行事にも出向くように心がけた。少しずつ地域の信頼を得られているように思う。又、一時保育・出前保育でも在宅子育て家庭への支援を益々堅実なものにしている。

4 その他（特記）

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 高根学園保育所 事業報告

記入者／土屋 恵子

前文

- 入所希望者が増え、定員 120 名のところ年度末は 130 名になった。
- 園舎改築に伴う返済金、利息分について心配したが、今年度は園児が増えてきた為、予定どおり償還できた。
- 内定していた1年雇用の臨時調理師が、病気の為辞退となった。この為緊急処置としてパート調理師2名で対応した。人を探すのに苦勞をした。
- 子育て支援の利用者が昨年に引き続き 5,000 人を超えた。地域に口コミで広がり、特に 0 歳1歳児利用者と2人以上の子どもを持っている利用者が多い。来年度より1時間開所時間を増やし5時間とする。
- クリスマス会の保護者等の参加者が増え、ホールに入りきれなくなっている。今後、会場変更か人数制限をかける等検討をしていく。
- 年間を通して、御殿場教会中島牧師に講師を依頼し、キリスト精神について(神中心について)学習会を月1度実施。合わせて職員会時に牧師に来ていただいてメッセージをいただき、その後会議に臨んだ。

1 施設運営

(1)実施事業

ア 特別保育等

- ・産休明け保育実施 3名
- ・延長保育実施(1時間延長)年間延べ1,091名利用
 - ・延長保育事業(零歳児の受入れ)年間延べ88名利用
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・育児講座 年6回実施 226名参加
- ・お年寄りとの交流 年8回実施
- ・退所児童との交流 年4回実施
- ・小中高生の育児体験受入れ 年間受入れ延べ186名
- ・育児相談 随時実施
 - ・保育所体験 年5回、26人受入れ実施
 - ・子育てサークル支援 1才児クラブ10回、2才児クラブ6回、その他の活動5回
 - ・子育て情報誌の発行 年12回発行
 - ・外国人児童受入れ(6人)

(2)児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	3	6		途中入所があった為、
たんぼぼ	1歳	3	16		年齢区分による人数と
ひまわり	2歳	3	21		保育士数が異なる
もも	3歳	2	27		
すみれ	4歳	1	30		
ゆり	5歳	1	30		
	その他	2			子育て支援
合 計		15	130		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24	23	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	24	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 年2回(5月、 10月)

幼児 年2回(5月、 10月)

歯科検診 年1回(5月)

蟯虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組(5歳児)の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

行事を行っていく中で子どもたち、それぞれが得意だったり、努力してできるようになったことで、周りの友だちに認められ、自信につながって自己発揮できるようになった。特に目立たない子に対しては、自信を持たせるような言葉かけをするよう心がけていった。自信をつけた子どもたちの伸びていく力を感じることができた。自主性を育むという点でもう少し工夫ができれば良かった。

すみれ組(4歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事からにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする

年間目標 評価・課題

自分からうまく伝えられない子には、保育者から積極的に一人ひとりの声にしっかりと耳を傾けていき、気持ちを受け入れていくよう心がけた。そのため、色々な話をしてくれるようにもなったが、子どもが皆の前で話す機会をもっと持ち、子どもたちが一人の話に共感できる場をもっと増やしていけたら良かった。

もも組(3歳児)の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

4月当初からクラスの子どもたちが集まる時間を利用して、生活面についていねいに伝えていったので、基本的な習慣をしっかり身に付けることができ、当番活動も喜んでできるようになった。自然物に触れ合う機会が多くあったが、それを利用した製作活動もできるとよかった。

ひまわり組(2歳児)の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。

- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

戸外での遊びを充分に行う事ができた。季節にあった遊びで自然のものをもっと取り入れられると良かった。子どもが興味を持ったものに遊びが広がるよう玩具を用意して環境づくりをしていたが、もっと手作りのおもちゃや数を多く用意できると良かった。

たんぽぽ組(1歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち、もつ。

年間目標 評価・課題

ふれあい遊びを多く取り入れたことにより信頼関係が強くなり、園生活に慣れるのが早かった。総合遊具での遊びも活発になり、散歩では手をつないで行けるようになった。室内のおもちゃとしては、手作りのおもちゃをもっと増やすことができたなら良かった。

ちゅうりっぷ組(0歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

安全な遊びを常に心がけ、手作りおもちゃでは一度ためしめて、危なくないことを確認してから用いることにした。月齢に合ったおもちゃを用意するという点では、もう少し発達段階を検討すべきだった。

2007 年度実施行事

- 4月 4日 入園式
- 5月21日 春の親子遠足 24日 さつまの苗さし
- 6月 7日 花の日の礼拝と訪問 27日、28日 保育参観
- 7月11日 花火教室
- 7月25日 卒園生のつどい
- 9月22日 運動会
- 10月 3日 秋の遠足 6日 学園まつり 17日 芋掘り・焼芋大会
- 11月 8日 幼児祝福式 22日球根植え・ゲートボール大会 26日収穫感謝祭 12月20日
もちつき 15日 クリスマス会 18日 イブ礼拝
- 1月 7日 雪あそび
- 2月 2日 お茶会 26日 観劇 27日 昔のあそび
- 3月 4日 ふれあいピクニック 15日 卒園式
- 月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

餅つきについては、近くの高根農協の職員と卒園生(農協の職員)が協力して下さり、餅米、器材持参で行った。これからも継続予定。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年1回
給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

給食献立をしている市の管理栄養士に依頼し、「食事について」というテーマで講演会を実施した。保護者の関心が高く90名余となり、合わせておやつを試食をした。

カ 安全管理

交通安全教育(7月6日、10月31日)婦人交通指導員によるおはなしと実技
非常災害時の避難訓練(11月7日)
引き渡し訓練の実施(11月7日)

安全管理 評価・課題

災害時に備えて毎月1回御殿場市地域防災無線通信訓練を行っている。

(3)職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	15名(短時間パート2名含む)
調理員	3名(短時間パート1名含む)
事務員	1名
嘱託医	2名(非常勤)

イ 健康管理

健康診断 年 1回(11月と1月に分かれて)
細菌検査 年24回
調理師、保育士 毎月2回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回
期別反省会(年 4回)

会議 評価・課題

会議に先立ち牧師から聖書の話を書いた後に、会議を開いた。この為、職員が何を大切にしてい
くべきかが理解でき、積極的な意見が出やすくなってきている。

エ 研修計画

- ・園内研修
- ・法人内研修
- ・保育団体研修(県保育所連合会、市保育の会等 その他研修)

研修 評価・課題

御殿場教会の中島善子牧師を招いて、聖書の学びを行った。「神中心という事」このテーマで
聖書の学びを行った。法人内研修参加者は研修レポートを提出して、それを全職員に回し職員
に伝達研修ができた。保育団体研修にも積極的に参加し、資質を高め共有化を図った。

オ 退職・福利厚生

独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務(保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

特に問題はなかった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

ワールド社に遊具の点検を依頼、異常はなかったが、その後グローブジャンルの回転時に異常音がした為、修理を実施した。

(3) 備品関係

ア 備品購入

住宅地図	15,750	
レスキューセット BOX	67,000	
救護用木製折りたたみベッド	64,000	

イ 保育用品購入

ボール入れワゴン	24,000	
絵本スタンド	38,500	
おむつ台	75,000	
安全マット	13,650	
はねあげ式画用紙乾燥棚 2 台	147,000	単価 73,500 円

ウ 給食用品購入

給食ワゴン	53,000	
-------	--------	--

エ 固定資産物品購入

なし

備品関係 評価・課題

検収の結果、すべて問題がなかった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○(全園児数+全職員数)×3食×(1日～3日)分

災害対策 評価・課題

ツナ缶、乾パン、140名×3食×1日分 飲料水2日分

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

緊急一時保育、地域老人クラブとの交流、子育て支援センター等幅広く地域との交流を深めることができた。たくさんの方々が保育園を利用した。

4 その他(特記)

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 狛江市子ども家庭支援センター事業報告

記入者／佐藤 洋子

指定管理

狛江支援セ

評価と課題

5年間の中で少しずつ形は変えながらも、子育てくらぶを中心に市内の乳幼児親子が集う場としての役割を大きく担ってきた。その中で利用者同士が繋がるピアカウンセリングの場として、また話を聴いてくれる、相談できるスタッフがいることで、少しでも育児不安解消につながるよう関わりを丁寧にしてきた。これからも親子の生の声に耳を傾け、親同士が支えあえる仲間作りを支援していきたい。また、来館の多い0歳児親子の居場所を設定し、できるだけ手作り遊具を増やし、家庭的で清潔な環境づくりを心がけた。

後半は、19年4月より新事業の先駆型子ども家庭支援センターの実施を見据え、体制作りを行った。先駆型の機能がどこまで地域と連携する中で果たせるか、また、センターとしてどこまで地域のニーズを掘り起こすことが出来るか、課題はたくさんあるが学びながら前に進めていきたい。

1 相談事業

2 サービス提供

1 一時保育事業

保護者の様々な理由により、一時的にお子さんを家庭で見ることができなくなったときに、児童を預かる。

- ・対象 生後57日から3才未満の健康で集団保育が可能な児童
- ・期間 7日以内（事情により最長15日間）
- ・時間 午前7時30分～午後6時の間の8時間
- ・施設 市内家庭福祉員宅
- ・費用 一日児童一人につき1,500円（減免措置あり）
- ・定員 家庭福祉員の空き定員のうち1名以内
- ・実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用数	8	3	7	3	11	4	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用数	4	11	8	3	11	12	85

2. 子どもショートステイ事業

保護者の社会的事由等により児童を一時的に宿泊も伴う等の保護をする。

- ・対 象 2才から12才までの健康な児童
- ・期 間 7日以内（事情により最長30日間）
- ・施 設 児童養護施設 二葉学園
- ・費 用 一日児童一人につき2,000円（減免措置あり）
- ・定 員 2名以内

・実 績 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用数	0	1	5	9	3	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用数	0	4	5	0	3	0	27

3 育児支援ヘルパー事業

出産前後育児や家事が困難で、これにかわりにしてくれる人が身近にいない家庭に対し、ヘルパーを派遣し、母親の精神的・肉体的負担を軽減し、産後の生活を支援する。

- ・対 象 産前1ヶ月、産後3ヵ月以内の、家事や育児などを手伝ってくれる人のいない家庭
- ・期 間 15日以内（多胎の場合は別に1年以内15日間追加可）
*要支援家庭については、上記とは別に20日間
- ・費 用 1時間1,000円
- ・実 績 年間利用者 人

4 地域組織化事業

① おたのしみタイム（毎月1回）

季節に合わせた遊びや製作を親子で楽しむ。季節行事を行う月はお休みとする。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
参加数	10	10	8	12	お休み		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加数		13	お休み	8	13		組

② ふれあいタイム（毎月2回）

親子のふれあい遊びの後、紅茶をふるまいながら保護者同士の座談会を行う。
特に0歳児の参加が多かったが、時には異年齢の親子が関わる良い機会となる。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
参加数	22	28	38	32	29	28	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加数	26	26	28	24	27	10	318組

③ あいとぴあ出張育児相談

年に2回あいとぴあ（市内の保健センター）より保健師・歯科衛生士・栄養士などが来て、身長・体重測定や育児相談を行う。

4月25日 18組

11月28日 33組

④ 中川さんと話そう（年4回 土曜日 定員15組）

⑤ ファミリーDAY～お父さんと遊ぼう～（月1回 土曜日）

⑥ 子ども服リサイクル（年3回）

⑦ 誕生会

2 たんぽぽ・ひまわり相談事業（個別相談事業）

・開設時間 月～土曜日 午前9時～午後7時（受付は6時00分まで）

・相談件数(延べ活動件数)

3 すずらん相談事業（訪問相談事業）

・訪問日時 火・木曜日の午後2～6時 電話予約制

18年度は該当なし

2 サービス提供

3 地域組織化活動

1 子育てくらぶ012

年齢別のクラス編成により、各年齢の発達目標に沿った体操、遊び、集団指導等を行い、同時に同年代の親子の交流を深め、地域での子育て、相互援助能力の育成につとめた。

平成18年度は、クラスごとの活動と、自由コーナー遊びを楽しむプレイルーム（合同）をそれぞれ月1回ずつ行った。

年間登録

クラス名	対象年齢	活動日時	登録数	実施回数	内容
コパンダ	0歳前期	隔週火曜日 午前11時15分～12時	61組	17回	お母さんのためのふれあい遊び、手遊び、うた遊び、赤ちゃん体操
パンダ	0歳後期	隔週火曜日 A 午前10時30分～11時15分 B 午前10時15分～11時	82組	22回	ふれあい遊び、手遊び、うた遊び、赤ちゃん体操、読み聞かせ
うさぎ	1歳	隔週木曜日 A、B、Cクラス 午前10時30分～11時15分	134組	34回	ふれあい遊び、運動遊び、手遊び、うた遊び、読み聞かせ
コアラ	2・3歳	隔週金曜日 A、Bクラス 午前10時30分～11時15分	129組	25回	体操、リズム・運動遊び、手遊び、うた遊び、造形、ゆるやかな母子分離
合計			406組	98回	

2 親子で楽しむプログラム

異年齢交流や地域との関わりをもちながら、親子で楽しめるプログラムを行う。就園前の児童を対象とした行事や野外活動を季節に合わせて実施した。

- ・対象 乳幼児親子（就園前）
- ・場所 遊戯室、戸外
- ・活動内容

月 日	内 容	参加者数
7月1日	ふれあいの音楽会①	34組
7月15日	すいか祭り&子ども服リサイクル	135組
10月18日	おいもほり	75組
10月28日	ハロウィン	14組
12月17日	たんぼぼクリスマス	70組
2月3日	ふれあいの音楽会②	41組
合計		369組

3 その他のプログラム

- ・水遊び 全9回 合計233組
- ・子ども服リサイクル 10月16日50組、3月5日30組

- ・ コアクラス同窓会 5月29日 17組
- ・ お母さんプログラム「自分で出来るフットケア&つぼ&マッサージ」 1月31日 6組

4 子育てインフォメーションコーナー

子育ての輪を広げることを目的として、子育てや家庭に関する図書やパンフレットの設置、子育てグループの情報交換のコーナーを設けた。

5 子育てゼミナール

専門家を講師として、子育ての各分野（遊び、栄養、健康、児童心理）について、保護者を対象とした講座を行った。

日 時	内容・講師	参加組数
6月17日(土) 10:30~11:30	「大人の食事から取り分け離乳食」① 狛江栄養士会	12組
7月1日(土) 10:30~11:30	「キレナイ子に育てるには・・・」 中川信子	15組
10月2日(月) 10:30~11:30	「幼児食教室」 狛江栄養士会	22組
11月4日(土) 14:30~15:20	「子育てストレスのながし方」 中川信子	13組
2月5日(月) 10:30~11:30	「大人の食事から取り分け離乳食」② 狛江栄養士会	18組
3月17日(土) 10:30~11:30	「困ったちゃんの育て方」 中川信子	12組

4 関係機関との連携

会議等名	構成関係機関	開催日時	場所	内容
ショートステイ連絡会議	二葉学園 児童福祉課 母子自立支援員 世田谷児相	3月28日(水) 10:00~12:00	二葉学園	ケース検討やサービスの使い方について
定期ケース会議(市との連絡会)	児童福祉課 世田谷児相 母子自立支援員 健康課保健師	毎月第4金曜 9:30~11:00	狛江市役所	ケース検討・共有

(2) 5年目を迎え、担当を新しく専任した(現任担当者はアドバイザーとして支える)学童経験豊かな2人のパートスタッフに支えられ、きめ細やかな関わりが出来た。

親子交流会は予想以上の参加があり、夫婦での参加も多かった。長期休みには、保護者からの要望に出た『レトルトデー』(家庭からごはんとレトルトルーだけ持ち寄り、館で温めて食べる)を隔週1回実施。親子共に好評で、保護者の負担軽減にもつながった。今後も取り入れて行きたい。

今年度も4名の障害児を受け入れた。自然に話しかけるなど、障害児を囲む他の子どもたちの雰囲気も暖かかった。12月に初めて実施したアンケートでは、これからも安心して預けられる小学生クラブであってほしいとの声も寄せられ、大きな励みとなる。ただ、友達関係のことや、保険の対応などの不安な声もあり、大事に受け止めていく。年々閉館ぎりぎりにお迎えの子どもが多くなっており、18時以降の居場所の工夫や長期休み中のメリハリのある活動が求められている。

1 日常活動

下校時	登館	6:00	6時の集まり
	自由活動	～7:00	自由活動
14:45	おやつ準備	【休校日】	
15:00	おやつ・片付け	8:30～	登館
	自由活動	～9:30	勉強タイム
16:45	帰りの会		自由活動
17:00	勉強タイム	12:00	昼食・食休み
	自由活動	13:30	自由活動

2 18～19時

通常19時まで開所。年間を通じて20名程度の利用と年々多くなって来ている。使用できる部屋が制限されるため、18時以降のみ遊べるおもちゃなど使い、過ごし方を工夫する。

3 おやつ

手作りの回数は多くはないが、ごはん作りやおやつ作りを年に7回取り入れる。食事のマナーなどはその都度伝えるよう心がける。後半は、庭で自由に食べる『外おやつ』も取り入れる。

4 グループ活動

前・後期に分け、縦割りのグループ活動を行う。今年度は1年生が多かったため、2・3年生がリードし、仕事を教える姿が見られた。おやつのお片づけでは、お皿を洗ったり、部屋の掃除などグループごとのリーダー中心に子どもたちが主体となって行った。

5 個人面談・保護者会

1・2回目の保護者会は、親子交流行事の後に実施。とても打ち解けた雰囲気の中、子どもたちの普段の様子などを伝える。3回目は、次年度の継続児対象に3月実施。次年度の内容など伝え、要望

などを聞く。個人面談は、6月と12月に実施。日常の悩みや要望など普段のお迎えの時にはなかなか話せない内容の話が出来た。

6 行事等

① 新入生歓迎会（10：10～10：45）

- ・「児童館探検ゲーム」 4月3日（金） 参加者 33名

② 親子交流会&保護者会（14:00～16:00）

館内にて、親子でレクリエーションとタスク。その後保護者を集め、顔合わせを兼ねた保護者会を行なう。その間、子ども達はフルーツポンチ作り。

- ・6月24日（土）参加者 幼児3名、小学生19名、大人21名 合計43名

③ お昼ごはん作り（10：30～12：00）

子どもたちが包丁も使い、グループで協力しながら調理し食事を楽しむ。

- ・「サンドウィッチ」 8月11日（金） 参加者 21名
- ・「カレーライス」 8月31日（木） 参加者 28名

④ レトルトデイ

家庭からごはんとレトルトルーだけ持ち寄り、温めて食べる。毎日お弁当を作る保護者の負担軽減を目的とする。

- ・7月25日（火） 参加者 25名
- ・7月31日（月） 参加者 26名
- ・8月21日（月） 参加者 18名

⑤ なつなつ工房

- ・「こま」 7月24日（月）～28日（金） 1日平均 10～12人
- ・「流木みがき」 8月7日（月）～11日（金） 1日平均 7～8人
- ・「ミサンガ」 8月21日（月）～25日（金） 1日平均 10人

⑥ 夏休みふれあいフレンズ

2階プレイルームにて、乳幼児親子とふれあう。

- ・8月7日（火）～11日（金） 各日2名ずつ参加 参加者 9名

⑦ Chopper Café（14:00～16:00）

お茶とお菓子を用意し、保護者の自由なディスカッションの場を演出する。

- ・第1回 7月8日（土） 参加者 2名
- ・第2回 10月14日（土）参加者 1名
- ・第3回 3月17日（土） 参加者 4名(第3回のみ、桜餅を作りながら進める。)

⑧ 小学生クラブセンター合宿

夕食をみんなで食べる。宝さがしなどのレクリエーションをして、翌朝の朝食まで過ごす。

- ・9月22日（金）～23日（土） 参加者 27名

⑨ 親子ごはん会&保護者会（10：00～14：30）

親子でうどん打ちに挑戦。豚汁うどんにして食べる。その後、保護者会を行う。

- ・11月25日（土） 参加者 幼児4名、小学生20名、大人18名 合計42名

⑩ 新入児保護者会（17：00～18：00）

- ・3月3日（土）参加者 16名

⑪ 遠足（8：30～17：30）

- ・「昭和記念公園に行こう!!」 3月27日（火）参加者 25名

⑫ その他

- ・係活動 おやつ準備・片付け・食器洗い・5時の帰りの会 など
- ・帰りの会 16:45に集合し、日替わりで歌やゲームなどを行う。
- ・お誕生日会 毎月下旬実施。ゲームやみんなで遊ぶレクリエーションなど行う。

遊戯室日曜日開放事業

1 遊戯室日曜日開放事業の利用状況

(人)

月	個人利用人数	個人利用日数	1日平均
4	123	5	64
5	114	4	59
6	159	4	81.5
7	131	5	68
8	55	4	29.5
9	86	5	45.5
10	124	4	64
11	78	4	41
12	79	4	41.5
1	92	4	48
2	92	4	48
3	148	5	76.5
合計	1281	52	56

2 委託先事業者

社団法人 狛江市シルバー人材センター

岩戸児童センター運営委員会・子ども家庭支援センター運営協議会

利用者の幅広いニーズに応え、利用者の立場に立って事業を展開していくため、岩戸児童センター運営委員会及び子ども家庭支援センター運営協議会を実施した。

<第1回>

開催日 6月22日(木) 午後7:00~8:00

- 議題
- ・委員紹介
 - ・会長及び副会長の選出
 - ・児童センター事業(小学生クラブも含む)・支援センター事業について(事業計画)
 - ・意見交換

<第2回>

開催日 2月9日(金) 午後7:00~8:00

- 議題
- ・職員紹介
 - ・委員紹介
 - ・児童センター事業(小学生クラブも含む)・支援センター事業について(事業報告)
 - ・意見交換

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 狛江市子ども家庭支援センター事業報告

記入者／佐藤 洋子

評価と課題

5年間の中で少しずつ形は変えながらも、子育てくらぶを中心に市内の乳幼児親子が集う場としての役割を大きく担ってきた。その中で利用者同士が繋がるピアカウンセリングの場として、また話を聞いてくれる、相談できるスタッフがいることで、少しでも育児不安解消につながるよう関わりを丁寧にしてきた。これからも親子の生の声に耳を傾け、親同士が支えあえる仲間作りを支援していきたい。また、来館の多い0歳児親子の居場所を設定し、できるだけ手作り遊具を増やし、家庭的で清潔な環境づくりを心がけた。

後半は、19年4月より新事業の先駆型子ども家庭支援センターの実施を見据え、体制作りを行った。先駆型の機能がどこまで地域と連携する中で果たせるか、また、センターとしてどこまで地域のニーズを掘り起こすことが出来るか、課題はたくさんあるが学びながら前に進めていきたい。

1 相談事業

2 サービス提供

1 一時保育事業

保護者の様々な理由により、一時的にお子さんを家庭で見ることができなくなったときに、児童を預かる。

- ・対象 生後57日から3才未満の健康で集団保育が可能な児童
- ・期間 7日以内(事情により最長15日間)
- ・時間 午前7時30分～午後6時の間の8時間
- ・施設 市内家庭福祉員宅
- ・費用 一日児童一人につき1,500円(減免措置あり)
- ・定員 家庭福祉員の空き定員のうち1名以内
- ・実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用数	8	3	7	3	11	4	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用数	4	11	8	3	11	12	85

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 小金井市福祉共同作業所 事業報告

記入者／網野 一也

1. 総括

- ・今年度は、退所者 2 名、入所者 2 名と入れ替わりの多い年になった。退所者には、加齢による初めての退所者が含まれる。利用者の年齢も 19 歳から 72 歳までとなり、生活介護支援が必要とされる方も数名出てきている。現在、利用者は 19 名。
- ・10 月に正規職員が、退職したため、年度途中での職員配置転換となった。しかし、利用者の大きな混乱もなくスムーズに移行できた。
- ・作業の面では、福祉会館内風呂清掃が加わった。16 時以降の作業となる上、清掃手順も通常の清掃と異なるため、利用者の反応を心配したが、マニュアルを作成したことで落ち着いて行えた。その他に作業単価の良いものは、納期が短いものでも積極的に受注し、かがわ工房などと協力し業者との関わりを深め、新たな受注拡大へ繋げることができた。前年比では、利用者一人当たりの年間工賃収入は、平均 3 万 5 千円アップした。
- ・農園作業をするための職員体制が整わず今年度は、収穫も里芋だけに留まった。主に農園作業を行っていた職員の退職に伴い、農園作業の継続が困難となった。
- ・作業が少ない時は、DVD 鑑賞・お茶会などを開くなど余暇の過ごし方を利用者とともに考え行った。

2. 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

受託作業：福祉会館内清掃・福祉会館風呂清掃・小金井市凧制作・割り箸袋入れ・説明書折アロマオイル充填・ケース組み立て・付録袋詰め・ダイレクトメール封入
『りんくの店』店当番

(2) 利用者の支援

利用者現員 19 名

支援方針

- ・明るく、楽しい作業所の雰囲気大切に、毎日の職員会で作業面・生活面ともに個別の援助内容を考え支援した。
- ・意欲的に作業に取り組めるよう作業配置、作業内容を提案し環境を整えた。
- ・利用者の自主性を重んじ、行事の企画から話し合い、支援した。

健康管理

9 月 14 日 健康診断 小金井市障害者検診

11 月 15 日 内科検診 嘱託医

主な行事

4 月 4 日 花見会 (2 万円)

5 月 18 日 日帰り旅行 (12 万円)

10 月 19 日・20 日 一泊旅行 (10 万円)

12 月 25 日 クリスマス会 (5 万円)

8 月 31 日・2 月 27 日 誕生会 (2 万円)

安全管理

- ・新しく緊急連絡用カードを作成した。

(3) 職員の処遇

職員構成

所長	1名
主任支援員	1名
支援員	2名(正規職員)
支援員	1名(臨時職員・パート職員)
支援員	1名(障害者雇用職員)
嘱託医	1名
相談員	1名

健康管理

健康診断 年1回

会議

法人全体集会	3月22日
ブロック会	6月19日(主任)
GK全体職員会	7月21日・12月1日・3月22日
成人部門全体会議	4月14日・6月30日・9月1日・3月1日
運営会・成人部門会議	(所長、主任)
職員会議	月1回
ショートミーティング	毎日

研修

法人内研修 法人外研修

3. 施設管理

(1) 設備関係

- ・壁の塗り替えを一部行った。
- ・硝子張りの出入口に硝子の飛散防止フィルムを張った。

(2) 備品関係

- ・結束機を購入した。

(3) 災害対策

- ・避難訓練…福祉会館全体避難訓練 1月15日・3月18日
小金井市福祉共同作業所内避難訓練 6月15日・12月12日
- ・非常食糧の備蓄

4. 地域社会との連携

- ・福祉会館まつりに参加し、自主製品の販売、ゴミ分別の看板を作るなど積極的に係わった。
- ・福祉会館利用者が主催する会に参加し、合唱・踊り・お茶会などで交流した。
- ・障害者週間では、例年通り利用者がポスターを描き、COCOバス、市内の公共施設へ展示されたその後、すべてを集めて福祉会館で作品展が行われた。
- ・養護学校2年生1名、就労支援センター2名の実習生を受け入れた。取引業者実習中の中学生3名が見学を訪れた。

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 賀川学園 事業報告

記入者／中村 悠子

1 総括

今年度は年間を通して「障害者自立支援法」の下に運営を行うはじめての一年であった。また、初めて第三者評価を受審し、支援のあり方や施設の運営についてあらためて振り返り、よりよい療育を提供していくために何に取り組むべきかを考える年ともなった。前年度に引き続き新入職員を迎え、若年層の職員が大半を占める職員構成であった。計画に対応した報告は以下の通りである。

- 利用率の安定的な確保を目指し、週5日通園クラスの定員を1名増員するとともに、開所日を増やす。
→夏季の保育は保護者にアンケートを行い、予め職員配置を検討することで職員の休日を確保しながら開所日を増やすことが出来た。
- 週1日通園クラス待機児解消のため、昨年度増員した人数と同じ受け入れ枠を確保する。そのため静養室兼相談室を職員室及び園長室に移動することで、新たな保育室を確保する。
→新たな保育室を確保できたことで、週1日通園児の受入数を維持することができた。
- 療育の質を確保するため、従来の指導員数を確保すると同時に、調理員、事務員など直接指導に関わらない職員の非常勤化をすすめ、人件費の削減を図る。
→非常勤化や兼務により、人件費の削減ができ、今後2～3年の経営面の見通しは立った。しかし、昇給による人件費の増加分、老朽化に伴う修繕費や器具什器の買い替え費用の確保は今後の課題である。
- 日常の職務における職員の育成を強化するとともに、専門性を高めるための研修や他施設の見学を可能な限り実施する。
→学校を中心に見学を積極的に行った。
- 利用者にとって不便のない施設環境を提供するため、園庭の水捌け改善、出入り口の雨よけ設置を検討する。多額の費用が必要となるため、助成金の申請を検討する。
→対象となる助成がなかったが、緊急を要すると判断し、工事を行なった。水捌けは大いに改善され、保護者からの評判も良い。雨よけについては今後の検討課題である。
- 事務作業を効率よく処理するための、設備・手順を整える。
→事務局が小金井生活実習所に移転したことをきっかけに事務室を整理した。
- 昨年に引き続き、教材費・光熱費・消耗品費の節約に努める。
→光熱費は待機電力を節約、消耗品費・教材費はより安価な品物に変更するなどして努力した。しかし、前年度に比べるといずれも増加していることから、より一層の努力をする必要がある。
- 第三者評価を実施する。
→保護者アンケートでは療育内容についての具体的な要望もあり、保護者が何を望んでいるのかを知り、職員間で支援方法や保護者対応の難しさを話し合うよい機会となった。対応できる部分から積極的に改善に取り組んでいる。

2 施設運営

(1) 実施事業

- ・ 集団保育と個別学習 年間保育日 275 日、延べ利用数 7,384 日
- ・ 卒園生のアフターケア 20 名
- ・ 乳幼児の外来相談 週 1 回実施
- ・ お父さんの会 年 1 回実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成と園児数 (定員 35 名)

- ・ 週5日通園クラス 3クラス …27名
- ・ 週4日通園クラス 1クラス …6名
- ・ 週1日通園クラス 5クラス …25名

イ 健康管理

- ・ 内科検診 年 2 回 …4月・10月
- ・ 身体測定(身長・体重) 毎月
- ・ 身体測定(頭囲・胸囲) 年 2 回 …4月・10月
- ・ 歯科検診 年 1 回 …11月
- ・ 蟻虫卵検査 年 1 回 …5月

ウ 主な行事

4月 入園式	5月 春合宿	6月 お楽しみ会	9月 運動会
10月 遠足	12月 クリスマス会	2月 スケート体験	3月 卒園式

エ 栄養管理

- ・給食に関する議題を職員会議に盛り込み、指導員と調理員の意見交換を行った。
- ・ノロウイルスやO-157対策として、指導員にも掲示等で管理を徹底した。

オ 安全管理

- ・園児が安全に生活できるよう、園内の設備・遊具の安全確認を定期的に行うこととした。
- ・保育時のケガ、体調不良には速やかに対応できるよう、職員間で役割を確認した。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

園長(常勤)	1名	※他事業所との兼務
主任指導員(常勤)	1名	※運転手と兼務
児童指導員(常勤)	11名	
調理員(常勤)	1名	※他事業所との兼務
看護師(パート)	1名	
事務員(パート)	1名	
児童指導員(パート)	3名	
調理員(パート)	5名	※他事業所と兼務
スーパーバイザー及び嘱託医、相談員	各1名	(業務委託)

イ 職員の健康管理

- ・健康診断を年1回(7~10月)実施した。調理員は毎月1回の細菌検査を実施した。

ウ 職員会議

GK全体職員会	年3回	ブロック会議	年2回	児童部門会議	月1回
職員会議	月1回	リーダー会議	月1回	ケース会議	月3回
クラス会議	週2回	報告会	平日毎回		

エ 職員研修

- ・法人本部研修(経験年数別) …1年目、2年目、松沢塾、中堅研修
- ・かがわブロック研修 …7月7日及び12月1日実施、延べ23名参加
- ・心理の専門家による学習会 …10月9日実施、11名参加
- ・スーパーバイザーによるカンファレンス…5回、各回9名参加
- ・外部機関の企画する講習会の参加 …10講座、延べ13名参加
- ・学校・施設見学 …13ヶ所、延べ18名参加

3 施設管理

(1) 設備関係

- ・保育室確保のための床の張替え及び扉の付け替え工事を実施。
- ・園庭の水捌け改善工事を実施。

(2) 備品関係

プールサイドの安全確保のため、人工芝を購入(費用のうち10万円は共同募金会からの寄付金を充当)。

(3) 災害対策

災害時に備え、避難訓練を毎月1回実施するとともに、保護者への引渡し訓練を8月~9月に実施した。また隣接する愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練を11月に実施した。防災設備の点検を委託により年2回実施(内、消防署への届け出1回)、非常時食糧の確認を園の防火管理者が実施した。

4 地域社会との連携

隣接する愛の園保育園とはお互いの園庭やホールの利用、行事練習への協力等で交流を行った。福祉・保育・心理分野の実習生やボランティアを積極的に受け入れ、障害児や家族の理解者を増やし、福祉に関わる人材を育成するよう努力した。

11月には恒例となっているグループかがわ後援会主催のバザーに職員・保護者が協力し、近隣住民や地域の事業者との交流を図った。

また、都立小金井養護学校の運営連絡協議会(年3回)の委員や有志で行う小金井地域ケア連絡会(年5回)の世話人を務めるなど、地域の関係機関との情報交換を積極的に行なった。

2007(平成 19)年度社会福祉法人雲柱社 かがわサポートセンター・ウイングス 事業報告

記入者/石原 久枝

総括

2006年6月に事業所の指定を受けてから約1年半の活動期間で、2008年3月末で48名の利用者登録があり、今後も増加していく見込み(2008年現在、6名の待機登録希望者)である。

2006年度はサービス提供責任者が実質一人でコーディネートとヘルパー業務をこなし、足りない部分を登録ヘルパー(実質4名)で対応していたが、2007年度からは日中にウイングスを主体として働ける女性ヘルパーが2名増えたことで、支援スケジュール調整の幅が広がり、なお一定の質の支援を提供できるようになってきている。現在の利用料収入はおおむね月額50万～55万円程度までになってきたが、まだ運営費収入が不足している状況である。2008年度は、運営状況の改善に向けて月間80万円の利用料収入を目指していく。

課題としては、男性ヘルパーの慢性的な不足である。現在は、女性ヘルパー主体の体制であり、小学生や成人の方の支援には対応できたが、利用希望ニーズの多い男子中高生の支援は、同性介護への対応や行動面でのコントロールなどに充分に対処しきれなかった。そのため、現在は中高生の新規受付に对应えられない状況である。ガイドヘルパー研修事業でヘルパーの人材確保を図っていく。(2008年度は第一回目は6月に開催予定)

1 施設運営

(1) 実施事業

- ①知的障害児・者 居宅介護事業
 - ②知的障害児・者 移動支援事業(各市町村の地域生活支援事業)
 - ③その他有料の預かり事業
- ※ウイングス利用の80%以上は②の移動支援事業

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数48名

【利用者分布一覧】

市町村名	小金井市	国立市	府中市	小平市	武蔵野市	日野市	国分寺市	武蔵村山市	昭島市	多摩市	墨田区	計
人数	15	10	5	9	1	1	3	1	1	1	1	48

イ 処遇について

事業開始2年目で、今年度は経験者がヘルパー登録をした。支援内容としては、マンツーマン、または少人数グループでの支援活動が増えた。しかし、支援プログラムとしては、知的障害、自閉症児・者の方が安心して過ごせたり、喜べるような場所や内容選びは非常に難しかった(特

に雨天時)。

保護者との連絡は電話やメール等で比較的密に出来たが、学校関係者等とは難しかった。賀川学園やかがわ工房、さくらの木所属の利用者が多いため、職員間で細かく連絡をとるよう努力した。

活動としては土日・休日のお出かけや夏休みの預かり企画等を行なった他、放課後の余暇支援や施設での授産活動が終わった後の運動不足の解消のためのスポーツ等を行なった。

【月間総支援時間】

2007年4月～2008年3月

支援時間	185	217	216	250	315	218	266	241	278	253	294	303	3034
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

(3) 職員の処遇

サービス提供責任者1名の他に継続して支援に携わることができるヘルパーが2名(そのうち1名は非常勤雇用)メンバーに加わり、その他は学生や主婦のヘルパーという構成であった。男性ヘルパーがゼロになり、中高生や成人の支援が難しくなった時期もあったが、2008年度からは男性職員が週1回兼務で入る体制となり、また、学生男性ヘルパーが1名入るので、少しずつ支援体制を整備しつつある。ヘルパー支援マニュアルの整備や研修をすすめ、人材確保と育成に力をいれて今後もさらなる支援体制の拡充、強化をする必要がある。

【ヘルパー数】

前期(4月～9月)

	週5回以上支援	週3回以上支援	週1回程度支援	月1～2回程度支援	それ以下の頻度
男性	1	0	0	0	0
女性	0	2	1	3	3

後期(10月～3月)

	週5回以上支援	週3回以上支援	週1回程度支援	月1～2回程度支援	それ以下の頻度
男性	1	0	1	0	0
女性	0	3	1	2	4

2 施設管理

KAGAWA館301号室を事務所として利用。日常的に利用者の出入りはないが、雨天時などに奥の保育室を利用することも多かったので、今後は利用者が喜べるグッズや設備を整えていく。

3 地域社会との連携

近隣地域の居宅介護・移動支援事業所(色えんぴつ・くじら雲…等)との連携を深め、情報交換を積極的にするようにした。

2007(平成 19)年度 社会福祉法雲人柱社 かがわの家 事業報告

記入者／中村 悠子

1. 総括

2007年度の始まりは、小金井生活実習所の法人運営開始と重なり、慌しいスタートとなつてしまひ、成人部門の新たな連携を模索した1年でもあつた。

成人部門の職員が増えたことによりグループホームに携わる職員が増えたことと、夜間専門支援員を本格的に導入したことで、職員一人にかかる負担は少しずつ軽減されてきているが、支援の統一性や継続性の確保が難しくなつた1年でもあつた。今後は、夜間専門支援員も含めた合同のケース会議を開催して支援に対する認識をさらに深めていきたいと考えている。

余暇支援については、居宅支援事業のウイングスとの連携を深めたことにより、利用者に幅広い支援を展開していくことができた。

また、ケアホームの定員を6月に1名増やし、安定的な運営を図つた。

2. 施設運営

(1) 施設体系(2008年3月)

施設体系	定員	利用者数
ケアホーム(共同生活介護)	26名	26名
グループホーム(共同生活援助)	1名	1名

(2) 利用者の支援

・利用者数(2008年3月)

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
計	27名	27名

- ・ 安定して生活できること、身の回りのことが一人で出来ることを目標に、個別支援計画を作成し、保護者個人面談時に保護者からの同意を得た。
- ・ 利用者への支援は成人部門のケース会議や日中の活動先であるかがわ工房、ワークスタジオかがわ、小金井福祉共同作業所の職員と情報を共有化し、一人ひとりのニーズに合わせた支援ができるよう努めた。
- ・ 一般就労していた利用者が一名いたが、12月に突然会社を解雇された。本人へのフォローを行いながら、ハローワークや就労支援センター等との連絡・相談を行っている。
- ・ 健康管理面では、発熱等の風邪にかかった利用者の病院の付き添いや日中の看病が何

度かあった。KAGAWA館にあるむさしの小児発達クリニックに通院している利用者については、職員もできる限り付き添い、対応方法等を医師と確認をした。また、日々の健康管理については、食欲・睡眠の他、利用者健康診断の結果に基づいた食事の提供や毎月の体重測定を行った。

- ・ 余暇活動は各寮で誕生日会やクリスマス会、外食など季節に合わせた行事を実施した。また、サポートセンターウイングスと連携をとり、個別の余暇活動の充実を図った。

(3) 職員の処遇

- ・ 職員体制は宿直の日数が偏らないように夜間支援専門員を各寮に配置した。遅番や週末の日中勤務にパート職員を配置するなどの配慮をしたが、休日を利用する利用者も増加傾向にあり、より一層の工夫が必要となった。
- ・ 職員の健康診断は年1回実施した。
- ・ 会議は、GK全体職員会(年3回)、成人部門全体職員会(年3回)、グループかがわ運営会議(月1回)、成人部門運営会議(月1回)、かがわの家全体会議(年3回)を実施した。また、ケース会・行事前打ち合わせは随時実施した。
- ・ 研修は、勤務体制上全員が参加することがなかなか困難であった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ 老朽箇所や修繕箇所の修繕を行った。シリウスの下駄箱の扉、カーテンレールの修理、ミラの窓枠、ジュピターの壁破損の修繕を行った。また、KAGAWA館の老朽が目立ってきており、大規模な修繕や改修が必要に迫られてきている。

(2) 設備関係

- ・ ベガの洗濯機を新しいものに買い換えた。また、ミラのダイニングテーブルも新しく買い換えた。

(3) 災害対策

- ・ 避難経路や消火器の設置場所を確認し、非常時に対応できるようにした。
- ・ 消防設備の点検を実施した。

4. 地域社会との連携

- ・ お祭りや餅つき大会、資源回収など町内会の行事には積極的に参加した。また、町内の会議には定期的に参加し、地域の方に理解を得られるように努めた。
- ・ 職場への通勤など、近隣とのトラブルにならないように、利用者によっては職員が付き添うなど配慮した。

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 小金井生活実習所 事業報告

記入者／中村 悠子

1. 総括

4月より法人運営を開始した。当初、移譲に反対していた保護者の方々も、保護者会や個人面談等で積極的に要望を聞き、話し合いを重ねていくことで信頼関係は築けてきている。

利用者支援については、4月に慣れ親しんだ東京都の全職員がいなくなったことで、少し不安定になる利用者の方も出ていたが、一人ひとりの利用者のペースや意向を大事にしていくことで、少しずつ安定していくことができた。

利用者送迎は、運行時間が安定するまでに時間がかかってしまったが、保護者の方には大変喜ばれている。

短期入所事業は6月から受付を開始した。東京都の改修工事で設置したお風呂場のリフトに不具合が出るなどしたため、受入れを断念せざるを得ない利用者も出てしまった。また、短期入所に関わる単価等を考慮していくと職員配置が難しく、安定的に運営していくには課題が残っている。

2. 施設運営

(1) 施設体系(2008年3月)

施設体系	定員	利用者数
生活介護事業	32名	31名
就労継続支援事業B型	10名	10名
短期入所事業	2床	

(2) 利用者の支援

- ・ 2007年1月から職員が実際の支援の現場に東京都の職員と一緒に入り、引継ぎを行った。また、東京都の職員とケース会議を開き、利用者一人一人の健康状態や生活における能力を正しく把握するよう努めた。
- ・ 個別支援計画は、二度にわたる保護者個人面談で要望等を聞き作成した。作成した個別支援計画は保護者の方からの同意を得た。
- ・ 利用者の方が安定して生活できること、楽しみながら活動に参加できることを目標に日々のプログラムを立案した。また、体育のプログラムについては、東京都の時に来ていた講師の方に引き続き来てもらい、利用者の運動能力の把握を一緒に行うことができた。
- ・ 利用者一人一人のペースや体力を第一に考え、東京都の時とは違うグループ分けを行った。利用者のペースを優先したことで、利用者同士の接触による事故等は防ぐことができた。
- ・ 癲癇発作がある方や麻痺がある方への対応は、個別の安全マニュアルを作成し、事故や怪我の防止に努めた。
- ・ 就労継続支援事業では、新しく作業を始める利用者の負担とならないようなペース・プログラムを作成した。また、作業内容は、雑誌の付録の袋詰め作業を行った。毎月作業内容が変わることや、利用者が好きなキャラクターが描いてあることもあり、負担も少なく楽しみながら作業に取り組むことができた。しかし、工賃収入が少なく、利用者に支払える工賃は毎月500円に留まった。
- ・ 一泊旅行を企画し、9月と10月の2回に分けて実施した。東京都の時は、2年に一度しか参加できなかった宿泊行事が、全員行けるようになったことで、利用者やそのご家族の方からは大変喜ばれた。

行事となった。行き先は、利用者の方が全員楽しめる場所ということで、ディズニーランドに設定し、無事に行ってくる事ができた。また、旅行以外にも、年1回の一日出(各グループごと)、クリスマス会、地域の団体によるお楽しみ会や音楽会を開催した。

(3) 健康管理

- ・ 利用者の健康に配慮した支援を行うように、看護師とも連携を取りながら毎日の支援にあたった。
- ・ 薬の保持、服用は看護師が管理を行った。
- ・ 毎月の内科検診・体重測定、年1回のレントゲン健診・耳鼻科健診を行った。また、10月には理学療法士に来てもらい、保護者も含めたPT相談を行った。

(4) 職員の処遇

- ・ 職員健康診断を年1回実施した。
- ・ 会議は、ミーティング(朝)と報告会(夕)を毎日実施。初年度ということで、報告・検討・確認事項も多く時間も遅くまでかかってしまった。その他の会議は、職員会議(毎月1回)、GK全体職員会(年3回)、成人部門全体職員会(年3回)、成人部門運営会議(月1回)を実施した。ケース会議、行事前打ち合わせは随時実施した。
- ・ 研修は、初年度ということで、職員が業務を抜けて外部の研修に参加することがなかなか難しく、職員全員が参加することが困難だった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ 短期入所事業で使用するお風呂場のリフト(東京都が改修工事を実施)に不具合(利用者が使用できない)が発生した為、リフトの撤去を行った。
- ・ 次年度4月の開所予定のパン工場の改修工事を1月より開始した。
- ・ 老朽化のため、雨漏りする箇所があり必要に応じて修繕を行った。

(2) 設備関係

- ・ 所内に設置してあるエアコンが、作動しなくなることが度々発生し、その都度業者を呼び修繕を行った。実習所のエアコンは、設置が古いため故障する頻度も多く、夏場の暑い時期にエアコンが使えなくなるなど、利用者の方にも迷惑をかけることになってしまった。

(3) 災害対策

- ・ 法人運営になったことで、東京都の消防計画を見直し新しい消防計画を作成した。また、職員間で避難経路や消火器の設置場所を確認し、非常時に対応できるようにした。
- ・ 消防設備の点検を実施した。

4. 地域社会との連携

- ・ パン工房のお披露目を兼ねて、地域の方との交流会を3月末に開催した。当日は、パンの試食会や焼きそば等の販売を行い、多くの人に訪れていただいた。また、普段の生活実習所の様子を知って頂こうと日々の様子を写真で展示した。
- ・ ホールや備品(和太鼓等)の貸し出しを地域の団体へ向けて行った。

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 かがわ工房 事業報告

記入者／石原 久枝

1. 総括

- ・障害者自立支援法施行後の施設収入減額の影響を受け、運営費の節減に努めた。職員配置数を1名減としたが、かがわの家との兼務体制の見直しや、作業室担当者を固定し、パート職員との連携を図ることで支援の質の維持を保つことができた。
- ・第三者評価を受審し、サービス面での評価を得られた。結果については公表され、また、保護者会や施設便りで報告した。
- ・新体系事業への移行については、運営会や成人部会で情勢分析を行い、施設体系の方向性が合致しない、運営面の厳しさから、見合わせている。
- ・小金井生活実習所のパン工房開設に伴い、新規事業として焼き菓子の製造・販売を始めた。

2. 施設運営

(1) 実施事業

受託作業…付録の袋詰め、プラスチック試験管の袋詰め、土のう袋制作、ダイレクトメールの封入、封筒制作、基盤カバーの箱詰め、会報紙の封入、ネジ止め、アロマオイル取扱い説明書の折り、チラシ広告組み合わせ等、従来の作業の他かがわブロック間で作業の連携と分業を行い、種類が広がった。

パンの製造・販売…小金井生活実習所パン工房開設に向けて、支援員が週1日準備のため、実習所勤務となり、パン製造日が週1日休みとなった。その間、2008年度新規事業として、焼き菓子製造・販売の準備にとりかかり、3月末までに新体制を整えることができた。

リサイクル事業…アルミ缶回収。近隣から定期的に一定量回収できた。

ボランティア活動…公園清掃は職員数が確保できず、市へ申請しなかった。

(2) 利用者支援

利用者定員…25名（現員24名）

支援方針

- ・利用者の個別支援計画を策定し、個人面談にて保護者の同意を得た。上半期で到達度を確認し、必要に応じて見直しを図った。
- ・行事において、利用者の要望を取り入れ、利用者が主体となって参加できる内容を企画、実施した。また、事前の説明を視覚的手がかりを用いながら、行うようにした。
- ・1名家庭の事情による理由で、2月末に退所した。3月は利用者現員23名だった。

健康管理

5月15日 内科健診 嘱託医

2月13日 27日 健康診断 武蔵野三鷹地域センター（12万5千円）

主な行事

5月25日 春の日帰り旅行 多摩動物公園（3万円）

10月12日～13日 秋の一泊旅行 山中湖（23万円）

3月4日 慰労会 木下大サーカス観覧・昭和記念公園（1万4千円）

給食

- ・利用者の状態に応じて分量の調整や食器の工夫をした。

- ・季節感や行事を盛り込んだメニューを提供した。

安全管理

- ・防災訓練 毎月実施（以下の訓練を含む）
- ・賀川学園との合同訓練（10月18日）
- ・三施設(愛の園保育園・賀川学園・かがわ工房)合同総合避難訓練（11月29日）
引渡し訓練（8月31日）
- ・危機管理マニュアルを作成し、職員に周知した。事務所に保管しいつでも閲覧できる。

（3） 職員の処遇

職員の処遇

施設長	1名	
作業指導員	1名	
生活支援員	2名（兼務・常勤換算）	8名(パート職員)
事務員	1名（兼務・パート職員）	
調理員	1名（兼務）	5名（兼務・パート職員）
嘱託医	1名	
相談員	1名	

健康診断 年1回実施 若年健康診断 生活習慣病予防健診（多摩健康管センター）

会議 法人全体会 かがわブロック施設長会(月1回) かがわブロック主任会(年2回)

グループかがわ全体職員会 7月21日 12月15日 3月22日

成人部門合同会議 4月14日 6月30日 9月1日 3月1日

運営会 月1回（児童・成人・サービス事業所各施設長・主任）

成人部会 月1回（成人事業所各施設長・主任）

職員会議 ケース会議

研修 法人内研修 外部研修（3万円）

3 施設管理

（1） 設備関係

・パソコン RUN 工事（56,000円） 男子トイレ小便器交換（56,000円） 雨どい破損修繕（37,000円） 事務室ドア修繕（10,000円） トイレタンクふた、洗面器修繕（10,000円）
特殊建物等定期調査（95,000円）

（2） 備品関係

- ・共同募金100,000円を受けて、空気清浄機2台購入した。

（3） 災害対策

- ・自衛消防訓練 毎月1回実施
防災設備の点検委託 年2回

4 地域社会との連携

- ・利用者通勤時のトラブルの発生があり、その都度施設長を中心に対応した。
- ・町内会へ班長として毎回町内会議に参加。町会の行事にも、パンの販売や備品の貸し出し等で協力した。
- ・パンの販売やアルミ缶回収などで近隣の方や各施設、市民との交流を深めた。

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 ワークスタジオかがわ 事業報告

記入者／網野 一也

- 前年度より利用者が増えたので、経営状況が改善された。
- 常勤パート職員 2 人を配置し、利用者支援の体制を強化した。
- 作業室を二つに分けたことにより、利用者同士のトラブルを減らすことができた。
- せんべいとポストカードの製造販売、付録の袋詰め、チラシの組み合わせ、ビットのパック詰め、アルミ缶回収、施設内外の清掃等の作業内容が整い、利用者賃金の安定的確保ができた。
- 利用者が隣家に迷惑をかける事態を改善するため、門扉を設置した。
- 第三者評価の結果を受け、サービスの向上を図った。
- 地域のみなさんとの交流を目的に「ワークスタジオまつり」を実施したが、普段顔を合わせる近所の方が誘い合って来てくださり、理解を広げる良い機会となった。
- 毎週 1 回半日、ボランティアの方が来て、作業や支援にあたっている。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

受託作業…付録の袋詰め、ビットのパック詰め、チラシの組み合わせ

自主製品の製造・販売…ポストカード、せんべい
その他…アルミ缶回収、施設内外の清掃

(2) 利用者の処遇

利用定員… 20 人

在籍 … 21 人

処遇方針

・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。

健康管理

6月21日 内科検診 3月13日 健康診断

主な行事

4月27日(金) 日帰り旅行 青梅丘陵から吹上しょうぶ公園
(35000円)

10月5日(金)、6日(土) 一泊旅行 河口湖周辺・朝霧高原
(53万円)

12月25日(火)クリスマス会 会食・コンサート(6千円)

3月5日(水)慰労会(6万円)

給食 ・利用者の希望も聞き、利用者各自の健康に配慮した給食を提供している。

安全管理 ・防災訓練を毎月実施している。
・ガラス戸に飛散防止シートを貼った。

(3) 職員の処遇

職員の構成

施設長1人 作業指導員2人(兼務) 生活支援員2人(兼務)

生活支援員(常勤パート)2人 生活支援員(パート職員)8人

栄養士1人(パート職員) 調理員4人(パート職員)

嘱託医1人 相談員(非常勤)1人

健康管理

健康診断 年1回

会議

法人全体集会 3月22日(土)

GK全体職員会 7月21日(土)、12月1日(土)、
3月22日(土)

運営会 月1回 成人部運営会(施設長、主任)月1回

成人部職員会 年4回

職員会議 年6回 ケース会議 年6回

研修計画

<法人>新人職員研修 全体職員研修 施設長研修

<ブロック内>全体職員研修 実践報告・合評会

<施設内>新人職員研修

<外部研修>都社協シンポジウム 都社協セミナー 他

2 施設管理

(1) 建物・設備関係

- ・門扉の設置
- ・エアコン、調理室湯沸かし器の修理

(2) 災害対策

- ・ガラス戸に飛散防止シートを貼る

3 地域社会との連携

- ・10月13日(土)「ワークスタジオまつり」を開催した。
- ・秋川流域自立支援研究連絡会に入会、講演会等に参加した。

2007(平成19)年度 社会福祉法人 れいめい宝学童保育クラブ 事業報告

記入者/秋山幸美

学童クラブ事業

①事業の評価と今後の課題

月ごとに日本の文化やキリスト教の行事に触れられるように心掛けた。また、製作の時間を設けることで初めての体験(リース作りや恵方巻き、バレンタインチョコ作りなど)をすることができ、心に残る製作・行事になった。2月・3月に入り落ち着いた様子が見られ、学年が上がる事を自覚するようになって来ている様子が伺える。2008年度も様々な体験を提供し、楽しい・居場所となるような学童を目指したいと思う。

②在籍数

	女	男	計
1年生	0	4	4
2年生	4	5	9
3年生	2	1	3
その他	1	0	1
計	7	10	17

③事業報告

日常活動

<一日保育> 8:30登所 9:00学習タイム 10:00自由遊び 12:00昼食 13:00自由遊び(公園)
16:00おやつ 16:30掃除 17:00帰りの会 (学校終了後から同様に保育)

延長保育

18:00～19:00 室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす

おやつ

16:00(複数の学校の為、登所時間を考え遅めのおやつ)
一週間に2回手作りのおやつを提供し、様々な食に触れる機会を増やした

グループ活動

掃除当番、食前・食後のお祈り、帰りの会の挨拶当番

行事・外出

月日	行事名	内容
4月2日	入所式	新しい入所児を受け入れる式
4月7日	ウェルカムパーティー	新しい入所児、保護者を受け入れるパーティー
6月22・23日	お泊り合宿	夕食作り、ランプ作り、銭湯
7月25・26・27日	キャンプ	奥多摩氷川キャンプ場にて、川遊び・夕食作り キャンプファイヤー
12月15日	クリスマス会	会食、学童児の出し物発表(かくし芸)
3月25日	お別れ遠足	ナムコ・ナンジャタウンでアトラクションを楽しむ
3月31日	お別れ会	卒所児との楽しい思い出作り

④その他の活動—個人面談、保護者会、他

5月18日 保護者会(職員の挨拶・学童での子どもの様子・合宿やキャンプについて)
10月～11月 個人面談(個別にて子どもの態度・様子について)

2007(平成19)年度 社会福祉法人 れいめい堀切学童保育クラブ 事業報告

記入者/秋山幸美

学童クラブ事業

①事業の評価と今後の課題

今期の1年生は全体的に非常に幼く、学童生活中盤になってもなかなか保育園気質が抜けなかった。2・3年生との関わりを持つ事で、異年齢の交わりを大切にしたい。特に下級生の面倒を見ることで、自分達も学年が上がった事を自覚して居る様であった。キャンプなどの折にも上級生は力を発揮していた。今年度は4年生も何人かキャンプボランティアとして連れて行ったが、それなり力を発揮してくれた様に感じる。今後につなげていく事が課題である。

②在籍数

	女	男	計
1年生	10	14	24
2年生	8	12	20
3年生	7	5	12
その他	1	0	1
計	26	31	57

③事業報告

日常活動

8:30登所-9:00勉強タイム-10:00自由タイム-12:00昼食-13:00外遊び-15:30おやつ-17:00降所
(一日)

保育)

延長保育

人数が少なくなるので、子どもとじっくり関わられた。

おやつ

週2回手作りおやつを実施。冬場はノロウイルスが流行ったため、手作りおやつを自粛した。

グループ活動・誕生会等

誕生会(毎月実施)、クッキング教室、ゲーム大会

行事・外出

遠足、ハロウィンパーティー、クリスマス会、節分、バレンタインパーティー、お別れお泊り会

④その他の活動—個人面談、保護者会、他

保護者会(5月18日)、個人面談(10月~11月)

※活動の評価と課題

該当なし

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 さくらの木 事業報告

記入者／中村 悠子

1. 総括

職員の異動により、新人職員を加え2006年度と同じ常勤職員数で事業を進めた。指導枠の維持・増加に努めるため、非常勤職員を雇用した。その際、経験者には可能な限り指導枠を持つように依頼し、さらに2年以上継続できるような非常勤職員を採用した。

新人職員を仲間に迎えたことで、これまで取り組んできた講演会を一時中断し、また体験学習の日程を減らすなどの業務を内容を削減し、主としている業務内容に力を入れ、ケース会議の日程を増やした。また非常勤職員も含め、質の向上をはかるために定期的に学習会を設け、指導法マニュアルを作成した(完成は未定)。また指導の一環として取り組んでいたお料理のレシピを販売用として作成し販売した。さらに今まで不定期に取り組んでいた軽度発達障害児を対象としていた指導をさくらの木の指導体系の中へ組み込んで取り組むこととした。

建物の老朽化による修繕・正規職員の雇用などにより年々支出が増大していく傾向が顕著である。現在新体系への移行先が決まっておらず、交付されている補助金制度がなくなった場合、この事業を継続させていくことが今後の課題である。現在できることは、今後に備えて収入を増やし支出を減らすことである。しかし収入は限られているため、職員間の経費節減への意識を高め、光熱費の使用削減・消耗品の使用・廃棄について効率的な方法を周知し実践するように努めた。

2. 施設運営

(1) 実施事業

個別指導、ペア指導、グループ指導、余暇支援、体験学習、キャンプの年間の延べ利用者数は3,840名。内、補助金事業対象者の年間延べ利用者数は3,358名。その他、さくらの木相談室年3回、コミュニケーションブック86冊頒布、また新しくレシピ集を作成し9冊頒布。

(2) 利用者の支援

自閉的傾向や発達に遅れのあるこどもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけるよう支援を行った。指導は主に日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じたプログラムを立て取り組んだ。

ア 利用者年齢構成

	利用者数 (名)
幼 児	9
小学生	67
中学生	15
高校生	11
合 計	102

イ 月別開所日数 (日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19	22	26	23	15	20	26	21	18	18	21	14	243

ウ 健康管理

利用者の健康状態に留意し、軽い怪我には対応できるような薬を常備した。

(3) 職員の処遇

施設長 1 名、指導員 16 名で指導にあたった。

職員には年 1 回の健康診断を行い、健康の管理に努めた。

事業所内の職員会議 (原則、週 1 回) を中心に、法人全体集会 (年 1 回)、ブロック会 (年 2 回)、グループかがわ運営会議 (月 1 回)、児童部門会議 (月 1 回)、グループかがわ全体職員会 (年 3 回)、ケース会議 (月 4 回) 行い、運営上の課題、支援の方法等を話し合った。

発達障害に関する専門性向上を目的に、研修 (他機関主催の研修に 1 人年 1 回)、学習会 (月 1 回)、学校等の関連機関の見学 (延べ 27 件) や受け入れ (延べ 18 件) を積極的に実施した。また発達障害に関する書籍を購入し、研鑽に努めた。

3. 施設管理

消防用設備の点検した。

利用者の増加に伴う指導室の確保のため、エアコンの設置を検討した。電器の容量が少ないため専門業者との検討を重ねた。

4. 地域社会との連携

賀川学園の卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付けている。

発達障害や事業への理解を促進し、近隣との良好な関係を保つため、ボランティアや見学者を積極的に受け入れた。またグループかがわ後援会主催のバザーや自治会に参加するなど、地域住民との交流を図った。

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱社 さくら橋コミュニティセンター 事業報告

記入者/小原 尚子

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など
事業の総括	「乳幼児とお母さんのつどい」を中心に午前中の時間は0歳～3歳までの乳幼児の時間、終了後もプレイルームやランチタイムなどを設け、体育館(3F)・幼児室(2F)を午後1時まで開放し、コミュニケーションの場として提供している。また、地域の幼稚園に通っている子ども達の交流も目指し午後からは幼児クラスを展開している。(公立2年保育の方への支援も含) お便りにHPアドレスを載せたこと、年度中に区役所のHPとリンクしたことで問い合わせや利用が多くなった。参加層は0歳、1歳、2歳の利用が多い。地域での子育て、お母さんの友達づくりと広く安全なところで子どもを遊ばせたいという方が日常の会話の中や、年度末に行った各クラスのアンケートからも伺われる。 後半からは0歳低月齢児の参加が増え、今年度はそのメンバーと共に自主サークルを立ち上げ新しく子育てを始めた方への支援を行った。	定員60名(最大枠70名)4月の登録数は、62名からのスタートであった。 今年度の活動は、学童クラブとしてのまとまりを意識して年間計画に取り組んだ。 学童クラブとしてのまとまりと一人ひとりの生活の充実をねらいとして放課後の生活を有意義に過ごせるよう配慮をしていった。毎日のおやつも手づくりや旬のものを取り入れ、成長の糧となるおやつ提供に努めた 1年から3年までの構成されたメンバーでグループでのおやつや学童クラブレクリエーション(月1回午後)を行った。学年の枠を超えてまた学年を意識しての子どもの取り組み姿勢がみられた 墨田養護学校より入会する児童が2名。入会にあたり保護者就労のため、バス停からセンター間での道のりに介助が必要。社会福祉協議会やボランティアセンターと連携を取り、通所可能な形へと整えていった。	コミュニティクラブの活動 高学年(4～6年)・低学年(1～3年)を中心に、新しくセンターを利用してもらえるようこころがけ、利用方法やイベントを企画した。新しいメンバーを迎えるために低学年の定例活動(遊び、学習、生活体験、スポーツ、読み聞かせ ほか)の曜日を学年ごとに1期ごとかえ参加しやすいようにした。高学年の組織活動は水曜日の活動をベースに行った。土曜日は小学校で土曜補習などがあり、なかなか子どもたちの来館が少ないことから、イベント感をもたせ、月1～2回の特別プログラムとした。 イベントでは、墨田区主催のドッチボール大会において、低学年・高学年とも優秀な成績をおさめた。又、雲柱社内の児童館同志のドッチボール交流練習試合、交流ハイキングなども実施した。 在宅家庭への支援(一時あづかり 名称クオレ)はひき続き1年生～6年生までおこなっている。	中学生の館内の過ごし方は主に体育館の仲間・職員とのスポーツやクッキング・おしゃべりなどである。6時までの小学生の利用があるため夕方まではなかなか居場所がない。夕方6時からは中学生専用タイムやレディスタイムなどを企画し、来館しやすいプログラムを企画した。 夜9時まで閉館している時間にはシネマタイムやクッキングなど、皆の意見からプログラムを作るイベントと心がけ行ってきた。「体験」「学習」「ボランティア」を柱に行う。 目的型来館 ・学習会 5名登録 ・音楽室利用 32バンド 目的を持っての利用がきっかけからグループ同士クッキングのプログラムに参加・体育館利用など、交流が持てた。	向島という地域性もあり、また今年は大祭ということもあり、地域での活動がとて活発であった。 地域との連携もとれており、民生委員、育成委員、町会長、連合町会、子ども会などの方々と情報の共有ができた。 学童クラブの父母との連携もとれて7月にはキャンプの実施、昼食会の実施など子どもたちとともにたのしいイベントができた。 中高生のバンド活動コンサートについても 音楽室利用者OBや利用者の保護者の参加など交流活動の多い年であった。 登録制でボランティア申し込みをおねがいする。期ごとに会議をおこなう 運営委員会実施 6月、11月、
活動行事報告	* 子ども服リサイクル (6月・10月 143名) * おはなしの会 計8回 * 夏休みプログラム(水遊び7・8月月曜) (腹話術 劇場公演8/3)12組 (おはなしの部屋 8/24) 20組 * ふれあい映画会 9/24 36組 * うんどうかい 10/13 言問小学校校 148人 * バスハイク 11/2 千葉市動物公園 15組 * 乳幼児クリスマス 12/8 142人 * ベビーオイルマッサージ 1/18 * お店やさんごっこ(幼児クラス合同)2・19 * 子育て相談 計3回	* 学童レクリエーション(月1回 3F体育館) * 誕生日会 ひとりひとりの誕生日にあわせて、おやつのおいおいをします * :お便り「さくらんぼ」の発行 * 環境整備 おもちゃの充実(テーマ遊び) ロッカー「ピカピカの日」 帰りの会のプログラム * 観劇「たからさがしはふたりで」7/31 * おでかけ 上野動物園 10/1 * ハロウィンパーティー・クリスマスパーティー * おおわかれハイキング* 父母会と共催キャンプ・昼食会	日常のプログラム お昼ごはんを 作って食べよう 月1回 おかしづくり 月1回 てづくりタイム 月2回 ふれあい広場(乳幼児との交流・日曜日A、M) 各種 スポーツ大会 体育館(3F)野球、一輪車、鬼ごっこ ほか 図書室(2F)読書(絵本、紙芝居、図鑑ほか) 集会室(1F) 木工、ビデオシアター、マット	イ ベ ント 4/20 1年生歓迎会 38名 5/16～17 高学年交流合宿 10名 5/29～30 低学年合宿 45名 8/ 低学年夏プログラム 4回 94名 11/2～3 高学年センター 合宿 51名 11/10 区 ドッチボール大会 37名 11/24 雲柱社交流フェスタ 11名 12/8 子どもクリスマス 102名 3/3 3on3 3名 3/15 ひろば 117名	7/7 えんにち 618名 7/24～26 低学年キャンプ 27名 8/1-3 高学年キャンプ 26名 7月・12月・3月 コンサート実施 1/19 もちつき 230名 ボランティア会議(期1回)
登録者来館者	(登録数組) 0歳児低月齢クラス 48 0歳児高月齢クラス 74 1歳児クラス 93 2歳児クラス 58 3歳児クラス 11 幼児3歳児クラス 51 幼児4歳児クラス 43 幼児5歳児クラス 29 乳幼児クラスのべ参加人数 4750 一般来館のべ参加数 3382 (プレイルーム 含む)	(在籍児数) 男 女 計 1年生 12 11 23 2年生 9 5 14 3年生 12 7 19 5年生 0 1 1 計 33 24 57 * 出席平均率・・・85% 小梅小・言問小・墨田養護学校 私立 の4校から帰館	(2007年度来館者数) 男 女 計 乳幼児 3818 4314 8132 小学生 15321 11934 27255 中・高校生 4134 1932 6066 一般 2170 15514 17684 計 25443 33694 59137 ※開館日数 360 ※1日平均 164	(その他の事業、特記事項) 子育て相談員・保健師による子育て相談会。・子育て講座 ・ 地域事業(育成委員会と合同プログラム)・・・地域事業との連携 1月より、 鮭の稚魚を育てて、隅田川に放流をする。 向島、桜橋河川敷 ・牛島神社大祭・・・9月中旬 ・i-子育てネット のHPにセンター紹介 ・ 年末保育実施(12/29 3名) ・お母さんのための七宝焼き教室(月1回)	

指定管理

さくら橋

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱社 墨田児童会館 事業報告

記入者/鶴澤 陽

指定管理

墨田

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	<p>① 年齢別活動の参加をうながした。初めての方も孤立化しないよう配慮に努めた。</p> <p>② 様々な子育て情報の提供に努めた。通常の掲示や印刷物配布だけではなく、活動中に口頭でインフォメーションを流す等した。</p> <p>③ 乳幼児に限らないが、特定グループの専有化を防ぐため、職員は努力をした。</p> <p>④ 要望の強い相談活動については、なるべく希望に沿うように努力して実施した。</p>	<p>① 墨田児童会館の学童クラブとして、本館、二寺分室、隅田分室の3ヶ所を連携し統合的に運営をした。</p> <p>② 年に数回だが、なるべく親も参加できるプログラムを提供した。</p> <p>③ おやつ、生活面、手芸、木工、工作等に工夫をし、また本人自ら友だちとの関係を広げられるよう、様々な遊びができるようになるよう配慮をするようにした。</p>	<p>① 学年別グループ活動(フレンドリークラブ)への参加をうながした。活動に参加した子は、それなりに満たされていたようだった。</p> <p>② 様々な理由で参加しない子(習い事、塾等)も、たまに来た時でも居場所が確保できるよう、多種多様なプログラムを提供するように努力と配慮をしてきた。</p> <p>③ 学校を超えたグループ形成、友だち作りが出来てきたようだ。</p>	<p>① 来館が非常に不定期で、必ずしも学校が休みなら来館するワケではなかった。部活やアルバイトも関係しているようだ。</p> <p>② 特定の自分たちのグループだけの利用も多かった。</p> <p>③ 音楽活動も同様に、やはり「自分たちだけ」が多かった。児童館でのライブ、各種活動には、何ら興味を示さない事が多かった。</p> <p>④ 各種の相談を職員が受けてきた(随時)。</p>	<p>① 日曜休日開館の実施</p> <p>② 母親コーラス(児童館事業、毎週の練習、講師派遣、交流会実施)、母親卓球(3グループ)、母親バドミントンへの協力、会場提供</p> <p>③ 募金 A:「赤い羽根共同募金」 鐘ヶ淵駅前 B:クリスマス「WFP 国連食糧計画」 C:古切手収集「JOCS キリスト教海外医療協力会」</p> <p>④ クリーン作戦(子どもたちによる地域清掃) 月1回程度</p>																																																																															
活動・行事報告	<p>① プレイルーム(体育室開放):乳幼児向けとして体育室を開放した。原則週2回</p> <p>② 年齢別プログラム:発達に応じ内容を吟味し、活動を展開した(登録人数は下記表)。 ※ 年齢とクラス名 0歳児(新生児)赤ちゃんぱんだ 金曜 10:00~30 0歳児 ぱんだ 金曜日 10:30~11:00 1歳児 うさぎA 火曜日 10:00~10:45 うさぎB 火曜日 11:00~11:45 2歳児 こあら 木曜日 10:00~11:00 3歳児 いるか 木曜日 3:00~4:00 4.5歳児くじら 火曜日 3:00~4:00 ※ 2歳児こあらクラスも、体育室工事などの時に、臨時2クラスにて実施(人数が多いため)</p> <p>③ 育児相談(保健師、子育て相談員、職員等)</p> <p>④ 家族で遊ぼう:月1回程度</p> <p>⑤ 1F 乳児室、3F サンルーム(幼児室)の開放。</p> <p>⑥ 乳幼児「ファミリーわくわくプレイデイ(家族交えての野外活動)」の開催実施(11月)。</p> <p>⑦ 乳幼児親子遠足「千葉市動物公園」実施。</p> <p>⑧ 保健師、子育て相談員、等の専門家の協力を得て、相談活動の実現化へ努力する。</p> <p>☆その他 低年齢になるほど、来館そのものが、天候に左右される傾向が強く見られた。特に雨天時には、晴天時の半分以下と言う時もあった。</p>	<p>3学童共通(本館、二寺分室、隅田分室)</p> <p>① 手作りおやつ:週2回(職員作る)</p> <p>② 子ども自身で作る手作りおやつ:月3回</p> <p>③ 買物体験、誕生会:月1回</p> <p>④ その他定例プログラム実施:月1回以上 手芸タイム、工作タイム、折り紙タイム、レクタイム、学年の時間(学年別)、他 随時実施:野外館庭遊び(天気による)</p> <p>⑤ 入会式、親子交流プロ 二寺分室 4月 学童交流プログラム 3学童合同 5月 おでかけ:3学童合同、所属学校休校時 「清水公園」隅田小、「北公園」墨田養護 6月 「流山市総合運動公園」二寺小 6月 夏休み合同保育(本館・二寺分室) ※ 二寺小工事のため分室が臨時移転 親子交流プログラム 隅田分室 8月 夏休み合同キャンプ:3学童合同 ※ 「観音崎青少年の村」8月 神奈川県 「流山市運動公園」二寺隅田小合同 10月 「汐入公園」梅若小墨田養護合同 11月 もちつき(児童館行事へ参加)11月 学童交流クリスマス会 12月 親子交流プログラム 2月 学童交流プログラム 3月</p> <p>⑤ 延長保育 17:00~18:00pm</p>	<p>① 全体的な行事:1年生歓迎会(4月)、子どもの日スペシャル(5月)、夏祭り(7月)、夕涼み会、こわいお話し出てこい(8月)、オーバーナイトハイク(9月)、都民の日スペシャル、すみだまつり「こどもまつり」(10月)、墨田区ドッジボール大会、わがまち探検みんなのまちの110番(11月)、クリスマス会(12月)、冬祭ざこわい迷路(2月)</p> <p>② 自由来館者向プログラム:自由遊び、各種スポーツ活動(主にドッジボール)、読書、各種教室(手芸、工作、おかしづくり)、学習会、等</p> <p>③ 各種の週間月間行事:ビデオシアター、映画会、絵本の部屋、お話し出てこい、各種検定(けんだま、縄跳び、一輪車)、各種スポーツ大会(主にドッジ、サッカー)、レクタイム他</p> <p>④ 年齢別発達を考慮したグループ活動(クラブ活動):フレンドリークラブ(FC) 1FC(1年)、23FC(23年)、高FC(456年) ※ 日常活動は、全て、原則週1回 ※ その他 「流山運動公園」(5月) 「高尾山」(5月) 「江戸風鈴作り」(5月) 「館内合宿」(6月) サマーキャンプ「両神山麓キャンプ場」 埼玉県小鹿野町(低高学年別、2回) 7・8月 「スケート」(2月) 高FC</p>	<p>① 自主的な時を過ごせる場、居場所提供をした。将棋、オセロ等の人気があった。</p> <p>② 図書室での読書活動を推進、子どもたちに働きかけてきた。主にマンガの人気が高かった。残念ながら児童書系統は、ほとんど読まれていないのが現状である。中高生向けマンガ常備の要望もあったが、職員間で相談の結果、本年度は(内容、予算の点で)見送ることになった。</p> <p>③ 各種スポーツ等の場、プログラム提供した。一部の中高生には卓球の人気が高かった。</p> <p>④ 音楽活動の場の提供:音楽室における練習、コンサート(ライブ)開催、グループ形成の促進。音楽室ミーティング(利用者会議)月1回開催。ライブ:7,12月開催(3月は体育館工事で中止) **すみだまつりライブに協力した。</p> <p>⑤ 思春期における各種の悩みの相談を受けるように努めた。これは随時、各職員が担った。主に、学業のこと、男女関係のこと、アルバイトのことであった。</p> <p>⑥ 中高生向け DVD シアターを数度行った。反応はよくなかった。内容の選定の事もあるが、同時に「自分たちだけの特定メンバーだけで専有化したい」という面が強く、「みんなだ」という児童館の趣旨とは合わない面が目立った。</p>	<p>① 自然体験事業 田植え体験 栃木県足利市(6月) 農家青木氏のご協力を得て実施。 サマーキャンプ「両神山麓キャンプ場」 埼玉県小鹿野町(低高別、2回) 7・8月 オーバーナイトハイク(9月) 墨田児童会館～城南島海浜公園 雪国体験キャンプ 新潟県塩沢町(1月) 塩沢の子どもたちとの交流プログラムを兼ねる。 *稲刈り体験は豪雨で中止。**田植え～稲刈り～もちつきの流れを1セットとしている。</p> <p>② 全体事業 児童館フェスタ(上野公園、5月) 夏祭り(7月) 考えよう「戦争と平和」(8月) 都民の日スペシャル(9月) すみだまつり「こどもまつり」(10月) 墨田区母親卓球大会(10月) もちつき(11月) クリスマス会(12月)募金:WFP(国連食糧計画) バレンタインコンサート(2月) 協力:新日本フィルハーモニーオーケストラ 冬祭り「ざこわいめいろ」(2月) 墨田区母親コーラス交流会(3月) 子どもの町を作ろうプロジェクト(3月)</p>																																																																															
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>76</td> <td>65</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>60</td> <td>44</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>57</td> <td>50</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>4,5歳児クラス</td> <td>30</td> <td>28</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>241</td> <td>203</td> <td>444</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	76	65	141	1歳児クラス	60	44	104	2歳児クラス	57	50	107	3歳児クラス	18	16	34	4,5歳児クラス	30	28	58	計	241	203	444	<p>(在籍数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>49</td> <td>53</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>31</td> <td>35</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>105</td> <td>114</td> <td>219</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	49	53	102	2年生	31	35	66	3年生	23	24	47	4年生	1	1	2	5年生	1	1	2	計	105	114	219	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>7606</td> <td>5568</td> <td>13174</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>29179</td> <td>29448</td> <td>58627</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>3415</td> <td>1173</td> <td>4588</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1376</td> <td>12542</td> <td>13918</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>41576</td> <td>48731</td> <td>90307</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 348日 ※1日平均 259.5人</p>		男	女	計	乳幼児	7606	5568	13174	小学生	29179	29448	58627	中・高校生	3415	1173	4588	一般	1376	12542	13918	計	41576	48731	90307	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>① 二寺小学校工事のため、本館と二寺分室の学童クラブは、合同で運営。</p> <p>② 体育館天井工事(1~2月)体育室全面閉鎖。</p> <p>③ 補修工事 水道配管変更(老朽化)、水漏れ、トイレ(バルブ他)、電灯不点灯、電線配線老朽化劣化、エアコンOH、自動ドア、ドアノブ、ドア鍵、他各種補修工事を実施。補修必要時に随時。冷水機2.3階 本体交換。</p> <p>④ 冬祭り「ざこわい迷路」、「子どもの町を作ろうプロジェクト」について。基本的に子どもたちが自分でアイディアを出し、実施企画・準備・実行したもの。子どもたち自身の手と力で作り上げていったものだった。子どもたちの思いと力が、うまく発揮出来て形になったという点で、最近、失われつつあったものが、少し取り戻せたようにも感じている。</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	76	65	141																																																																																	
1歳児クラス	60	44	104																																																																																	
2歳児クラス	57	50	107																																																																																	
3歳児クラス	18	16	34																																																																																	
4,5歳児クラス	30	28	58																																																																																	
計	241	203	444																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	49	53	102																																																																																	
2年生	31	35	66																																																																																	
3年生	23	24	47																																																																																	
4年生	1	1	2																																																																																	
5年生	1	1	2																																																																																	
計	105	114	219																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	7606	5568	13174																																																																																	
小学生	29179	29448	58627																																																																																	
中・高校生	3415	1173	4588																																																																																	
一般	1376	12542	13918																																																																																	
計	41576	48731	90307																																																																																	

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 文花児童館 事業報告

記入者 山口 修

指定管理

文花

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	<p>自由来館の、プレールーム、幼児室の利用は、コンスタントに出てきた。</p> <p>全体的に、参加者数がそれほど多くない状況が続いた中、後半の0歳児クラス、乳幼児運動会、クリスマス会、ふれあいひろばの各活動が上向いてきた。</p> <p>幼稚園児の活動は後半、年中、年長のクラスを統合したところ、参加者が増加し、活動も活発になった</p> <p>相談の件数もそれほど多くなく、受け入れる態勢や内容に課題が残った。</p> <p>行事に対する期待が強い印象を受けた。</p>	<p>本館は1年生の登録が少なく、数年来の定員割れが解消できなかった。</p> <p>分室は、定員には達しなかったが過去最多の利用者数であった。</p> <p>課題であった環境の整備は、本館ではほぼ十分となったが、分室は課題を残している。</p> <p>子ども集団の形成に関しても、本館では後半には3年生を中心にまとまりがでてきた。分室は、課題を残している。分室へのOJTの課題でもある。(本館は、08年度定員が20名減の60名となったが、現在70名を受け入れれている。)</p>	<p>毎月1回、何らかの特別プログラム(ハイキング、合宿、キャンプ、ディキャンプ等第四の居場所機能)を行うことによって、子どもたちの児童館への期待感を高め、職員との距離を縮める努力を重ねてきた。第三の居場所としての基本的部分に関しては、体育室活動の点検、各種プログラムの充実に努めた。</p> <p>新規事業では、体力増進活動が子どもの身体調整能力に着目した活動を行い、保護者のニーズに一定の成果があった。</p> <p>任意の利用者数の増加は明らかである。</p>	<p>任意の利用はコンスタントにあった。</p> <p>利用者の多い時間帯には、複数のスタッフを配置し、交流が進むように態勢を整えた。</p> <p>利用の入り口として、気軽に利用できる設定は従来通り整っていた。</p> <p>一方、子どもたちを児童館との関係に留めて、思春期の児童に必要な多様かつ総合的な経験の領域を共有するには至らなかった。しかし、学習会では自分自身と格闘しながら真剣に取り組む子どもたちがあり、参加していない児童にも多少の刺激となっていた。</p>	<p>ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クリーン作戦(公園、周辺の清掃) 各定例活動にて各3回実施 ・ 共同募金(街頭募金) 各定例活動にて実施 <p>自然体験事業</p> <table border="1"> <tr> <td>定例活動ハイキング</td> <td>3回</td> <td>計</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>キャンプ</td> <td>6回</td> <td>計</td> <td>167名</td> </tr> <tr> <td>ディキャンプ</td> <td>2回</td> <td>計</td> <td>71名</td> </tr> <tr> <td>オーバーナイトハイク</td> <td></td> <td></td> <td>9名</td> </tr> </table>	定例活動ハイキング	3回	計	45名	キャンプ	6回	計	167名	ディキャンプ	2回	計	71名	オーバーナイトハイク			9名																																																															
定例活動ハイキング	3回	計	45名																																																																																	
キャンプ	6回	計	167名																																																																																	
ディキャンプ	2回	計	71名																																																																																	
オーバーナイトハイク			9名																																																																																	
活動・行事報告	<p>乳幼児クラス、キンダークラス 下記表参照</p> <table border="1"> <tr> <td>子育て講座</td> <td>3講座</td> <td>4回実施</td> <td>計</td> <td>51組</td> </tr> <tr> <td>子供服リサイクル</td> <td>2回実施</td> <td></td> <td>計</td> <td>43組</td> </tr> <tr> <td>水遊び</td> <td>5回実施</td> <td></td> <td>計</td> <td>60組</td> </tr> <tr> <td>夏トク すいか割り</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>65組</td> </tr> <tr> <td>夏トク 流しそーめん</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>11組</td> </tr> <tr> <td>都民の日スペシャルちびっ子タイム</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>16組</td> </tr> <tr> <td>劇団公演</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>73組</td> </tr> <tr> <td>クリスマス会(乳児)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>80組</td> </tr> <tr> <td>クリスマス会(幼児)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>49組</td> </tr> <tr> <td>乳児まつり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>60組</td> </tr> </table>	子育て講座	3講座	4回実施	計	51組	子供服リサイクル	2回実施		計	43組	水遊び	5回実施		計	60組	夏トク すいか割り				65組	夏トク 流しそーめん				11組	都民の日スペシャルちびっ子タイム				16組	劇団公演				73組	クリスマス会(乳児)				80組	クリスマス会(幼児)				49組	乳児まつり				60組	<p>分室親子ハイキング 高尾山</p> <p>分室クリスマス会</p> <p>本館クリスマス会</p> <p>本館分室合同プール遠足</p> <p>分室お別れ遠足 代々木公園</p> <p>本館お別れ遠足 代々木公園</p> <p>その他 分室遠足2回</p> <p>本館・分室共</p> <p>1年生タイム、2年生タイム、3年生タイム</p> <p>分室 工作タイム、手芸タイム</p>	<p>1年生定例活動(毎週1回)</p> <p>2年生定例活動(毎週1回)</p> <p>3年生定例活動(毎週1回)</p> <p>高学年定例活動(毎週2回)</p> <p>スポーツ大会(毎月1回)</p> <p>何でも大会(毎月1回)</p> <p>体力増進活動(毎週1回)</p> <p>クッキングクラブ(毎月2回)</p> <p>おはなし会(毎週1回)</p> <p>ブックトーク(毎月1回)</p> <p>手作り教室、手芸教室(毎月各1回)</p> <p>小学生学習会(毎週1回)</p> <p>他、体育室プログラム(毎週5回)</p>	<p>中高生学習会</p> <p>英語・算数・数学(毎週1回)</p> <p>中高生トーキングタイム(毎月1回)</p> <p>中高生スポーツ大会(毎月1回)</p> <p>中高生合宿 2回 計42名</p> <p>中高生クリスマス会 9名</p>	<p>共通行事等</p> <table border="1"> <tr> <td>こどもの日スペシャル</td> <td>90名</td> </tr> <tr> <td>パークランドフェスティバル</td> <td>1206名</td> </tr> <tr> <td>夕涼み映画会</td> <td>59名</td> </tr> <tr> <td>夏トク(すいか割り・小学生)</td> <td>62名</td> </tr> <tr> <td>夏トク(流しそーめん・小学生)</td> <td>66名</td> </tr> <tr> <td>都民の日スペシャル</td> <td>219名</td> </tr> <tr> <td>やきいも会</td> <td>538名</td> </tr> <tr> <td>もちつき会</td> <td>223名</td> </tr> <tr> <td>ふれあいひろば</td> <td>516名</td> </tr> </table>	こどもの日スペシャル	90名	パークランドフェスティバル	1206名	夕涼み映画会	59名	夏トク(すいか割り・小学生)	62名	夏トク(流しそーめん・小学生)	66名	都民の日スペシャル	219名	やきいも会	538名	もちつき会	223名	ふれあいひろば	516名											
子育て講座	3講座	4回実施	計	51組																																																																																
子供服リサイクル	2回実施		計	43組																																																																																
水遊び	5回実施		計	60組																																																																																
夏トク すいか割り				65組																																																																																
夏トク 流しそーめん				11組																																																																																
都民の日スペシャルちびっ子タイム				16組																																																																																
劇団公演				73組																																																																																
クリスマス会(乳児)				80組																																																																																
クリスマス会(幼児)				49組																																																																																
乳児まつり				60組																																																																																
こどもの日スペシャル	90名																																																																																			
パークランドフェスティバル	1206名																																																																																			
夕涼み映画会	59名																																																																																			
夏トク(すいか割り・小学生)	62名																																																																																			
夏トク(流しそーめん・小学生)	66名																																																																																			
都民の日スペシャル	219名																																																																																			
やきいも会	538名																																																																																			
もちつき会	223名																																																																																			
ふれあいひろば	516名																																																																																			
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>49</td> <td>45</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>2・3歳児クラス</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>年少クラス</td> <td>12</td> <td>22</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>年中・年長クラス</td> <td>27</td> <td>44</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>135</td> <td>166</td> <td>301</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	49	45	94	1歳児クラス	26	28	54	2・3歳児クラス	21	27	48				0	年少クラス	12	22	34	年中・年長クラス	27	44	71	計	135	166	301	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>43</td> <td>50</td> <td>93</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	14	18	32	2年生	15	17	32	3年生	13	14	27	5年生	1	1	2	計	43	50	93	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>2676</td> <td>3083</td> <td>5759</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>17569</td> <td>12895</td> <td>30464</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>5243</td> <td>1707</td> <td>6950</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1483</td> <td>9859</td> <td>11342</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26971</td> <td>27544</td> <td>54515</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 348日</p> <p>※1日平均 156.7人</p>		男	女	計	乳幼児	2676	3083	5759	小学生	17569	12895	30464	中・高校生	5243	1707	6950	一般	1483	9859	11342	計	26971	27544	54515	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>新一年生歓迎会 54名</p> <p>小学生合宿 3回 計163名</p> <p>墨田区児童館対抗ドッジボール大会参加</p> <p>児童館ブロック 体験学習キャンプ参加、交流フェスタ参加、ドッジフェスタ参加</p> <p>小学生クリスマス会 161名</p> <p>図書キャンペーン スタンプラリー 2回実施</p> <p>悪天候によって中止となった事業 川遊びディキャンプ、荒川イベント参加</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	49	45	94																																																																																	
1歳児クラス	26	28	54																																																																																	
2・3歳児クラス	21	27	48																																																																																	
			0																																																																																	
年少クラス	12	22	34																																																																																	
年中・年長クラス	27	44	71																																																																																	
計	135	166	301																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	14	18	32																																																																																	
2年生	15	17	32																																																																																	
3年生	13	14	27																																																																																	
5年生	1	1	2																																																																																	
計	43	50	93																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	2676	3083	5759																																																																																	
小学生	17569	12895	30464																																																																																	
中・高校生	5243	1707	6950																																																																																	
一般	1483	9859	11342																																																																																	
計	26971	27544	54515																																																																																	

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 外手児童館 事業報告

記入者/森 裕樹

指定管理

外手

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																							
事業の総括	乳児クラスについては四月当初より参加者が多く、途中から2クラスに変更するなどの対応に迫られた。逆に幼児クラスでは、5歳児クラスを幼稚園や3.4歳児等の絡みで土曜日に設定したが、これが裏目に出て、急遽金曜日の午後などにも枠を設けたが、中々参加者の伸びは得られなかった。今年度より光の園保育学校との出前保育(共催プログラム)はクラスに参加していない親子が多いことで、行う意味を痛感した。お母さんのリフレッシュを目的とした活動もニーズが高く、活動のほとんどがお母さんの声で上がったものを行った。	2007年度は待機児を出さない方向で始まった為、両学童とも定員を遥かに超えた児童の利用で部屋での保育にはとにかく問題があった。10月からの4ヶ月、改装工事が行われ、本館は2ヶ月間使用出来なくなり、1F地域集会室での保育となった。しかし、先発で行った体育館の工事が終わり、1.3Fと遊び場を提供する事は出来たが、障害児たちは場に慣れるのに少々時間がかかった。また、分室は月一回の家庭センター休館日に17時以降延長の児童を連れて児童館まで引率するなどの対応をした	低学年の組織活動は例年と同じくらいの参加があり、10月からの2ヶ月間体育館工事に伴い、外手小学校の集会室を借りて何とか活動を継続する事が出来た。高学年の組織活動ではどうしてもメンバーが固定化してしまう現状があり、他の高学年が入りにくい状態も少々見受けられた。しかし、逆にキャンプに障害児も参加したが、この固定化の良さが出て、『仲間』としての受け入れはとてスムーズで、職員よりもメンバーの方が色々身の回りの世話をしてくれていた。また毎月のおでかけ等での新たなメンバーの受け入れの窓口を作るなど開けた活動ではあったと思われる。	中学生の主力メンバーが受験と重なり、活動はほぼ高校生中心だった。それでも塾の前等に立ち寄って職員との時間をもっていた。改装工事中は、他の部屋を活用し、クッキングや映画会など児童館で出来るものを提供した。またロッククライミング等の今までに無い活動を取り入れたりした。また定例会(中高合同月1回)では、同世代の犯罪等の社会の動きに関心が上がり、テーマの一つとして話し合いを行った。恒例の軟式野球大会も離れたメンバーが戻ってくるなど組織を一つにするには良い企画だった。	夏祭りでは、小学生の組織メンバーを中心に、児童館に関わる団体や学童クラブの保護者等の協力によって運営する事が出来た。都民の日スペシャルでは、小学生に募集をかけ、駅前で赤い羽根の街頭募金を行った。(29名)2007年度は体育館改装工事が良い方向に進み、今まで各クラス(幼児)や各組織活動で行っていたクリスマス会を小学校の体育館を借りて委託以来初の合同で行った。お母さんコーラスや大学の人形劇サークルなども参加し、幅広い年齢層が楽しめる会となった。																																																																																							
活動・行事報告	0歳児クラス合計31回延べ953組参加 1歳児クラス合計33回延べ1007組参加 2歳児クラス合計34回延べ1034組参加 3歳児クラス合計19回延べ257組参加 4歳児クラス合計18回延べ197組参加 5歳児クラス合計10回延べ25組参加 (工作・運動あそび・おでかけ・クッキング等) 出前保育合計9回延べ625組参加 (映画会・西瓜割り・ミニえんにち・工作等) お母さん向け合計9回89名参加 (スポーツ大会・ブートキャンプ・手芸・お菓子作り・昼食会・映画会等)	本館(定員40)合計61 1年男14女11 2年男12女9 3年男6女5 5年女1 6年男2女1 分室(定員40)合計64 1年男14女16 2年男8女11 3年男8女7 誕生日会・買い物おやつ・手作りおやつ・おでかけ(プラネタリウム・防災館・アスレチック・どじょうすくい・夏祭り・クリスマス等)	組織活動 遊ぶ・学ぶ・ボランティアを中心に こども会議(月一回)高学年のみ、スポーツ・工作・お菓子作り・クッキング・映画会・考えよう(低学年)・公園清掃・夏祭り、クリスマス、ミニ緑日の装飾、運営(3年以上)・おでかけ等 低学年 1年男42女32 2年男24女37 3年男17女23 高学年 4年男7女16 5年男2女4 6年男13女2 一般参加 スポーツ大会・手芸、手作り、映画会・読み聞かせの会等	定例会・軟式野球大会・スポーツ大会・映画会・クッキング・ロッククライミング・館内合宿・ボーリング大会	幼児おでかけ・低学年おでかけ・高学年おでかけ・高学年キャンプ・こどもの日スペシャル・都民の日スペシャル・夏祭り・クリスマス・芋煮会・ハロウィンパーティー・グリーンフェスティバル・公園、館内清掃・赤い羽根街頭募金・																																																																																							
登録者・来館者	(登録数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>41</td> <td>50</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>29</td> <td>39</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>4歳児クラス</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>5歳児クラス</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>139</td> <td>153</td> <td>292</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	41	50	91	1歳児クラス	29	39	68	2歳児クラス	33	31	64	3歳児クラス	15	14	29	4歳児クラス	19	14	33	5歳児クラス	2	5	7	計	139	153	292	(在籍数) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>64</td> <td>61</td> <td>121</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	28	27	55	2年生	20	20	40	3年生	14	12	26	4年生	0	0	0	5年生	0	1	1	6年生	2	1	3	計	64	61	121	(2007年度来館者数) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>2598</td> <td>2926</td> <td>5524</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>18599</td> <td>17663</td> <td>36262</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>4972</td> <td>1480</td> <td>6452</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1746</td> <td>6648</td> <td>8394</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27915</td> <td>28717</td> <td>56632</td> </tr> </tbody> </table> ※会館日数 348日 ※1日平均 134.9人		男	女	計	乳幼児	2598	2926	5524	小学生	18599	17663	36262	中・高校生	4972	1480	6452	一般	1746	6648	8394	計	27915	28717	56632	(その他の事業、特記事項) 館内改装工事(玄関自動扉交換、照明アップ、各階塗装、学童室床張替えロッカー増設、各トイレ壁張替え、階段アスベスト撤去、体育室床・壁張替え) 出前保育(光の園保育学校との共催)・お母さん向けリフレッシュ企画(乳幼児保護者) 外手小連合子供会祭りに参加 学童クラブ児童についてのケース会議
クラス名	男	女	計																																																																																									
0歳児クラス	41	50	91																																																																																									
1歳児クラス	29	39	68																																																																																									
2歳児クラス	33	31	64																																																																																									
3歳児クラス	15	14	29																																																																																									
4歳児クラス	19	14	33																																																																																									
5歳児クラス	2	5	7																																																																																									
計	139	153	292																																																																																									
	男	女	計																																																																																									
1年生	28	27	55																																																																																									
2年生	20	20	40																																																																																									
3年生	14	12	26																																																																																									
4年生	0	0	0																																																																																									
5年生	0	1	1																																																																																									
6年生	2	1	3																																																																																									
計	64	61	121																																																																																									
	男	女	計																																																																																									
乳幼児	2598	2926	5524																																																																																									
小学生	18599	17663	36262																																																																																									
中・高校生	4972	1480	6452																																																																																									
一般	1746	6648	8394																																																																																									
計	27915	28717	56632																																																																																									

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱社 平野児童館 事業報告

記入者/松原 万緒

指定管理

平野

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																									
事業の総括	<p>0歳から3歳までの年齢別活動は、昨年度に引き続き定員を設けずに実施したことにより今年度も幅広い地域から多くの親子の参加があった。特に0歳児クラスの参加は年度の後半にかけて増加し、母親同士のネットワークによって活動への参加が広がっているようである。利用者からのアンケートの結果、クラス活動の内容に関しては満足していただいているようであるが、場所が狭い、エレベーターが混雑する、少人数のクラス分けをする時間や場所がないなどの昨年度から続いている課題をはじめ、午後児童館を利用する幼稚園児連れ親子の利用も増加していることから、乳児と小学生との間での遊び場所の区分けの難しさなどの問題点も出てきている。今後も利用者の声を聞きながらクラス内容や環境整備を工夫して、利用者の理解を得られるよう努めたい。また、地域に住んでいる外国人のお母さんたちの支援として「レクリエーションクラス」を今年度より新規事業として活動するようになったことにより、新たな多くの参加者が増えたと同時に、活動のボランティアが結成された。</p>	<p>・前年度に引き続き、子どもたちひとりひとりの個性及び意志の尊重、及び集団生活を通じ社会力を育ていけるような日常プログラム・生活指導を展開した。 ・帰宅後、家族での団欒のひと時を持てるよう、また児童館での自由時間を効率良く過ごせるよう、学童クラブで必ず宿題を済ませるよう励行した。 ・学年ごとに設定したゲーム大会・スポーツタイムなどを展開し、遊びの中で人間関係の大切さを伝えることができた。 ・保護者とは常に連絡帳や電話などで連絡を密に取ることで子どもの安全やスケジュールを把握するように努めた。 ・今後は自由時間に使用できる遊具の充実や、子ども達が学童クラブでの生活をより楽しく過ごせるよう、バリエーションに富んだプログラムを展開する。 ・さらに各家庭との連絡をより緊密にすると共に、意見や要望をより迅速に事業内容に反映させ、子ども及び保護者がより安心と満足を感じられるような体制作りを目指す。 ・クラブ室内及び設備の清掃も強化し、常に衛生的な室内環境を維持するよう努める。</p>	<p>○指定管理者として館を運営して2年が経ち、日常活動や組織活動、各種イベントなど、児童館の事業が利用者の間に浸透してきていることを感じている。 ○近隣の小学校の下校時刻や、組織活動のある日とない日とで、来館者数に変動がある。 ○高学年の女子は日常の来館者数は少ないが、キャンプやお出かけ等のイベントには数多く参加する。児童館の利用の仕方を決めているように思われる。 ○今後、来館者数が少ない学年や高学年女子などに積極的に働きかけていくとともに、既に来館している子どもたちや、保護者、地域のニーズに応えることができるよう、環境の整備やプログラムの展開を図っていくことで、児童館が利用者にとってよりよい居場所となれるよう努めていきたい。 ○イベントを行ったり、プログラムを提供するだけでなく、利用者がのんびりと過ごせる時間や場所の確保もしていきたい。 ○組織活動は、前年度に比べて登録者数も増え、子どもたちの中でも定着してきたようである。クリスマス会や冬まつりなどを協力して行うことで、協調性や責任感を育むことが出来た。 次年度も子どもたちの成長に合ったものや、季節を感じられるものなど、学年を考慮した内容を吟味・精選して、子どもたちにとってよりよい経験となるような活動を目指したい。</p>	<p>昨年度に引き続き、18時～19時を中学生のみが遊べる時間として設定した。近隣の中学校は部活動及び学校行事が非常に盛んであるため、一定のペースで来館者を呼び入れることは難しかったものの、各種イベントにおいては毎回多くの参加者が集まり、大きな盛り上がりを見せていた。行事以外では集会室でのタスケ(個人戦ドッジボール)・卓球、ロビーでのビリヤード・カードゲーム、屋上でのスポーツなどをして過ごしていた。また図工室などその時間空いている部屋を中学生専用のスペースとしたり、新たなストレス発散ツールとしてサンドバッグとグローブを購入するなどして環境の整備にも努めた。今後も中学生の居場所としての存在をアピールし、思春期特有の様々な悩みや不安を発散または気軽に相談できる環境づくりを目指していきたい。</p>	<p>○江東区より委託を受けて2年目を迎えた。昨年度無我夢中で行ってきた活動の中身を検討し、今年度は丁寧さを加え、充実した事業展開を目指してきた。特に、子どもたちやその家庭、地域に目をかけながらニーズを探り、自分たちに出来るところから行動に移していくという視点より取り組んだ「国際交流プログラム」「レクリエーションクラス」を運営できたことは、地域の新たな可能性を知るためにも、良い機会となった。今後も、多くの方々との交流を大切にし、利用者と共に必要とされる児童館を目指していきたいと考え、 ○自然とふれ合う機会が少なくなった都会の子ども達に少しでも然に触れて欲しいという願いから、数回のお出かけを実施した。キャンプでは、火を起こしたり、食事を作ったりして生活のスキル子どもたちと共に学んだ。 ○年4回のお祭りなどの大きな行事は、地域の方々と触れ合うことのできる貴重な時間となった。今年度も多くの方にボランティアとして参加して頂き、共に作りあげることができた。</p>																																																																																									
活動・行事報告	<p>【年間行事報告】 ・乳幼児運動会 316人 ・水遊び 133組(5回) ・子ども服夏物リサイクル 70人(2回) ・夏休み特別プログラム 176組(3回) ・幼稚園児向けプログラム 24組 ・乳幼児クリスマス会 186組 ・人形劇 83組 ・ボランティアによる人形劇 75人 ・レクリエーションクラス 115組(7回) 【子育て講座】 ・集団生活について 69人 ・離乳食から幼児食の移行期の食育講座 42人 ・1歳児の健康・発達について 40人 ・栄養士による離乳食講座 34人</p>	<p>【行事プログラム】 入会式・お別れ会(お別れ遠足)・クリスマス会 【外出プログラム】 遠足(東京都児童館・高尾山ハイキング)・観劇会・江東区ドッジボール大会 【日常プログラム】 公園遊び(清澄児童遊園・清澄公園)・けん玉検定・こま検定・手作りタイム・わなげ大会・お楽しみおやつ(買い物ごっこ・買い物体験) ・お帰りの会でのゲーム会 【その他】 個人面談(年1回開催)・保護者会(年4回開催)・父母会との親睦会(年2回開催)</p>	<p>【週間プログラム】スポーツタイム(ドッジ、サッカー、ユニホック、キックベース、タスケ) 【月例プログラム】工作タイム、手芸タイム、わなげ大会、一輪車検定、アコロソさんのお話し会、スポーツ大会(ドッジ、サッカー、ユニホック、キックベース、タスケ)、折り紙教室、映画会、ビデオシアター 【年間プログラム】国際交流プログラム(フィリピン、中国、インド、韓国、サモアの紹介と交流) 【季節行事】こどもの日フェスタ(169人)、相撲大会(154人)なつまつり(415人)、ほのぼの秋まつり(老人福祉センターとの共催)(326人)、ひらのラリー(163人)、こどもクリスマス(210人)、こどもふゆまつり(307人) 【外出・宿泊行事】低・高デイキャンプ(春・冬)、1～2年・3～6年キャンプ(夏・秋)、低・高館内合宿、オーバーナイトハイク(60人)、 【組織活動】1年生スマイルクラブ、2年生スマイルクラブ、3年生スマイルクラブ、高学年スマイルクラブ 【その他】使用済み切手収集、エコキャップ収集、</p>	<p>【年間行事】 サッカー大会(5/20、18人) アクセサリー作り(ナチュラルヘンプ製、6/22、3人) タスケチャンピオンズカップ(年4回) クリスマス会(12/21、17人) アクセサリー作り(ビーズ製、1/23、3人) マフラー作り(3/4、19人) 【自然体験事業】 バーベキュー お台場、8/2、5人) 【合同事業】 体験学習キャンプ(あさひ福祉作業所、8/10～13、1人) 3on3 バスケ大会(汐入、3/21、25人) 【館内合宿】 館内合宿(7/1、15人) 館内合宿(3/22、20人)</p>	<p>【全世代事業】 こどもの日フェスタ(5/5、169人)、すもう大会(6/13、154人)、ひらのつり(7/15、415人)、ほのぼの秋まつり(10/27、326人)、こども冬まつり(2/23、307人)、国際交流プログラム 【自然体験事業】 高学年デイキャンプ(葛西臨海公園、6/30、17人) 3～6年サマーキャンプ(あきる野市、8/20～22、52人) 1・2年サマーキャンプ(桐花園、8/24～26、60人) 1・2年秋キャンプ(清水公園、10/7～8、57人) 3～6年秋キャンプ(奥多摩、11/17～18、29人) 高学年デイキャンプ(江戸川スポーツランド、1/20、35人) 低学年デイキャンプ(科学技術館、3/15、92人) 【ボランティア活動】 クリーン作戦(小学生)、使用済み切手収集(利用者、小学生) ユニセフ募金(利用者)、エコキャップ収集(利用者)</p>																																																																																									
登録者・来館者	<p>子育てひろば(年齢別活動)登録・実績数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> <th>年間出席</th> <th>年間回数</th> <th>1回平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>162</td> <td>135</td> <td>297</td> <td>2512</td> <td>72</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>87</td> <td>91</td> <td>178</td> <td>1769</td> <td>36</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>100</td> <td>70</td> <td>170</td> <td>1850</td> <td>34</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>15</td> <td>23</td> <td>38</td> <td>553</td> <td>32</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>364</td> <td>319</td> <td>645</td> <td>6684</td> <td>174</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>子育て相談件数：53件</p>	クラス名	男	女	計	年間出席	年間回数	1回平均	0歳児クラス	162	135	297	2512	72	6	1歳児クラス	87	91	178	1769	36	4	2歳児クラス	100	70	170	1850	34	4	3歳児クラス	15	23	38	553	32	5	計	364	319	645	6684	174	1	<p>(学童クラブ在籍数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>46</td> <td>42</td> <td>88</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	17	21	38	2年生	14	9	23	3年生	15	12	27	4年生			0	計	46	42	88	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>6945</td> <td>6764</td> <td>13709</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>21389</td> <td>14321</td> <td>35710</td> </tr> <tr> <td>中・高</td> <td>1795</td> <td>1364</td> <td>3159</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>16920</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30129</td> <td>22449</td> <td>52578</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 323日 ※1日平均 163人</p>		男	女	計	乳幼児	6945	6764	13709	小学生	21389	14321	35710	中・高	1795	1364	3159	一般			16920	計	30129	22449	52578	<p>(2007年度 新規事業)</p> <p>○ 国際交流 ★国際交流プログラム(全世代事業) ・フィリピン・中国・インド・韓国・サモアをテーマに取り上げたプログラム 計 人(8回) ★乳幼児国際交流(Recreation Class) 計 115組(7回) ○ ベビーオイルマッサージ(乳幼児事業) 計 61人(5回) ○ お話会(小学生事業) 計 78人(3回) *以上の新規事業は、全てボランティアと共同事業。</p>
クラス名	男	女	計	年間出席	年間回数	1回平均																																																																																								
0歳児クラス	162	135	297	2512	72	6																																																																																								
1歳児クラス	87	91	178	1769	36	4																																																																																								
2歳児クラス	100	70	170	1850	34	4																																																																																								
3歳児クラス	15	23	38	553	32	5																																																																																								
計	364	319	645	6684	174	1																																																																																								
	男	女	計																																																																																											
1年生	17	21	38																																																																																											
2年生	14	9	23																																																																																											
3年生	15	12	27																																																																																											
4年生			0																																																																																											
計	46	42	88																																																																																											
	男	女	計																																																																																											
乳幼児	6945	6764	13709																																																																																											
小学生	21389	14321	35710																																																																																											
中・高	1795	1364	3159																																																																																											
一般			16920																																																																																											
計	30129	22449	52578																																																																																											

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 亀戸児童館 事業報告

記入者／永澤 和男

指定管理

亀戸

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																							
事業の総括	江東区から指定管理者制度の指定を受け、平野児童館に次いで2館目の公設民営となった亀戸児童館として、いままで以上に地域のニーズや要望を掘り起こすことは難しいことでもあったが、事業理念と事業目標を活かしながら各担当が努力して活動を展開したので、子育て中のお母さんと乳幼児さんが家から出て気分転換できる居場所となったり、乳幼児の活動を通して仲間づくりや交流の場を作っていくことができた。こうした事柄がきっかけとなり年齢に応じたグループ活動展開ができたことで、子育ての悩みや不安等も多少だが解決できたり、発達段階に応じた活動を丁寧に行っていくことでお母さんや子どもたちとの信頼関係を作ることができたことも1年目の事業として大きかった。次年度も地域のニーズを掘り起こしていきたい。	学童クラブの事業は、色々な面で大変な部分を抱えているが各地域で子どもたちや保護者と向き合っている様々な活動を取り入れて運営することができたことにより評価としては概ね好評を得ることができた。子どもの生活環境や社会の変化が大きくなり変りゆく中で、子どもの生活や家庭環境が個々の子どもに与える影響が特に大きく、その指導を担当するスタッフは苦勞の連続であるが、1年が過ぎ子どもたちの成長に少し癒されながらも目の前の課題はたくさんあって大変である。児童館併設学童クラブは90人の登録があり、平均で出席率が75-80%あり、児童館スタッフもサポートしながらどうにか乗り切ることができたが、親館システムの導入に関しては、分室の理解をうまく得られず、十分な対応と支援ができなかったことで課題を残す結果となった。また、地域性に差があり、学童クラブ事業をうまく進められるところもあったが、子どもや家庭の問題を抱えている所ではその対応に苦慮した。今年度の反省を活かし、次年度は親館システムの利点を活かしながら大島四丁目・八丁目・亀戸学童クラブが共に協力しあって安定した運営に心がけたい	前期は地域の子どもたちと初対面であり戸惑うことも多かったが、前年度の慣れ親しんだやり方を優先させながらも少しずつ改革を進めて行ったので、混乱することなく移行することができた。初年度は中堅スタッフに若いスタッフも加わり、地域の子どもたちとスポーツを通して交流を深めたり、その中から信頼関係を築くようにして行ったことが親交を深めるきっかけとなった。また、担当スタッフの子どもの関わり方とプログラムの展開において色々な種目を経験できるようにした。このような努力の結果、子どもたちからの信頼を得ることができた。こうした取り組みを活かして、後期は学年別グループ活動「かめっ子」を展開することにより、さらに多くの子どもたちの交流を深めることができた。その中で事業目標を活かしていくようにしていったが、今年度は年度途中からの取り組みだったので、これからという思いのところまで最終回になってしまったので次年度へ発展させたい。	公設民営の柔軟な対応の一つとして、時間の延長があり、今まで中学生・高校生の時間は1時間程度だったが、夜間7時まで開館することができるようになった。中学生の居場所作りとして中高生タイムを行ったが、信頼関係をうまく築くことがなかなか出来ず、個人やグループで中高生タイムはある程度あったが、企画に参加してもらえないままでは至らなかった。中学生たちの持つグループ意識もあり、まとめていくのに時間がかかりそうだが、来館した子どもたちとの交流を深めながら信頼関係を作っていくようにしたい。企画の積極性や中学生へのPR等、中学生・高校生にも加わってもらいながら色々な活動を作っていくたり、いつ来てもリラックスして過ごせるような環境作りを力を入れていきたい。音楽やスポーツ等、少しずつレパートリーを増やせると良い。	高学年ディキャンプ(清水公園アスレチック)・親子で外出(高尾山山登り)・高学年キャンプ(川井キャンプ場)・乳幼児お出かけ(葛西臨海公園ピクニック)・高学年お出かけ(アイススケートに行こう/江戸川区スポーツランド)低学年ディキャンプ(雨天のため、光が丘公園から科学技術館に変更した。)野外活動はリスクの高い活動ではあるが、参加した子どもたちや保護者からは支持も高く好評なので機会を作って今後も取り組みたい。中学生体験学習キャンプは興味・関心を持ってくれたが参加には至らなかった。貴重な体験になるので参加を促していきたい。																																																																							
活動・行事報告	<p><年齢別グループ活動></p> <p>0歳児高月齢 ぱんだクラス 毎週火曜日 10:00～10:45</p> <p>0歳児低月齢 赤ちゃんぱんだ毎週火曜日 11:00～11:45</p> <p>1歳児 うさぎクラス 毎週木曜日 10:30～11:30</p> <p>2・3歳児 こあらクラス 毎週金曜日 10:30～11:30</p> <p>※活動の終了後は各クラスランチタイムへ移行してゆっくり過ごせるようにしている。</p> <p>各クラス「運動遊び・ふれあい遊び・コーナー遊び・リズム遊び・お楽しみ会・誕生会・手遊び・体操などを通して発達を促す取り組みをしているのが好評である。</p> <p><行事>子育て講座(育児についての本音トーク・本と触れ合おう・お母さんの子育ておしゃべりひろば)・夏まつり・夏休み特別幼児活動・夏休み特別水遊び・親子外出・乳幼児お出かけ・乳幼児運動会・クリスマス会・子ども服作り・冬まつり</p>	<p>日常活動では、子どもたちが安心して過ごせるように配慮したり、遊びが充足するように配慮すると共に、生活習慣の確立を促した。延長保育について人数も多く、個々の子どもへの対応が難しい面もあるが、異年齢交流の場にしたたり、遊びを充足させながら時間を過ごせるようにした。また、一人帰りの子どもを送り出す等の配慮をした。<おやつについて>子どもたちが楽しみながら食べられるように買い物おやつやお店屋さんなど工夫し、取り組み、栄養面に配慮しつつ心と体の健康面をサポートしていた。<グループ活動・誕生会>縦割りグループを作っておやつのお番やレクリエーションを担当する係等、みんなで担当していく。3年生が中心になって亀戸レストランを担当して夏の父母会のお弁当の日も楽しく取り組めた。<行事>入会式・入学/進級おめでとう会/観劇会/遠足/親子クリスマス会/江東区トッポボール大会(3位入賞)/その他、季節の遊び</p>	<p>設定スポーツ(トッポボール・タカ・エホック・サッカー)を通して地域の子どもたちの交流を深めたり、体力の増進を促す。また、月一回のスポーツ大会やバンパー大会など、個人やチームの努力を表彰して興味や関心を高めている。子どもたちの経験や社会性を促すピクニック・手作りタイム・おはなしの会・高学年キャンプ・小学生合宿、エホック・クリーン作戦等、ボランティア活動にも取り組む。学年別グループ活動「かめっ子」では「1年生・2年生・3年生・高学年」のグループ活動に取り組み、活動の中では「遊ぶ・学ぶ・ボランティア」等の活動に取り組んだ。<行事></p> <p>こどもの日は児童館で遊ぶ・夏まつり・交流フェスタ・クリスマス会・交流トッポフェスタ・ふゆまつりを開催してたくさんの人々に楽しんでいただく。江東こどもまつり・亀戸地区なつまつり・児童館主催卓球大会・城東地区卓球大会に参加して交流を深める</p>	<p>スポーツ&焼きそばパーティーを企画するが、参加者が1・2名だったため中止となる。少人数でも実施して実績を作るようにした方が良かったと反省するが、来館者との信頼関係が十分作れていないため、なかなか企画をしたりPRが出来ず、反省の多い年となる。取り組み方に課題を残したが、次年度はこうした点に意識して取り組みたい。</p>																																																																								
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>190</td> <td>161</td> <td>351</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>50</td> <td>45</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>2・3歳児クラス</td> <td>39</td> <td>50</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>279</td> <td>256</td> <td>535</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	190	161	351	1歳児クラス	50	45	95	2・3歳児クラス	39	50	89				0	計	279	256	535	<p>(在籍時数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>47</td> <td>41</td> <td>88</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	25	14	39	2年生	9	12	21	3年生	13	15	28	4年生			0	計	47	41	88	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>4211</td> <td>4295</td> <td>8506</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>19270</td> <td>14333</td> <td>33603</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2008</td> <td>126</td> <td>2134</td> </tr> <tr> <td>高校生・一般</td> <td>482</td> <td>8580</td> <td>9062</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25971</td> <td>27334</td> <td>53305</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 323日 ※1日平均 165人</p>					乳幼児	4211	4295	8506	小学生	19270	14333	33603	中学生	2008	126	2134	高校生・一般	482	8580	9062	計	25971	27334	53305	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>地域連絡会の中で、民生・児童委員の方々から協力体制にあることを教えていただき、今年実施した乳幼児の事業や児童館事業でボランティアの手があると助かる部分が多いので、連絡を取ってお互いに協力して地域の子どもたちを見守っていくことができたと思う。第3者評価を江東区の指導で受ける機会を得られ、10～12月にかけて実施することになった。来館者や学童クラブ・保護者・職員・管理職、それぞれの立場からのアンケート調査・ヒアリングがあり、指定管理者制度委託1年目の取り組みだったが、実施後の評価は概ね好評で、乳幼児の事業も好評だった。小学生の事業では色々な取り組みがなされ、積極的に活動をしている点で評価が更に高かった。その反面、地域とのかかわりや中学生の事業では取り組みや積極性に欠けている面が出て低い評価となったが、地域福祉サービスという面から、きめ細かい対応を地域の方が求めているので反省点を改善して地域に還元していきたい。事業の在り方や実施にあたって更に配慮していきたい</p>
クラス名	男	女	計																																																																									
0歳児クラス	190	161	351																																																																									
1歳児クラス	50	45	95																																																																									
2・3歳児クラス	39	50	89																																																																									
			0																																																																									
計	279	256	535																																																																									
	男	女	計																																																																									
1年生	25	14	39																																																																									
2年生	9	12	21																																																																									
3年生	13	15	28																																																																									
4年生			0																																																																									
計	47	41	88																																																																									
乳幼児	4211	4295	8506																																																																									
小学生	19270	14333	33603																																																																									
中学生	2008	126	2134																																																																									
高校生・一般	482	8580	9062																																																																									
計	25971	27334	53305																																																																									

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 汐入ふれあい館 事業報告

記入者/伊藤美智子

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	成人対象事業																																																																																											
事業の総括	<p>* 地域に転入する方が多く乳幼児活動への要望も多い。2、3歳児クラスの他、要望の多い0、1歳児を各2クラスにして受け入れ、3～5歳児クラスも行う。託児付き映画会、救急法等の講座、父親参加の遠足等、子育て支援の活動を積極的に行う。『子育てひろば』として毎日クラス活動以外に職員が親子と関わる場を設け育児不安の解消の手助けを行ってきた。玩具、遊具、絵本を充実させ、プレイルームを毎日20時まで開放することで父親と子の利用が増えている。</p>	<p>* 新たに汐入小学童クラブの委託を受け、七峡小学童クラブと本館の汐入学童クラブとで3箇所となる。各担当者との話し合いを大事にし事業計画、予定表、お便り等統一出来るものを整備する。行事も合同で行うなど職員、子ども達の交流を大切にしていた。七峡小学童クラブ担当者1名が休職した間も互いの保育を検証する良い機会にすることができた。各クラブ共、多くの子どもを受け入れている分、苦情も多く、理不尽と思える事案もあるが丁寧な対応を心がける。玩具、本の充実、環境整備等、より良い居場所作りを行ってきた。</p>	<p>* スポーツ活動の充実、1年生が安心してスポーツに親しめる低学年タイム、料理、手芸、木工等の生活経験の幅を広げる活動、合宿、キャンプ、お出かけ等、健全な遊びを提供し自主性、社会性の育ちを支援してきた。図書も充実させ読書の機会を増してきた。一般来館の子どもが増えてきている。高学年クラブ活動も2年目となり、登録数が倍以上、毎回の参加者も多く熱心に取り組んでいる。キャンプも2泊で行う。合宿は冬も取り入れ低学年、高学年共2回行う。申し込み日に満員になるほどの人気である。</p>	<p>* 3on3、卓球、野球等のスポーツ、ギター、料理作り、ミサンガ等の手作りとおしゃべりを共に楽しみ、彼等の居場所作りをして来た。祭りへのボランティア参加もあり、館との関わりも深まって来ている。合宿も2回行い、良い交わりが出来た。漫画、中高生向け雑誌も充実させて来たが、よく読まれている。しかし、学校の行事、部活動との関係で来館の人数が左右される。ギターは成人と合同の活動で交流の場ともなっている。</p>	<p>* スポーツタイム、食事会を昼と夜に行い、映画会も中高年向けと主婦向けのものを行う等、活動に興味を持ち、利用し易い工夫をした。パソコン・ギター・絵手紙教室も好評である。雑誌もよく読まれている。流行の読み物を購入する等図書も充実させてきた。折り紙タイムを新たに設けるがこれも好評であり、地域の方たちの交流の場ともなっている。地域に3つある老人会の踊り、カラオケ、わなげ、親睦会等への支援も丁寧に行ってきた。</p>																																																																																											
活動・行事報告	<p>クラス活動：0～5歳児 月～金曜日 子育て講座：救急法 離乳食 歯の話 講演会 パパも遊ぼう：遠足 ハロウィン 焼き芋会 観劇 クリスマス お母さんの為の映画会：毎月1回 託児付 日常活動：プレイルーム20時まで開放 体育室に玩具を出し13時まで開放 子ども服リサイクル：隔月 無料 子育てひろば事業：毎日 相談等 ランチコーナー：毎日 自由に使って貰う。</p>	<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 誕生会 お店屋さん：毎月1回 おやつ作り：毎月数回 お出かけ：汐入公園 東京都児童館 小松川親水公園 トトロの森 合宿：汐入、汐入小 キャンプ：七峡小 父母会合同クリスマス会：汐入 七峡小 父母会合同夕涼み会：汐入 保護者会：年4回 個人面談：年1回 他随時受ける</p>	<p>多目的室：ドッジボール タスケ キックベース サッカー 一輪車 バドミントン 低学年タイム レクタイム等 創作室：絵手紙教室 絵手紙、手芸、手作り、折り紙、木工タイム、工作等 図書室：お話し会 料理タイム等 映画会：月3回 高学年クラブ活動：毎火曜日 お出かけ：低学年 高学年 合宿：低学年 高学年 各2回 キャンプ：高学年 2泊</p>	<p>毎日18～19時 中学生タイム リトルキッチン：月1回 料理作り スポーツ大会：月1回 3on3 卓球 バドミントン 野球等 合宿：2回</p>	<p>胡悠会、朗悠会、常盤会：踊り、わなげ カラオケ・・・各々毎日午前、午後行う。 保育園児との交流会（ひな祭り、わなげ） なかよし会、一般カラオケ：カラオケ ころばん体操：毎金曜日 スポーツタイム：火曜日、金曜日 絵手紙教室：第2木曜日 折り紙教室：第2金曜日 映画会：第3、4金曜日 ギター塾：第4水曜日 パソコン教室：火曜日</p>																																																																																											
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>101</td> <td>114</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>70</td> <td>81</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>2,3歳児クラス</td> <td>74</td> <td>83</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>3～5歳児クラス</td> <td>39</td> <td>43</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>284</td> <td>321</td> <td>605組</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	101	114	215	1歳児クラス	70	81	151	2,3歳児クラス	74	83	157	3～5歳児クラス	39	43	82				0				0	計	284	321	605組	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>36</td> <td>40</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>38</td> <td>35</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>31</td> <td>30</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>106</td> <td>105</td> <td>211</td> </tr> </tbody> </table> <p>汐入：92 汐入小：50 七峡小：69</p>		男	女	計	1年生	36	40	76	2年生	38	35	73	3年生	31	30	61	4年生	1		1	計	106	105	211	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>乳幼児</th> <th>小学生</th> <th>中・高校生</th> <th>一般</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5131</td> <td>6323</td> <td>11454</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>16156</td> <td>12926</td> <td>29082</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>2612</td> <td>732</td> <td>3344</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>23180</td> <td>23180</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23899</td> <td>43161</td> <td>67060</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 356日 ※1日平均 188人</p>		乳幼児	小学生	中・高校生	一般	計		5131	6323	11454				16156	12926	29082				2612	732	3344				0	23180	23180			計	23899	43161	67060			<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>全世代対象事業：夏祭り(557名) ふれあい祭り(347名) 貸館業務：地域の方の自主的な活動支援として、空いている部屋の貸し出し、還付業務のほか、区指定の物品以外の物も要望に応じて貸し出す等、丁寧に行っている。 荒川区ふれあい館交流フェスタ：区の指定管理者としてのふれあい館5館が合同で初めて交流フェスタとして活動をする。老人会の踊り、幼児クラスのダンス、小学生の手話と歌の3グループが汐入ふれあい館から出演する。その為の準備の活動も熱心に行う。 シルバーパス交付：部屋を貸す他、問い合わせ等の対応。</p>
クラス名	男	女	計																																																																																													
0歳児クラス	101	114	215																																																																																													
1歳児クラス	70	81	151																																																																																													
2,3歳児クラス	74	83	157																																																																																													
3～5歳児クラス	39	43	82																																																																																													
			0																																																																																													
			0																																																																																													
計	284	321	605組																																																																																													
	男	女	計																																																																																													
1年生	36	40	76																																																																																													
2年生	38	35	73																																																																																													
3年生	31	30	61																																																																																													
4年生	1		1																																																																																													
計	106	105	211																																																																																													
	乳幼児	小学生	中・高校生	一般	計																																																																																											
	5131	6323	11454																																																																																													
	16156	12926	29082																																																																																													
	2612	732	3344																																																																																													
	0	23180	23180																																																																																													
計	23899	43161	67060																																																																																													

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 岩戸児童センター 事業報告

記入者/佐藤 洋子

指定管理

岩戸

	子育て支援活動	小学生クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																			
事業の総括	<p>年齢別親子講座は1期ごとにアンケートをとり、出された意見を次年度に繋げる事で良い見直しが出来、利用者の声の重さを知り受け止める。</p> <p>幼児食教室は次年度も和泉児童館と連携し役割を担っていく。今年度から始めた0歳児親子の「ねんね」は児童館の空いている部屋を使った、定員なしの活動で予想以上の参加者に0歳児を持つ親の居場所作りの必要を実感し、次年度は月2回から4回へと増やし人と人を繋ぐ場として提供していきたい。すくすく測定は、親にとり一喜一憂する時でもあり、いろいろな思いを丁寧に共有することを心がける。親の声により午後の測定も2回にする。次年度も今年度の活動をベースにし、利用者の声に耳を傾け、子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場、地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、子育てを応援する場として役割を担っていく。</p>	<p>今年度は、前例に無い3年生1名、障碍児6年生3名、他は1,2年生の構成でのクラブとなり、中でも半数が1年生の入所だったので、1期は1年生に関わる時間が多く、上級生が1年生に遊びを教えるなどの姿はあまり見られず、2年生と1年生と一緒に遊ぶ姿は少なかった。頑張っている2年生にも特別おやつタイムを設けるなどを配慮する中でリーダーになろうと頑張る姿も見られた。おやつ作りの回数も昨年度より多く取り入れたが、次年度も取り入れて皆で関わる事でコミュニケーション力をつけていきたい。カフェ(親たちの交流の場)も今年度より手芸や手作りおやつなどの作業をしながら、職員とホッとしたおしゃべりの時間を過ごし、親たちからも好評を得“ぜひ次年度も続けて欲しい”との声がある。閉館ぎりぎりの迎え、又は7時過ぎでの迎えになることもあり、連絡いただく事はお願ひし柔軟な対応を心がけた。</p>	<p>年間を通したロッキークラブ組織活動の参加率は、1期より2期と期を追うごとに参加する児童が少なくなっている。ロッキークラブ活動が子どもたちや、地域の方々に定着してきていることは、励みとなっているが、参加しない子ども達の理由は友達関係、習い事等あると考えられる。でも活動がマンネリ化してないだろうか?子どもに感動与える遊び、子ども達の関係が高まる活動を意図とした取り組みをしていく事も大きな課題となる。</p> <p>低学年の泊まりのキャンプは今までセンター内の実施のみで館外では、初めての取り組みだった。結果希望者が多く、ニーズに対応仕切れず、親たちから「残念」の声が多く聞かれ、ニーズを掴めなかった事の反省をふまえ20年度は企画の見直しをする。学校の伝承遊びの取り組みから、児童館でも、コマ、けん玉などを挑戦していた</p>	<p>中高生の新たな居場所作りとして出発した音魂活動。音楽というジャンルの力を借り、大人と人が関わり合うきっかけ作りになっていると感じた。ライブ活動や、実際にチャリティーコンサート見学など実体験をもとに自ら成長していく姿を拝見することができた。今後はより活動の場を広げ、ボランティア活動、市民行事への参加など、地域との連携を心がけていきたい。</p>	<p>今年は中高生活動の音魂を地域ボランティア中心に活動を展開してきた。結果として、大人と次世代の子どもが繋がりあうきっかけの場を育むこととなった。次年度も地域の大人の方々から力を借り、子どもや大人たちが一つになる取り組みをしていきたい。また、保護者や地域の方々のボランティアを発掘していきたい。</p>																																																																			
活動・行事報告	<p>たんぼぼひろば (AM9:00~PM6:00 まで開放) 相談件数・・・年間 276 件 ねんね赤ちゃんプレイルーム・・・年間 299 組 (延べ人数) すくすく測定・・・年間 912 組 (延べ人数) 幼児食教室・・・3 回実施 計 34 組 年齢別親子講座・・・I 期: 61 組 II 期: 78 組 III 期: 64 組 ふれあいの音楽会・・・2 回 97 組 水あそび・・・8 回 135 組 おいもほり・・・74 組 ハロウィン・・・39 組 世界でたった一つの手作り絵本・・・10 組 もちつき大会・・・41 組</p>	<p>新入生歓迎会 4/2 (月) 35 名 親子交流会 6/30 (土) 子 28 名大 25 名 お昼ごはん作り 計 2 回 平均 24 名 レトルトデイ 計 3 日 平均 26 名 夏休み工作 計 3 週間 平均 13 名 夏休みお出かけ 8/8 (水) 25 名 小クラカフェ 計 4 回 平均 7 名 センター合宿 10/13,14 31 名 親子ごはん会 11/17 (土) 子 18 名大 19 名 親子遠足 3/8 (土) 子 23 名 大 18 名 個人面談 6月,12月 保護者会 6月,11月,3月 グループ活動・帰りの会 おやつづくり</p>	<p>諸室に職員を配置し児童の自由な遊びを促す。内容は、・スポーツ、工作、スポーツ大会、ビデオシアター、お話し会、折り紙タイム、アトリエ等</p> <p>・低学年ロッキークラブ 1 期 132 名、2 期 128 名、3 期 1 1 2 名が登録。各学年 32 回実施</p> <p>・2・3 年生センター合宿 3 7 名・活動内容 スポーツ、ゲーム他 ・ロッキークラブ 3~6 年生センター合宿 2 1 名・内容食事作り、スポーツ他 ・デイキャンプ計 3 0 名 ・雪国体験家族キャンプ合計 1 9 名 ・高学年キャンプ合計 3 0 名・オーバーナイトハイク開催地湘南台~片瀬江ノ島海岸 (約 13 キロ) 名 ・ハロウィン地域のホストファミリー宅へいく 1 1 6 名 ・クリスマス会 1 2 5 名 ・餅つき大会 2 1 6 名、地域とのかかわりを深めている活動としていく。 ・未来キッズ 7 名、幼児と小学生の交流プログラム。</p>	<p>・中高生ワークキャンプ朝日福祉作業所<山梨県北巨摩郡>1 名<雲柱社児童館合同 13 名></p> <p>・オーバーナイトハイク 3 名</p> <p>・クリスマスライブ 98 名</p> <p>中高生音魂活動ライブ</p> <p>・ロッキークラブライブ 63 名</p>	<p>・餅つき大会 地域との関わりを1番に考え、行事を通じて深め合う活動とする。2 1 6 名</p>																																																																			
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>52</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>203</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス			71	1歳児クラス			80	2歳児クラス			52				0				0				0	計	0	0	203	<p>(在籍数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>22</td> <td>16</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	11	6	17	2年生	8	9	17	3年生	0	1	1	6年生	3	0	3	計	22	16	38	<p>(2007 年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男女合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>14568</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>20689</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>3261</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>12504</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>51022</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 24 ※1日平均 177</p>		男女合計	乳幼児	14568	小学生	20689	中・高校生	3261	一般	12504	計	51022	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>未来キッズ活動も4年目に入り、小学生にも定着し、活動にも見通しが出来るようになり、積極的に参加している。活動の後は振り返りの時を持ち次回へと繋げている。中学生の職場体験学習でセンターに訪れた生徒は自分がキッズ活動していた時、製作したパネルシアターを発見し、再度子どもたちの前で演じてくれた。本人も嬉しそうにし、職員も続ける事の大切さを実感した。</p> <p>・開催日 毎月第2、4水曜日午後3時~4時 年間17回</p> <p>・開催地 支援センターぱーくルーム</p> <p>・参加者 5年生6名 6年生1名 合計7名</p> <p>・活動内容 幼児と小学生の交流プログラム。</p>
クラス名	男	女	計																																																																					
0歳児クラス			71																																																																					
1歳児クラス			80																																																																					
2歳児クラス			52																																																																					
			0																																																																					
			0																																																																					
			0																																																																					
計	0	0	203																																																																					
	男	女	計																																																																					
1年生	11	6	17																																																																					
2年生	8	9	17																																																																					
3年生	0	1	1																																																																					
6年生	3	0	3																																																																					
計	22	16	38																																																																					
	男女合計																																																																							
乳幼児	14568																																																																							
小学生	20689																																																																							
中・高校生	3261																																																																							
一般	12504																																																																							
計	51022																																																																							

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱柱 狛江市立和泉児童館 事業報告

記入者/植松 牧人

指定管理

和泉

	子育て支援活動	小学生を対象とした活動	小学生クラブ	中・高校生を対象とした活動	次世代事業・自然体験事業・ボランティア活動など	ファミリー・サポートセンター
事業の総括	2006年度に比べて来館者が増えている。子育てクラブでは、特に0歳児クラスが2倍近くに増えていて、岩戸方面からの利用も多かった。クラスが終わった後もお弁当を持ってひまわりルームに残っていかれる方も多かった。子育てクラブのない月曜日・水曜日・土曜日もわんぱくタイム(ホールでの遊びのセッティングによる自由開放)やイベント(おりがみタイム・マッサージ)を設けることで多くの利用があった。夏の水あそびや、季節行事(流しそうめん・やきいも・クリスマス会・もちつき等)には、お母さんだけでなく、お父さんや幼稚園・保育園に通うきょうだいの参加もあり、家族で児童館を利用してもらう姿が多く見られた。後期には利用者アンケートをとったので、できるだけ利用者の声を取り入れて生かしていきたい。今後の課題は、子育てクラブが終わって幼稚園に入る子どもたちにも、イベントだけではなく普段から児童館を利用してもらいたい。幼児向けのイベントや、幼児クラスなどを行い、子育てクラブ・幼児クラス・小学生組織活動…とつなげていけるようにしていきたい。	館内のイベントは乳幼児と合同イベントを年間5回行ったことで相乗効果があらわれた。グループ活動として定例のもの、期間限定のクリスマス発表にむけた音楽サークルが、リピーターを呼んだ。代々木フェスタなど、エコロジーとポイントラリーを組み入れた、前例にとらわれないユニークな合同行事が成功におわる。高学年を対象とした複数の児童館との合同の行事も打ち出されたが、その準備に見合うだけの実績が伴わず、今後3年生以上の利用者に児童館を認識してもらおうが、問われる。	【1日の流れの模索】 19年度は1年生が半数を占め、障害児も1割弱という、スタッフにとっても挑戦の年であった。子どもたちが楽しく共同生活を送れるように、1日の過ごし方を学期や月の変わり目に変えていった。大きく変更した点は、ゲームや読み聞かせをしていた帰りの会を止めて、その時間を自習にしたことである。これは、面談やアンケートを通して、小学生クラブ内で宿題を済ませてほしいという保護者からの要望が多かったためである。子どもたちも自主的に宿題に取り組み、落ち着いた時間が過ぎた。 【学校との連携】 1年生の子どもたちの友達関係の不和がスタッフの目や面談を通して発覚し、児童館にて小学校1年担任の先生方と子どもたちについての連絡会を行った。また、懇談会でも、子どもたちの関係と学校担任との連絡会の内容を保護者に報告し、家庭・学校・小学生クラブが連携して子どもたちを多角的に見ていくことの重要性を訴えた。この問題に関しては、長期的な姿勢で向き合っていかなければならないため、保護者と学校とのつながりを保ち、深めていくことが課題である。 【保護者同士のつながり】 下半期からは、保護者向けの懇談会と親子行事を同日に行うことで、保護者同士の関係づくりも意識するようになった。親子クリスマス会では約70名、3月の親子お楽しみ会では50名以上の参加があった。各家庭とスタッフとのつながりだけでなく、保護者と保護者をつなぐことによって、子どもたちをとりまく安全な地域づくりのサポートに努めていきたい。 【障害児プログラム】 3学期からは、狛江市在住の講師を中心に、障害児向けの音楽療法のクラスを立ち上げた。1月から3月までの全12回の様子から、障害児の成長・変化が見られた。20年度も引き続き音楽療法を行い、障害児の放課後の有意義な居場所としての機能も果たしていきたい。また、健常児にも障害についての理解と思いやりの心を持ってもらえるような具体的なプログラムを組んでいきたい。 【全体を通して】 学年のバランスと利用の状況のバランスを考慮し、1日の生活の流れやイベントの工夫をしていきたい。また、18時以降の利用が半数以上あり19時を過ぎる迎えも多ありファミサポの機能を促していく。	立ち上げのころに学童保護者から上っていた中高生の不安の声は聞かれなくなってきた。高校生も最近ではマナーを守り、時にはイベントのボランティアをしてくれたりする。また夏休みの宿題で、ボランティア実習としての受け入れも多くなった。また、あさひ作業所のワークキャンプなどの参加者もあつた。年度替りの卒業入学式時期の、盛り上がりも定着化してきた。地元の中学校とこちらの運営委員のメンバーとして相互に関係性を保持していることは有意義なことであり、中学生についてそれぞれの課題と展望の検討が行われている。	年間の館のテーマとして「平和」をとりあげ、象徴的な活動をした。広島体験学習旅行、事前学習、反省会も含めて全7回及びグループ活動となった。自治体の軌轢または採算性の課題はのこしたが、メッセージの具体化という意味では大きな意義となった。また未成年の大学生ボランティア受け入れも和光大学のカリキュラムの一環として取り組み、行事をサポートしていただき、人的な厚みがイベントを支えた。自然体験とは別の活動の選択肢を今後とも展開していきたい。	児童館・小学生クラブとの複合館の特性を活かして新たな展開が実践できた年であった。また2008年度から法人内に4つ目のファミリーサポートセンターの事業所が誕生し、その内部的、外部的な認知の広がり、ならびに深まりが一層まじってきた。単独でファミサポの事業は立ち行かない。一方で指定管理の選別にされされる中で、抱き合わせの事業として市民のシンパを拡大していくことが求められる。子育ての生活感あふれる事業内容は、市民運動であり、市民活動である。当法人の独自性を出しつつも、地域のスタッフに委ねてその援助内容の種別を増やし、かつその回数も増加してきた。具体的には自立支援法の影響で、障害児対応などの援助も増えてきた。それに見合うだけの人的な確保の努力をしてきた。サポート会員の不足解消のためファミサポ・サロンによるところが大きい。会員の充実に、募集ならび研修が不可欠であり、雲柱社のスケールメリットをいかした、システムを今後とも向上するために検討を重ねたい。

活動・行事報告	子育てクラス年齢別4クラス年間(全24クラス)		クリスマス会	クリスマス会	どんぐりクラブ 3クラス 全4期	クリスマス会	クリスマス会	クリスマス会	広島研修旅行他	回数	回数	利用会員	サポート会員	両方会員	託児																		
	わんぱくタイム	リトミック	ベビーオイルマッサージ	お母さんの折り紙タイム	ファミリーデー	すくすく測定	水遊び	夏のプログラム	すいとんパーティー							中高生活動(月次)	あさひ体験学習キャンプ	高学年東丹沢キャンプ	低学年和光大学キャンプ	交流会	ステップアップ講習	小金井連絡会	アドバイザー研修	ファミサポ通信	チラシ配布								
	流しそうめん	やきいも	もちつき	バザー	すいわり	離乳食教室	日常	人形劇サークル	子ども服リサイクル	クリスマス会	障害児音楽療法	誕生会	懇談会	クリスマス会	おでかけ2回	ゲーム大会	輪投げ	昼食会	おやつづくり	13回	あさひ体験学習キャンプ	高学年東丹沢キャンプ	低学年和光大学キャンプ	高尾山登山	交流会	1	説明会	12	135	17	3	39	
										毎日の中高校生タイム				代々木フェスタ	ステップアップ講習	1	臨時説明会全	8	10	2													
										和泉ボランティアクラブ				中学校の運営委員会に出席																			
										館内合宿																							

登録者・来館数	【登録数】		【来館数】		【在籍数】			【その他事業・特記事項】	【ファミサポ実績】		
	0歳	358	乳幼児	10,435	学年	男	女		累計	増減	
	1歳	277	小学生	12,869	1	18	8	常勤職員5人とパート職員の努力が事業を支えている。事業は拡大し実績も伴ってきているが、受託先の自治体が、それにともなう設備の改善や人件費の増加の見込みがない。今後、指定管理を受ける場合は、自治体の財政力を吟味することが重要である。	利用会員	611	73
	2・3歳	281	中高生	1,964	2	11	10		サポート会員	135	22
			一般	10,347	3	1	0		両方会員	34	11
			計	35,615	4	1	2		計	780	
			開館日数	294	5	1	1				
			1日平均	121	(障害児)		9				

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 たまだいら児童館ふれっしゅ 事業報告

記入者/内堀 浩幸

指定管理

たまだいら

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	<p>登録制年齢別活動は1年間の継続を通し参加者同士もスタッフも良き交流を育むことができた。多くの親子が参加できるよう各年齢を2グループ(1グループ 30組)に増やした。各年齢とも参加率が良く毎回ゆったりとした雰囲気の中で交流を深めていくことができた。乳幼児と保護者にとって安心できる居場所となれた。『地域との連携』を年度の柱に据えた。積極的に地域の方々に活動の協力をお願いし結果を残すことができた。</p> <p>自由来館者への配慮として0・1歳児の遊べる空間の確保や体育室の利用時間帯の延長で乳幼児と保護者が利用しやすい環境設定を工夫したことで来館者数の伸びにつながったと分析する。(前年比 1,200 人増)</p>		<p>低学年の来館数が増え居場所として定着化してきた。毎週 1 回の低学年プログラムの充実が着実に参加人数を伸ばしてきた。その結果、様々なプログラムへの参加につながったことで児童館の中に低学年の居場所が確立したと感じる。</p> <p>高学年は登録制クッキングクラブを実施した。労作活動と共に児童館活動の核になるリーダー育成を目的のサブテーマに据え活動を展開した。</p> <p>地域・行政のニーズに対し過去3年間の積み上げを基に新しい分野に一步踏み出すことができた1年間であった。</p>	<p>約6千人の来館があり、各行事も実施できたことと中学生ボランティアの協力体制が確立できたことにより当初の目的を概ね達成できたものと考えている。</p> <p>音楽室活動も自分たちの自己実現の場、居場所としてスタジオや児童館を利用してきている。子どもたちとの会話から児童館でコンサートを開く話しも持ち上がってきたことは嬉しかった。</p> <p>卓球やバスケットボールといったスポーツ系イベントのニーズが強く毎回楽しみに参加してくれる子どもが新しい友だちを連れてきてくれる・・・といった形で常に来館者が良い意味で流動的であった。</p>	<p>労作活動においては、子どもたちと「勤労」、「自然」、「食」というテーマを共有することができた。また、クリスマス活動においても「喜びの分かち合い」というテーマを共有することができた。この2事業は地域との連携、結びつきがあつてこそはじめて成り立つものであり結果を残すことで今後の事業展開の大きな糧となった。</p> <p>中学生ボランティアとして小学生低学年館内合宿に参加してもらった。男子中学生2名であったが日常からのスタッフとの交流もありしっかりと役割を果たしてくれたことは今後の活動への希望となった。</p>																																																																															
活動行事報告	<p>※ 登録制年齢別活動:各年齢月 1 回 手遊び、体操、工作、レクリエーションなど子どもの発達段階と季節感を盛り込んだプログラムを展開した。「田んぼで泥んこ」、「夏祭り」、「お楽しみ会」、「人形劇観賞」</p> <p>※ 体育室開放:平日午後 2 時までミニアスレチックや三輪車、ボールなどを用意した。</p> <p>※ ひだまりルーム:0,1 歳児専用の部屋を設定。</p> <p>※ 積木、ブロック等じっくり遊べる部屋を設定。</p>		<p>※ 低・高学年キャンプ:7・8 月</p> <p>※ 低学年おでかけ(磯あそび):5 月</p> <p>※ こどもの日スペシャル:5 月</p> <p>※ 低・高学年クッキング:年5回</p> <p>※ 高学年クッキングクラブ:1 月から月1回</p> <p>※ クリスマス活動(キャンドル作り・施設訪問)</p> <p>※ 労作活動(お米作り)5 月から 11 月</p> <p>※ 映画会:毎月 1 回</p> <p>※ 低学年タイム:週1回</p> <p>※ 子ども実行委員会:9・10 月</p> <p>※ 証言会(被爆体験):11 月</p> <p>※ 館内合宿:3 月</p>	<p>※ 3on3 大会:年 4 回</p> <p>※ 卓球大会:年 4 回</p> <p>※ バドミントン大会:年 3 回</p> <p>※ ドッジボール大会:年 2 回</p> <p>※ 映画会:毎月 1 回</p> <p>※ 音楽室活動</p> <p>※ ボランティア活動</p> <p>※ 日野市子どもまつりボランティア:10 月</p>	<p>※ 労作活動(お米作り):5 月～11 月</p> <p>日野市に残された水田を地元農家の方に借り受け田植えから収穫、餅つきを体験する。特に除草作業を大切な目的として子ども達と共に力を注いだ。</p> <p>※ クリスマス活動:11, 12 月</p> <p>キャンドル製作を通し、地域に目を向け作業所や施設の存在や働きを知る。製作したキャンドルを各施設に訪問し手渡しそこから交流を深めることが出来た。</p>																																																																															
登録者来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>195</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス			60	1歳児クラス			60	2歳児クラス			60	3歳児クラス			15				0				0	計	0	0	195	<p>(在籍数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生				2年生				3年生				4年生				計	0	0	0	<p>(2007 年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>9385</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td></td> <td></td> <td>10759</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>5946</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>8741</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>34831</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 会館日数 287 日 ※ 1 日平均 121 人</p>		男	女	計	乳幼児			9385	小学生			10759	中・高校生			5946	一般			8741	計			34831	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>【地域内機関とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理業者連絡会:月 1 回・日野市係長会 :月 1 回 日野市子ども家庭支援ネットワーク連絡協議会:年 2 回 日野市立第五小学校 PTA 連絡会「はぐくみの会」:年 2 回 多摩平の森ふれあい館館内連絡会:月 1 回 <p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> クライミングボード設置 大型壁面ホワイトボード設置 乳幼児用柵設置 コピー機機種交換(FAX 機能付)
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス			60																																																																																	
1歳児クラス			60																																																																																	
2歳児クラス			60																																																																																	
3歳児クラス			15																																																																																	
			0																																																																																	
			0																																																																																	
計	0	0	195																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生																																																																																				
2年生																																																																																				
3年生																																																																																				
4年生																																																																																				
計	0	0	0																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児			9385																																																																																	
小学生			10759																																																																																	
中・高校生			5946																																																																																	
一般			8741																																																																																	
計			34831																																																																																	

<p>事業の総括</p>	<p>豊洲地区に建てられた 500 世帯以上の大型高層マンションに転入してきた親子が、豊洲だけではなく、東陽にも来所し始めている。</p> <p>1999 年 6 月にオープンした当センターは、登録者が 1 万人を超えた。“安心して、子どもを産み育てることができる街”“子どもの笑顔があふれる街”を地域の方々とともにつくっていききたいという願いを持ち、歩んできた 9 年間であった。</p> <p>新しい場所に自分たち親子の見方がいる</p> <p>センターの中だけの人間関係ではなく、人と人の繋がりが街の中に広がっていくことを確かなものとするために、ボランティアの存在は欠くことのできないものである。オープン当初からずっと、自身の様々な経験を活かし、出会う親子に温かい想いを寄せて接してくれている。一人ぼっちの子育てではなく、様々な人達と知り合い、ともに成長を喜び、支えあい、励ましあいつつ、今この時を共に生きていこうとメッセージを送ってくれる存在である。特に引っ越してきたばかりで、知り合いがまわりに誰もいない親子にとって、子どもは親だけのものではなく、地域の宝として、みんなで大切に育てていくことを実践してくれる人の姿は、どれ程心強いことであろうか。</p> <p>そして今、先輩ボランティアの姿や想いを受け継いで、若い先輩母親達も赤ちゃんを抱っこしたり、初めて来所した方が安心できるよう配慮してくれている。そのような姿を目にする時に、この世に産まれてきた子どもは、誰もが祝福された存在であり、愛されるべき存在であることを強く思う。先輩母親達は、我が子が小さかった頃や初めてセンターに来た時のことを思い出しながら関わってくれている。朝から晩まで子どもと向き合い、無我夢中で育児に専念してきた日々、子どもとのコミュニケーションがうまくいかず、自信をなくし悩んだことも、そういう経験があるからこそ相手の痛みや不安を心から理解できるのだと、母親同士の会話を聞いていて思う。</p> <p>異年齢の交わりをつくる場</p> <p>子ども達も 0 歳から 4 歳、5 歳と、年齢も興味も動きも違う中で、時には小さい子に積み木やブロックを壊されてしまったり、仲間に入れてもらえない場合もあるが、異年齢の仲間は、ある時は自分が年下の立場で、大きい子と同じようにできなくても、できない分だけオマケをしてもらって一人前の気分を味わうことができる。またある時は年上の立場で、ちょっと我慢しながら、小さい子の面倒をみたり、自分の知っていることを教えてあげたりしながら、自信をつけていく。異年齢の子ども達の交わりは、そういう力をもっている。</p>	<p>1. ひろば活動 「一人で悩まず、みんなで育てていこう」という願いの下、開かれているひろばは、今年度も多くの新規来所者を迎え、連日にぎやかであった。特に母親だけでなく、父親・祖父母が訪れることも、年々多くなり、ひろばが確実に地域に根付いていると感じる一年であった。土曜日には父親が母親に代わって子どもの育児に精を出し、子どもたちも父親と遊ぶことで、日ごろと違う姿を沢山見せてくれた。父親自身もひろばに慣れ、自分の子どもだけでなく、他の子どもと遊んだり、赤ちゃんを遊ばせながら夫婦がひろばでゆったりとした時間を過ごす微笑ましい姿も多くみられた。今年度は特に、生まれて間もない赤ちゃんを連れて母親達が多く来所し、同じ立場の方が夜泣きや授乳で悩んでいるのは、自分だけではないと、気持ちを分かち合えた。</p> <p>また、小さい子から大きい子まで遊ぶひろばは、共存の困難も多いが、親たちと話し合い、それぞれが安全で、安心できる場として整えていく必要がある。ひろばに集う親子が、仲間をつくり支えあうなかで、心のバランスを保ち、子どもたちが子どもらしく成長していけるように、考えていくことが今後も課題である。</p> <p>2. 相談活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ懇談会（年間 12 回） 子育ては楽しい反面、悩みや心配事が尽きないものである。一人で抱えないで、友達や仲間と話すだけで解消することもある。グループ懇談会はこの悩みをもつ母親同士が安心して話し合える場で、いろいろな人と出会っているいろいろな話が聞けて、自分の事も話せて、それぞれが自分にとって最良の方法を見つける機会になっている。連続 4 回、同じメンバーで続けるのでお互いに親しくなれる。また 4 回の間に実際に子ども達の成長も感じられるのが楽しみでもある。 ・家族問題相談（年間 24 回） 子育てで感じる辛さから、現在の夫婦関係を改めて考えたり、母親自身が育った家族（原家族）のことを振り返ったり・・・その時間は決して楽ではないこともあるが、それでも自分と家族のために相談を続けて、自分なりの答えを見つけていく姿に、その人の持つ力や思いを感じる。「自分だけがこんなことで悩んでいる」と思い込む傾向が強くなっているいるが、相談が進んでいくうちに、仲間に悩みを打ち明けられるようになっていく人も多く、その「つながり」をつくった人は力強くなっていくようだ。 ・発達相談（年間 12 回） 就学前の子どもだけでなく、学齢期の子どもとの相談も増えている。特に何らかの発達障害が疑われる場合は、まわりから理解され難く、母親の育て方が問題にされて辛い状況に追い込まれていることも多いので、そのような親の気持ちを受け止めつつ、治療教育的観点を踏まえつつ行っている発達相談活動である。
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>1.子どもが小さいと家の中も思うように整理できないことが多いので、センターは、できるだけ家庭的で清潔な環境づくりを心がけた。やわらかい色合いで花や緑を置き、おもちゃも木や布のものを用意し、穏やかな気持ちで過ごせるよう配慮した。</p> <p>2.使いにくかったオムツ交換台を、区にお願いして新しいものを付け替えた。事故のないように注意を呼びかけている。</p>	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 812 人 ・子ども延べ利用者数 15,322 人 ・親子合計 28,226 人 ・相談件数 562 件 ・ボランティア登録者数 34 人 ・総登録者数 10,555 人 ・親延べ利用者数 12,904 人 ・体験学習事業参加者数 3,001 人 （参加延べ時間数 1,359 時間）
<p>主な行事報告</p>	<p>1.人材育成「子育てボランティア養成講座 スキルアップⅠ」</p> <p>昨年の基礎講座終了者を対象におこなった。センターの利用者や相談者の中でもニーズの高い「一時預かり」の実施に向けて、地域の子育て力を向上させることを目的として行った。連続 6 回の講座に加えて、保育園での体験実習を入れ、全課程修了者には、20 年度から実施する「リフレッシュひととき保育」の協力ボランティアとして登録し、活動に参加してもらう。26 名の参加があり、登録者は 17 名であった。</p> <p>①子育て支援の柱 ②子どもの育ちと気持ちの理解 0～2 歳 ③3～5 歳 ④子どもを預かるということ ⑤親の気持ちに寄り添う ⑥支援者としての自分をみつめて</p> <p>2.子ども家庭相談研修</p> <p>子育てに伴う不安や悩み、また児童虐待等が大きな社会問題となっているなか、子どもに関する施設が子どもと家庭に対して、育児相談のよきパートナーとなることが強く求められている。区内の保育関係者を対象に、子育て家庭の現状と実践を学ぶための研修を行った。</p> <p>テーマ：気になる子どもの理解とかかわり 3 回連続講座を実施した。</p> <p>①発達障害をわかりやすく学ぶ ②事例を通して学ぶ（かかわりの実際） ③子どもの虐待と発達障害</p>	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 1名 依田幸子 ・子ども家庭支援ワーカー 1名 後藤美津枝 ・子ども家庭支援ワーカー 1名 二木加奈 ・地域活動ワーカー（リーダー） 1名 津田桂子 ・非常勤ワーカー 2名 加藤敬子・宮内美子 ・専門相談員・協力研究者（スーパーバイザー） 伊志嶺美津子（関東学院大学人間環境学部教授） 染谷 利一（東京大学付属病院こころの発達診療部：臨床心理士） 小川 未佳（家族機能研究所、IFF 相談室セラピスト、臨床心理士） 新沢 誠治（みずべの会代表） 坂井 聖二（虐待防止センター理事長）

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱社 江東区深川北子ども家庭支援センター 事業報告

記入者/酒井真理子

指定管理

深川北

<p>事業の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川北子ども家庭支援センターの歩みも4年が終わる。 「地域にひろめよう、深めよう、つなげよう」ということを大切に、利用者・ボランティアと共にこの1年歩んできた。 地域の人々のみずべで出会い、子育て・家族・自分自身のことなどを話し合ったり、励ましあったりしながら子育ての輪が広がり、仲間がつくられてきている。 ・ ひろばは、親子だけにとどまらず、子育て中の家庭をあたたく見守りたいと思うボランティア、子育て支援を勉強したい学生、学童クラブの子どもたちなどたくさんの人がさまざまなかたちで参加し、交流の場、ふれあいの場となってきた。 ・ 2006年4月から赤ちゃん(0～3カ月)が生まれた家庭に「地球へようこそ、みずべへようこそ」のカードを渡し始めた。 今年度3月で、延べ194人の親子に出生と誕生をお祝いするカードを渡す事ができた。子どもの誕生を地域みんなで喜ぶ。 ・ 区内の関係機関である幼稚園、保育園、児童館、小学校、保健所、児童相談所、福祉課等との情報交流、連携をし、関わりすすめている。 ・ 江東区内に5つのセンターがオープンし、それぞれのセンターと連携、協力し、地域の親子が安全で安心、大切にされていくと感じることのできる場を目指し、地域の方々や、主任児童委員、民生委員とともに、子どもたちが心身ともに健やかに育つまち・社会をつくっていく。 	<p>ひろば活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲柱社基本理念、子ども家庭支援センター事業目標を基にし、来所した親子や、ひろばでの触れ合い相談を丁寧 受けとめ一緒に考える姿勢を心がけてきた。 また、みずべ基本理念である共育、共創、共有、共生を考えあい、話し合ってみずべに集う仲間と助け合い、支えあって一年歩んでいくことができた。 ・ 乳児期の子育てを家庭の中に閉じこもることなく、開かれた多様な人との関わりの中で、こどもの育ちを見守り文 えあい 喜びを分かち合えるひろば作りを目指してきた。スタッフはひろばで子どもたちや親と場を共有し、子どもや親の 思いを感じ取りその事を伝え合い受けとめていくことを大切にしてきた。 ・ センター活動を、利用者、ボランティアと共に考える「みずべ会議」を実施し、みんなで創るひろばを目指して活 動を続けてきた。 <p>相談活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひろばでのふれあい相談で気軽に相談ができるような関係を築いてきた。 ・ 深刻な状況にある相談者はあらゆる問題が重なっていることもあるので、総合的に広い視野を持ってサポートし ていくようにした。 ・ 相談者が必要としていることは何かを見極め、センターだけで全てを抱えるのではなく、自分たちができることを 考え、必要に応じ各専門相談につなげたり、保健所と連絡を取ったり、それぞれの親子に合った対応を考え、す ずめていくことを大切にしてきた。 																								
<p>環境・修繕の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のお誕生日会のお祝いのお花をお母さんが活け喜ばれている。 ・ 冬季室内が乾燥する為加湿器を設置。 ・ 廊下掲示板の増設。掲示物の整理、明確化。 ・ 2階学童クラブ室を借りて実施している毎月のグループ懇談会やベビーマッサージ等が充実してきている。 ・ アンケートを実施。利用者のさまざまな声を聞く事ができた。多くの人が参加できるようなプログラムを企画、実施してきた。 ・ プログラムを目当てに参加者が増えてきている。利用者の要望でおもちゃ拭きタオルを設置した。 ・ ひろばで、子ども自ら遊びたいようになるように、遊具の充実、コーナー設定を工夫し、環境を整える工夫をした。 ・ 館全体が古いので、備品の故障や水漏れ等があり、安全管理面での点検に注意して、整備を行った。 ・ センター周囲の木々については、安全、清潔面を考え、スタッフが毎日清掃を行い、状況により剪定も行った。 ・ 防犯カメラを設置した事で不審者対策、また利用者の外での動きが把握でき、安全管理をしていく事ができるようになった。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>今年度</th> <th>前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 新規登録者数</td> <td>596名</td> <td>571名</td> </tr> <tr> <td>・ 子ども延べ利用者数</td> <td>11,302名</td> <td>10,695名</td> </tr> <tr> <td>・ 親延べ利用者数</td> <td>10,193名</td> <td>9,569名</td> </tr> <tr> <td>・ 親子計</td> <td>21,495名</td> <td>20,264名</td> </tr> <tr> <td>・ 相談件数</td> <td>518名</td> <td>339名</td> </tr> <tr> <td>・ 体験学習事業参加者数</td> <td>3,105名</td> <td>2,274名</td> </tr> <tr> <td>・ ボランティア登録者数</td> <td>32名</td> <td>28名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参加延べ時間 801 時間)</p>		今年度	前年度	・ 新規登録者数	596名	571名	・ 子ども延べ利用者数	11,302名	10,695名	・ 親延べ利用者数	10,193名	9,569名	・ 親子計	21,495名	20,264名	・ 相談件数	518名	339名	・ 体験学習事業参加者数	3,105名	2,274名	・ ボランティア登録者数	32名	28名
	今年度	前年度																								
・ 新規登録者数	596名	571名																								
・ 子ども延べ利用者数	11,302名	10,695名																								
・ 親延べ利用者数	10,193名	9,569名																								
・ 親子計	21,495名	20,264名																								
・ 相談件数	518名	339名																								
・ 体験学習事業参加者数	3,105名	2,274名																								
・ ボランティア登録者数	32名	28名																								
<p>主な行事報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親・母親講座はこどもの育ちと大人の関わり方、体のこと等を学びあう事ができた。 ・ 自主活動-1年目から続いているケーキサークル・英語で遊ぼうに加え、新しくお話会が定期的に行われるようになった。 ・ 子育てしながら自分の持てる力を発揮できる場となっている。 ・ あそびワーク(平野児童館との協働として行っている。) ・ 誕生日会(毎月最終土曜) ・ すこやか成長記録(毎月)一月末の3日間、身長体重測定および成長を親子、スタッフ共に喜びあう ・ グループ懇談(毎月)一母子分離の中で、0～3歳の子どもに関して育児の中でのいろいろなことを分かちあう。 ・ 助産師さんとの懇談(毎月)一主に0、1歳児の生活、健康について出産前後のお母さんの健康について話す。 親子ふれあい体操も行う。 ・ あおぞらひろば-森下公園に出かけて、体を動かして思いきり遊ぶ。年3回は、法人内の神愛保育園と一緒に企画、実行 ・ 季節の行事-利用者として協働しながら、ファミリーデー、七夕、クリスマスのつどい、入園おめでとのつどいを実施。 ・ みずべ会議-利用者、ボランティア、スタッフとの運営会議 ・ 学童クラブとの交流～夏まつり、おみせやさんごっこ、クリスマス等だけでなく、毎月1回のにこにこひろばや普段の日常的な交流は、学童児、みずべの子どもたち双方にとって良い刺激となっている。 ・ 講師によるベビーマッサージを通して親子の触れ合いや親同士のリラクゼーションの時をもっている。(月1回) ・ 有償ボランティアによるハンドマッサージを通してお母さんの手のケア、また話を聞いてもらう事で心のケアとなっている。(月1回) 	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センター長 酒井真理子 ・ 地域活動支援ワーカー兼子ども家庭支援ワーカー 篠原喜美 ・ 子ども家庭支援ワーカー 岡田麻美 ・ 地域活動支援ワーカー(非常勤) 白砂美樹 ・ ひろば補助(短時間パート) 花島由利子 <p>専門相談員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達相談 王美鳳(東京大学医学部 精神神経科 小児科) ・ 心理相談 田島昌子(臨床心理士・子ども家庭リソースセンター代表) ・ 家族問題相談 島根三枝子(代々木高等学院相談室長カウンセラー) ・ 助産師さんとの懇談 廣田真里(助産師) <p>スーパーバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田島昌子(臨床心理士・子ども家庭リソースセンター代表) ・ 坂井聖二(子どもの虐待防止センター理事長) ・ 新澤誠治(子育てひろば推進センター みずべの会代表) 																								

2007（平成 19）年度 社会福祉法人雲柱社 江東区南砂子ども家庭支援センター 事業報告

記入者／早川貴美子

指定管理

南砂

<p>事業の総括</p>	<p>ひろば活動 前年度と同様のプログラムを組みながらも基本的にはノンプログラムで、親子が自由に遊び過ごし、様々な人とのふれあいの中で交流を深め、親子が安心して過ごすことが出来るように配慮した。また、子育てに関して共に考え合えるひろばを創っていくことを大切にしてきた。2年目においても来所者数は多く、また保健相談所や助産師からの紹介による新規登録者、0才前期の親子の来所が目立った。又父親の土曜日来所が多くあり、父親、家族対象のプログラムも参加者が多くあった。障害を持つ子どもと親の集い「すこやか MANDAY」は月1回の集いであるが、参加者からは子どもが思い切り遊べる場として、又親同士がお互いのこどもの様子に関心を持ちながらあたたかく見合うということが出来る大切な場として喜ばれていた。</p> <p>相談活動 専門相談一発達相談はひろば利用者以外にも、保育園からの紹介の方や、虐待ケースでかかわっているケースが発達相談に繋がるなど幅の広い利用となっている。また相談後医療機関を紹介するケースも増えてきた。また家族相談の DV ケースについては必要に応じて、婦人相談員と連携して対応してきた。 電話相談一乳幼児期の子育て相談の他、就学児の親からの相談（不登校）や思春期の子どもをもつ親からの相談も増えてきた。</p> <p>児童虐待相談事業 江東区においても児童虐待対応マニュアルが出来、要保護児童対策地域協議会が設立されたことは、関係機関との連携を図るうえで大きな一歩となった。また児童相談所、所管担当課との役割分担を明確にしてきた一年でもあった。 育児支援サポート事業が十分活用されるべく、事業内容の見直しを図る。</p>	<p>ひろば活動—子育てを家庭の中だけの営みではなく、地域に出てともに子育てを 2年目に入っても、来所者が毎日80～100組と多く、引き続きスタッフも出来る限りひろばに入り親子とのかかわりをもつことに努めてきた。多くの母親からみずべがあって良かった、助かったということばを聞く。これは同時にこども達からの声でもあると感じている。子育て中の母親の気持ち、楽になっていくことが出来るサポートの必要性を再確認している。</p> <p>家族みんなのみずべ 父親の来所の増加。父親を対象としたプログラムへの参加だけではなく、土曜日に父とこどもとの来所が多くなっている。父親のひろばでの過ごし方は様々であり、祖母や祖父の来所も含め、ひろばを家族みんなで利用されていることを実感する。</p> <p>みんなで創るみんなの広場 母親達が主になっての活動（リサイクルバザー、井戸端会議、クリスマスお楽しみ会、入園を祝う会）が充実してきた。自主サークルとして継続しての活動となる。（ママさんコーラス）</p> <p>児童虐待対応 児童虐待対策ワーカ常勤一名が増員されたことで、ケース検討、記録の整理、状況調査等などにおいて格段の変化があった。区の所管課との役割分担も明確となり、指定管理の当センターと区との協働の働きをもって先駆型子ども家庭支援センターとしていこう、という方向性が明確になってきた。また江東区医師会の虐待対応のシンポジウムに参加したことは、地域の病院との連携の始まりの一歩となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 虐待相談通報受理件数 195 件（継続 103 件・新規 92 件） 児童相談所見守りサポート依頼件数 1 件 関係者会議開催延べ件数 45 件・育児支援サポート事業 5 件
<p>環境・修繕の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> センター入り口門扉の水溜り修繕（センター負担）・自転車置き場塀のぐらつき修理（公社負担） 2年目取っ点検で修理したもの—ホットカーペット用コンセント蓋修理、各部屋のドア取手部分の強化、体験学習室水道蛇口修理 トイレのつまり—修理2回（紙おむつが原因のつまり） 来所者の荷物置き場用棚2種備え付ける 植え込み緑化の充実 	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規登録者数 1,423 名（総登録者数 4,016 名） 子ども延べ利用者数 20,608 名 親延べ利用者数 17,621 名 親子合計延べ利用者数 38,229 名 相談件数（虐待ホットライン含む） 新規 592 件 延相談件数 4,983 件 <ul style="list-style-type: none"> * 児童虐待ホットライン（上記に記載） * ボランティア登録者数 68 名（参加延人数 374 名）
<p>主な行事報告</p>	<p>母親講座—離乳食講座（2回）、ベビーマッサージ（隔月—6回）、おもちゃ病院（1回）、お母さんの元気講座（1回） ・グループ懇談会—9回（3テーマ） 父親講座—お父さんの木工講座（1回）、お父さんのベビーマッサージ（2回）、 助産師によるグループ相談（毎月1回）、助産師による子どもと母親の個別健康相談（7回） すこやか MANDAY（障害を持つ子どもとお母さんの集い）毎月1回、 お誕生日会・すくすく成長記録・夏季水遊び・おはなし会・クリスマス会 めだかクラブ—折り紙教室・ハンド、フィットマッサージ みずべ会議（6回）みずべ井戸端会議（2回） 自主活動—子ども服、育児用品リサイクルバザー・入園おめでとうの会 ボランティア感謝会（5支援センター合同）</p>	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> センター長 早川貴美子 子ども家庭支援ワーカー 佐川寛子（リーダー）・武藤清香（地域活動ワーカー兼務・9月～産休育児休職）・江崎美子（9月～産休代替職員） 子ども家庭支援ワーカー（非常勤）曾我郷子・檜山真御子・藤ノ木大輔 児童虐待対策ワーカー 長尾妙子 安掛由美子（非常勤）杉山由希子 専門相談員（発達相談）斎藤厚子 （心理相談）櫃田紋子 （家族相談）稲邑恭子 スーパーバイザー 坂井聖二（小児科医、子ども虐待防止センター理事長） 新澤誠治（子育てひろば推進センターみずべの会代表）

事業の内容と展開総括	<p>1. 広場事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内にある地域センターの広場、大学の広場、民間の広場の併用をする親子が多い。その中でも子ども家庭支援センターの広場を利用する事で、安全安心の居場所を見出し、我子の成長を見守っていただける親も多くいる。特に発達障害の子にとってはセンターのスタッフや専門相談員の援助を受けつつ、この広場ならではの支援を受ける事ができている。市内の乳幼児に関わる機関からは、センターの広場の紹介も多く、何等かの問題を抱える親子にとっては、治療効果も含めて居心地の良い広場として活用されている。スタッフは広場での関わりの中で、発達の援助と共に親の相談にもものっている。 ・広場相談は常時4～5件入ってくる。 ・センターが行ってきた計測（のびのび成長記録）、スポットタイム、誕生会等も市内の広場の中にも実施する所が多くなり、その点では参加人数は横這い傾向にあるが、センター広場の機能としては、この事も大切にしつつ次のステップとして、親の体験から学習の方へ力を注いでいく時期に入ったとも言える。 ・土曜日や平日休みなどで父親参加も多い。父親達にとっての子育て参加や仲間意識の作れる場を設定できないかと考えている。 ・子育て世代の利用と同時にそれを取り囲む社会の多年齢、次世代、シニア、シルバー世代の参加を実現していきたい。ボランティア養成は今年度は消極的にしか行えなかった。（他の事業に時間を割いた） <p>2. 体験学習事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年齢別講座：少人数でもあり、いつも申し込み人数にすぐ達してしまうが、回数を多くする事はなかなかできにくい。（予算、日程共に） ・ふれあい体験事業：中高生の参加を計画的に準備していきたい。 <p>乳幼児の親子と共に楽しみ、ふれあいになるプログラムを工夫しなくてはならないと、今年度の実施の中で反省している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーバディズパーフェクト講座は一回であったが、この講座を通して子育ての充実感、親としての気付きの多さを考えると、実施が数回可能かを工夫していきたい。又、体験的に父親、祖父母世代などでのNPが可能なのかも考えていきたい。保育付きでないならやれる事もあるように思う。 <p>3. 相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達相談は治療機関へつなげる事がかなり進展した。教育相談室との連携もとれてきている。 ・精神疾患の親が多く、関係機関や家庭に関わる幼稚園、保育園の指導援助をしながら、家族、家庭として支えていくケースが益々多くなっている。 <p>4. 先駆型・虐待対策</p> <p>児童相談所との進行管理台帳を通して情報の共有化、協力が進んだ。ケースの役割分担、関係者会の主催と子ども家庭支援センターとしての虐待対応は強化されたと考える。</p> <p>のびのび育児支援ヘルパー制度を活用し、保健師との同行訪問ができる。ショートステイを利用した予防効果も顕著である。</p> <p>5. ネットワーク、地域のサポートは虐待対応や相談事業の進展に比べると伸びられなかった感がある。これは限られた人員の中では、こちらに手が回らなかったという反省でもあるが、地域のよりネットワーク化に次年度は力を入れたい。</p>	<p>目標（共に生きる・共に育てる）</p> <p>4年間の事業経過を振り返る時、地域の中に根ざし多くの親子との出会い関わりの中で、理念の実現を着実に踏まえて来たと考える。しかし、少ないスタッフでやれる事に限りがある事も実感している。その中でどう工夫していくのか見通しを持って次年度をスタートしたい。子ども達の中には様々な障害、家庭の養育困難等の状況にあってひずみを受けている現実がある。親の中には自らの成育歴に要因して、ずっと苦しんでいる人達がいる。格差社会と言われ、暗い材料が多い。それらがあっても健康度が高く、人と人の出会いの場から気づき協調し育児力をつけていく人達もいる。私達の仕事は、自らの専門性を磨くと共に、支援策を多く作っていく事と考える。又、私達だけではやり抜けない部分を、多くの関係機関と連携し必要な支援の出せる体制を強化する事と考える。社会の中で共に生きる、そうした人間関係作りを目指したい。これらの土台に神の愛に根ざす理念を持てる事は心強い。</p> <p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしにくい人達の多くは、その人自身の子ども時代の問題、家族問題、自己の充足感の欠如がある。家族問題の中で精神を病むケースに多く関わっている。 ・これらへの専門的関わりは当然ながら、今の時代性を見すえ、本来、人としてどうありうるか、幸福感をどうしたら感じられる各自の生き方になるのか。ケースの支援の中でも私達は人間理解を深め、一人一人の大切さを受けとめ改善できる支援を模索したい。 ・広場の中で元気をとり戻してくれる親子もいるが、長期的関わりを必要とする親子もいる。 ・虐待傾向の親子関係の中にも、その人の健やかさを見つめる視点を持って関わりたい。 ・要保護児童対策地域協議会を軸として、市の関係機関だけでなく、地域の中に入った支援体制を目指した歩みを次年度は始めたい。健康課とは年度初め見通しを話し合っておく。 ・各機関（守秘義務の範囲）への虐待ケースのスーパーバイズを再開する。 ・小平市の子どもの発達を支援する会を通して、自主的な研究会を行ってきたが、市の事業として移行していく動きもある。センターとしてはまた新たな必要性を見出しコーディネートしていきたい。
	修繕の総括	<p>4年目の広場は床のいたみや、玩具もかなり色落ちしたり、壊れてしまったりと年月を感じる。床については業者に点検してもらったが大幅な修繕には至らず、しばらくは気をつけて使っていく事になる。玩具が新しい物を当センターにしてはかなり購入を初めてした。これらの玩具を大切に使用し、使い方もあそびを通して伝えていきたい。環境が新鮮に感じられる工夫をこれからもしていきたい。</p>
	年間利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 766組 ・総登録者数 3386組 ・年間子ども利用者数 6598人 ・年間親利用者数 5477人 ・相談件数 1686件 ・講座体験学習参加人数 講座：478組 のびのび成長記録：616人 ふれあい体験：114人
人事報告	<p>センター長兼ワーカー 1名 両方仁子 ワーカー 2名 坂田祐也、藤田理恵子</p> <p>地域活動ワーカー 1名 八重田亜矢子 虐待対策ワーカー 1名 丸谷充子</p> <p>非常勤ワーカー 1名 田門美千子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門相談員 松田景子（臨床発達心理士，言語聴覚士） 関戸百合子（臨床発達心理士，臨床心理士） 田中島晃子 虐待対策スーパーバイザー（元児童福祉司，大学講師） 	
事業のネットワーク総括	<p>市の各関係機関との連携は進展している。要保護児童対策地域協議会の立ち上げで、学校関係からの協力も多く得られているが、各学校によって温度差があり、虐待対応への啓発活動、マニュアル作りなども次年度にやり残してしまっている。公の機関との連携が進む中で児童館、地域センター等の市内の各部所の親子の出会いの広場とのつながりを強化するには至っていない。</p>	

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 上池台児童館 事業報告

記入者/小暮 緑

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																											
事業の総括	<p>乳幼児クラスへの登録数は 400 組を超え地域での交流の場としての受入れはできたといえる。「お母さん映画会」「お父さんプログラム」を行ったが、行事によって参加者が異なることから児童館が提供するサービスを選んでいることがわかった。</p> <p>乳幼児向けのお教室が多い地域なのでその一つとして捉えられてしまうが、知識・技術を学ぶ場ではなく親子が向き合える場としての事業を展開していくことの確認が出来た一年だった。</p>	<p>今年度も1学期は待機児がいる状態だった。19 時まで延長保育をしている学童が無いため希望者が多い現状は変わらない。</p> <p>学童の運営自体にまとまりやなれがなかったため、それを作っていく一年だった。</p> <p>子どもたちのまとまりも薄く、職員がグループを作っていく意識も低かったため子ども達のグループ作りが課題のひとつだった。年度当初の課題に対しての目標は達成できた 1 年だった。</p>	<p><グループ活動></p> <p>自分中心で仲の良い友達にさえ、思いやりのある関わりが出来ない子ども達の姿から「他者を大切にすること」をテーマにプログラムを行った。低学年は習い事との関係で学期が進むごとに参加者が少なくなってしまった。また、高学年は子どもたちの参加態度等から子どもたちと話し合い、さらに職員で検討した結果、2 学期で活動を終了した。地域柄、一般来館が少なく、今後は一般来館へ力を入れていくことを職員で確認した。</p>	<p>新中一が多いため、18 時から 19 時までを中学生タイムとして設定したが、十分に利用されることはなかった。近隣中学や家庭にもお手紙を出したが、働きかけが少なかったのが反省点である。</p> <p>中学生自身、自分達で勝手に楽しみたいという気持ちで他者への配慮が足りず、来館するたびに注意される関係となってしまったことも反省点である。</p>	<p><ボランティア活動></p> <p>児童館の状況からまだ子ども達と「ボランティア活動」に取り組むことが出来ないのが現状である。その中でもクリスマスに地域の方にも呼びかけて、アジアの子どもたちにギフトボックス(40 個)を贈る活動が出来たのは評価できる点である。</p> <p><自然体験></p> <p>地域のニーズは大きい職員体制から大人数を引率すること日程を設定すること自体が難しいのが現状であった。もっと実施したいが出来ないジレンマがある。</p>																																																																											
活動・行事報告	<p><グループ活動></p> <p>・参加人数の増加から2, 3 歳児以外2クラスに分かれて活動を行なった。そのためクラスの入替え時が慌しくなった。</p> <p><行事></p> <p>6 月…お父さんと遊ぼう 38 組 こどもふくりサイクル 84 組</p> <p>7, 8 月…夏休みプログラム 319 組</p> <p>10 月…わんぱく大会(運動会) 134 名 こども服リサイクル 57 組</p> <p>12 月…各クラスクリスマス会 85 組</p>	<p><年間行事></p> <p>4 月…入室式</p> <p>7 月…洗足池公園で水遊び</p> <p>8 月…林試の森公園・親子昼食会</p> <p>11 月…洗足池公園</p> <p>1 月…たこあげ</p> <p>3 月…代々木公園・親子夕食会</p> <p><月間行事></p> <p>お楽しみ会、駄菓子屋さん、お店屋さん等</p> <p><保護者></p> <p>保護者会…年 4 回</p> <p>個人面談…6 月、11 月</p>	<p><年間行事></p> <p>5 月…こどもの日 73 名</p> <p>7 月…夏祭り 515 名</p> <p>12 月…クリスマス 49 名</p> <p>10 月…児童館交流フェスタ 7 名</p> <p>2 月…児童館交流ドッジボール大会 35 名</p> <p>3 月…低学年デイキャンプ 30 名</p> <p>(アイススケート)</p> <p><月間プログラム></p> <p>手作り教室…年 11 回</p> <p>料理教室…年 11 回</p> <p>手芸教室…年 11 回</p> <p>お話しの会…年 11 回</p> <p>各種スポーツ大会開催</p>	<p>・中学生タイム… 月～金曜日 18 時から 19 時</p>	<p><年間行事(自然体験)></p> <p>5 月…低学年デイキャンプ 40 名</p> <p>8 月…低学年川遊び(3 日間)48 名 高学年サマーキャンプ 12 名</p> <p>9 月…低学年オータムキャンプ① 31 名</p> <p>10 月…低学年オータムキャンプ② 30 名 高学年デイキャンプ 20 名</p> <p>2 月…高学年ウインターキャンプ 20 名</p>																																																																											
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>103</td> <td>89</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>91</td> <td>79</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>224</td> <td>203</td> <td>427</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	103	89	192	1歳児クラス	91	79	170	2歳児クラス	30	35	65				0				0	計	224	203	427	<p>(在籍数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>21</td> <td>16</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>55</td> <td>34</td> <td>89</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	21	16	37	2年生	21	12	33	3年生	13	6	19	4年生	0	0	0	計	55	34	89	<p>(2007 年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>3957</td> <td>5001</td> <td>8958</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>12876</td> <td>7563</td> <td>20439</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>791</td> <td>130</td> <td>921</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>322</td> <td>8550</td> <td>8872</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17946</td> <td>21244</td> <td>39190</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 296 日 ※1 日平均 132, 4 人</p>		男	女	計	乳幼児	3957	5001	8958	小学生	12876	7563	20439	中・高校生	791	130	921	一般	322	8550	8872	計	17946	21244	39190	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p><館内研修> 月 1 回実施。 児童館ブロック事業目標について、児童館～理論と実践より、チームについて</p>
クラス名	男	女	計																																																																													
0歳児クラス	103	89	192																																																																													
1歳児クラス	91	79	170																																																																													
2歳児クラス	30	35	65																																																																													
			0																																																																													
			0																																																																													
計	224	203	427																																																																													
	男	女	計																																																																													
1年生	21	16	37																																																																													
2年生	21	12	33																																																																													
3年生	13	6	19																																																																													
4年生	0	0	0																																																																													
計	55	34	89																																																																													
	男	女	計																																																																													
乳幼児	3957	5001	8958																																																																													
小学生	12876	7563	20439																																																																													
中・高校生	791	130	921																																																																													
一般	322	8550	8872																																																																													
計	17946	21244	39190																																																																													

事業の総括	<p>① 利用者アンケートを3年ぶりに行った。大きく分けると満足してもらえている状況が分かった。細かな要望については、気づかなかった点、実施していても周知不足だった点等今後改善に向けていきたいと思う。</p> <p>小金井市の子ども家庭支援センターの特徴として、事務スペースがオープンで、利用者がスタッフに声をかけやすく、またスタッフからひろば全体が常に見えているという利点がある。スタッフにとっては、常に見られているので気が抜けず、神経を使うという大変さはあるが、利用者にとっては安心できる場となっているようだ。アンケートにスタッフがいつもひろばにいる、声をかけやすい、話を聴いてくれるから安心できるという回答が多くあった。</p> <p>このことから、スタッフの姿勢如何でそれは逆の評価にもなり得るということなので（姿があっても何もしてくれない）、今後も研鑽が必要ということが伝わってくる。</p> <p>また、そのことからひろばの利用者同士の関係だけだと緊張感が生まれるのだということがアンケートからもわかる。母親同士の会話や子ども同士の関わりの中でも気を使い合っている様子が感じられる。子どもたちが安心した大人同士の関係の中でどうやったら育ていけるのか、ひろばや子ども家庭支援センターの事業の中でも仕事の質を考える上で必要な視点かと思う。</p>	環境・修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・男性用トイレのおむつ替え用シートの取り付けを行うことができた。 ・市の施設なので修理については、市で行うことになったが、その結果ブラインド・蛍光灯等修理が滞るようになった。 ・敷地内の児童遊園の固定遊具の定期点検・修繕を市に依頼 ・エンジェル教室の実施等により、赤ちゃんの利用が増えたため棚の位置を移動させることで赤ちゃんコーナーを広げた。 																																																								
	<p>② ひろばでの相談以外は、先駆型の市職員も受けることになった。お互いに目の前の仕事に追われており、情報交換が充分とはいえない中で進んでいっている状況にある。</p> <p>次年度は、もう少しその部分を両方で心がけて、やっていかなければならないと思う。</p> <p>市職員が入ったことで要保護児童対策地域協議会にかかるケースについては、市の職員の役割となり、委託部分での負担は減った。だが各々の仕事（先駆型・従来型）がどういう役割分担・つながりを持って全体のシステムを成り立たせているのか、全体の方針をどうするのか等課題は多い。</p>	事業目標・方針の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のアンケートの中で、常にひろばにスタッフの姿があり、あたたかい雰囲気が感じられ安心できるという回答が多数あった。講座や母親のグループミーティングにおいても安心感を感じてもらうことに心を砕いてきた。現実的には日々の事業やひろばの混雑具合によって、疎かになってしまうこともあり、そのことに気づく感覚だけは持ち続けなければならない。 ・利用者に安心感、自分が大切にされているという感覚を持ってもらうには、スタッフ自身が自分に縛られない、自分から自由になるということが必要になる。法人のミッション研修に関しては簡単にはいかないことであるが近隣教会との関係づくり（まだつれていない）やグループカンパリング等を通して、努力していかなければならない。 ・「地域の子どものとその家族が抱える問題」については、スタッフ間で個々の問題について、話し合いができていても、地域・時代という大きな枠組みの中で現在の問題を各々がどう捉えているのかということは話し合う機会がとれていない。子ども家庭支援センターという仕事上、大きく物事を捉え、展開を考えていく力量が必要である。そのことをスタッフ間で共有する機会を意識的に持つことが足りなかった。 ・またケースワークの基本的なことを、次年度は勉強し合いたいと思っている。 																																																								
	<p>③ 講座関連は、各々が機能し合ってきている。保健センターからの移管事業も1年間行ってみて、修正箇所が見えてきた。すぐに変更できない部分もあるが次年度は、10ヶ月～1歳2ヶ月児対象のカルガモ教室をリニューアルする。全く新しいプログラムなので試行錯誤することになると思うが実のあるものにしていきたい。</p> <p>課題としては、保育の為に予算がついていないので全てボランティアさんという訳にもいかず、予算との絡みで講座・グループの回数、内容を考えていかなければならないということがある。また、今後はセンター内だけでなく、外との連携の中で講座も考えていかなければと思う。</p>	年間利用者数	<table border="0"> <tr> <td>○子ども家庭支援センター</td> <td>・相談件数</td> <td>新規</td> <td>680件</td> </tr> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>12,098人</td> <td>活動延べ回数</td> <td>1501回</td> </tr> <tr> <td>・大人延べ利用者数</td> <td>10,840人</td> <td>・専門相談数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・延べ利用者総数</td> <td>22,938人</td> <td>（発達相談）</td> <td>106件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>（こころの相談）</td> <td>45件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>（助産師相談）</td> <td>49件</td> </tr> <tr> <td>・ボランティア登録者数</td> <td>27組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>活動実施回数</td> <td>389回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加者延べ人数</td> <td>486人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ファミリー・サポート・センター</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・協力会員</td> <td>82人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・依頼会員</td> <td>510人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・両方会員</td> <td>27人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・活動件数</td> <td>3491件</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	○子ども家庭支援センター	・相談件数	新規	680件	・子ども延べ利用者数	12,098人	活動延べ回数	1501回	・大人延べ利用者数	10,840人	・専門相談数		・延べ利用者総数	22,938人	（発達相談）	106件			（こころの相談）	45件			（助産師相談）	49件	・ボランティア登録者数	27組			活動実施回数	389回			参加者延べ人数	486人			○ファミリー・サポート・センター				・協力会員	82人			・依頼会員	510人			・両方会員	27人			・活動件数	3491件		
	○子ども家庭支援センター	・相談件数	新規	680件																																																							
	・子ども延べ利用者数	12,098人	活動延べ回数	1501回																																																							
・大人延べ利用者数	10,840人	・専門相談数																																																									
・延べ利用者総数	22,938人	（発達相談）	106件																																																								
		（こころの相談）	45件																																																								
		（助産師相談）	49件																																																								
・ボランティア登録者数	27組																																																										
活動実施回数	389回																																																										
参加者延べ人数	486人																																																										
○ファミリー・サポート・センター																																																											
・協力会員	82人																																																										
・依頼会員	510人																																																										
・両方会員	27人																																																										
・活動件数	3491件																																																										
<p>④ 要保護児童対策地域協議会等、公のネットワークづくりとは別に、今後も関係機関との連携を深めていく必要あり。</p> <p>異世代交流、他機関との事業連携は利用者のみならずスタッフの勉強にもなり、力を入れていきたい。</p>	人事その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども家庭支援センター ・責任者 宮澤陽子 ・子育て支援ワーカー 綿平真梨江・伊藤綾子 岡本久美子（非常勤～5月）・南部真紀（非常勤） 荅清美（非常勤） ・発達相談相談員 松田景子（言語聴覚士） ・こころの相談相談員 藤森由比子（臨床心理士） ・助産師相談相談員 金岡直子（助産師） ○ ファミリー・サポート・センター ・センター長 宮澤陽子 ・アドバイザー 田頭祐子（非常勤） 本多真理（非常勤） 島田伸子（非常勤～10月） 榎本香（非常勤10月～） 																																																									
<p>⑤ ファミリー・サポート・センターの事業は、広がりや深まりの両方を考えていく時期にきている。協力会員の募集については、事業の理解を広げていくことと講習以外の活動の説明会を持つことで地域の方々に安心感を持ってもらうことが必要かと感じている。</p> <p>子ども家庭支援センターのボランティア育成との連携についても今後の課題である。</p>																																																											

2007(平成19)年度 社会福祉法人雲柱社 深川学童クラブ 事業報告

記入者/永澤 和夫

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括		<ul style="list-style-type: none"> ・行事の準備や練習など、前年度以上に様々な場面でこども同士のグループ活動を展開したことにより、行事以外の日常的な場面でも主体性を持って生活ができるようになった。 ・今年度、初めての行事として合宿を行なった。こども達にとっては親元を離れ人間関係を深める場となり、保護者にとっては休息の時間になるなど、双方から好評をいただいた。 ・自然や科学と触れ合いながら友達同士楽しく過ごせるよう、遠足の回数を前年度より多く設けた。 ・保護者とは細かく連絡を取り合い、意見や要望は早急にクラブ運営に反映させていくように努めた。 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き保護者とはよい関係が保てるように、努力していきたい。 ・こどもたちの授業時間の増加に伴い、保育スケジュールの組み立てには今後さらに配慮していきたい。 																																																																																		
活動行事報告		<ul style="list-style-type: none"> ・4月入会式・5月自然とあそぼう・6月遠足(雨天のため東京都児童会館)・7月夏祭り、観劇会・8月合宿、遠足・10月遠足、ハロウィンパーティー・11月自然と遊ぼう、ガムランの鑑賞会・12月クリスマス会、合同ゲーム会・3月お別れ会・お別れ遠足、江東北部ドッチボール大会 定期活動：月1回 ゲーム会、にこにこひろば(深川北子育て支援センターとの交流事業)、さんぽ、避難訓練月2回 制作 その他：ぬりえコンクール、こま週間 ・保護者会：5、7、12、3月 ・入会説明会3月・個人面談：10月～11月中 																																																																																		
登録者 来館者	(登録数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス			0	1歳児クラス			0	2歳児クラス			0				0				0				0	計	0	0	0	(在籍数) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	11	7	18	2年生	10	11	21	3年生	11	10	21	4年生	0	0	0	計	32	28	60	(2007年度来館者数) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※会館日数 _____ 日 ※1日平均 _____ 人		男	女	計	乳幼児			0	小学生			0	中・高校生			0	一般			0	計	0	0	0	(その他の事業、特記事項)
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス			0																																																																																	
1歳児クラス			0																																																																																	
2歳児クラス			0																																																																																	
			0																																																																																	
			0																																																																																	
			0																																																																																	
計	0	0	0																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	11	7	18																																																																																	
2年生	10	11	21																																																																																	
3年生	11	10	21																																																																																	
4年生	0	0	0																																																																																	
計	32	28	60																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児			0																																																																																	
小学生			0																																																																																	
中・高校生			0																																																																																	
一般			0																																																																																	
計	0	0	0																																																																																	

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 大島四丁目学童クラブ 事業報告

記入者/永澤 和男

	子育て支援活動	学童クラブ(本館・分室)																										
事業の総括																												
活動行事報告	<p>日常活動 「みずべボランティア」(週1回) 「ロッカー掃除」(月1回)「買い物体験」(月1回) 「誕生日会」(月1回)</p> <p>延長保育 基本は5～6時。どうしてもお迎えが間に合わない場合は個別に対応。延長保育では、集団での遊びや個々の遊びを展開。トランプやオセロなどのテーブルゲームやおままごと、お化け屋敷ごっこなどで楽しむ。</p> <p>おやつ バイキング方式(自分で、お菓子をお盆からお皿に取る)と、大皿方式(グループのみんなで、皿のおやつを取り分ける)を行なう。また、お菓子釣りなどのゲーム要素を取り入れて行うこともあった。昨年度に引き続き、不定期ではあるが保護者の管理栄養士さんに来ていただき子どもたちに食育の話をしていただいた。</p> <p>グループ活動・誕生会等 子どもひとりひとりに誕生日にリクエストおやつ(誕生日の子どもの希望するおやつを提供)を行う。また、誕生会では手作りの冠とアメのレイをプレゼントし、みんなで一緒にケーキなどを食べて誕生日の子どもを祝う。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション(4月) お化け屋敷ツアー・観劇会(7月) 遠足・大八との交流<水遊び>(8月) 大四商店街<みずべとの交流>(9月) ミニ遠足・食育講座・ハロウィンパーティ(10月) 焼きいも会・食育講座(11月) クリスマス会・合同ゲーム会・手芸タイム・大掃除(12月) ぬり絵コンテスト(1月) お楽しみゲーム会・手芸タイム(2月) 卒室、進級おめでとう会・合同ドッジボール大会・お別れ遠足(3月)</p> <p>その他の活動 第1回保護者会(5月) 第2回保護者会(6月) 全家庭対象の個人面談(11月) 第3回保護者会(12月) 次年度入会説明会(3月)</p>																											
登録者 来館者	(登録数)	<p>(在籍児数) 2008.3 時点</p> <table border="1" data-bbox="468 1270 860 1480"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>4</td> <td>12</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	4	12	16	2年生	4	1	5	3年生	4	4	8	4年生			0	計	12	17	29	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>生活班などの小集団や全体で行う大集団など、グループ活動が多く展開できた年となった。学童内で行ったゲーム大会やおやつの際のお菓子作り、おでかけなど集団で活動に対し、子ども達も積極的に参加していた。また、引き続き行なっているみずべ(2階の子ども家庭支援センター)との共催プログラムも好評であった。今年度も乳幼児との関わりも大切にしつつ、学童としての集団活動及び個々との関わりを大事にし、年間を通してまとまりある学童を目指す。</p>	
	男	女	計																									
1年生	4	12	16																									
2年生	4	1	5																									
3年生	4	4	8																									
4年生			0																									
計	12	17	29																									

2007(平成 19)年度 社会福祉法人雲柱社 大島八丁目学童クラブ 事業報告

記入者/永澤 和男

	子育て支援活動	学童クラブ																																				
事業の総括	<p>◇前年度同様、「誰でも自由に安心して来ることができる ひろば」というコンセプト。来室した保護者には必ず声をかけ、日常の話から気になる子どもの様子まで、話したいことを話すことが出来る雰囲気作りを心掛ける。今年度は、職員の異動等様々な事情が重なり、前年度ほど母親とのコミュニケーションをとることができなかった。しかし、前年度から引き続き利用している親子が多数おり、逆に利用者に助けられた部分も多い。このことから、「ひろば」が地域に密着し、育っていることを実感できた。</p> <p>◇大島東地区・東砂地区には現在もマンションが増えていることから、「この地域に多くの乳幼児を持つ家庭があり、今後数年は確実に増加傾向にある」ということがわかる。孤立しがちな集合住宅に住む核家族の母親同士のつながりを作るという意味からも、「地域のひろば」の役割が重要となってくる。</p> <p>◇年齢・月齢に縛られない自由な雰囲気を大事にしつつも、安全面を考慮し、室内を「歩けない乳児」と、「歩き回って遊ぶ幼児」の二つのスペースに分ける。今年度は、乳児・幼児の来室の割合が日によって極端に変動し、毎回の広さの設定が非常に難しかった。しかし逆に、自分のこどもと年齢の違うこどもと一緒に遊んでくれたり、母親同士でアドバイスをし合ったりと、異年齢親子の交流に繋がった部分もあった。</p> <p>◇今年度も、何らかの理由(障害がある・極度の人見知りで集団が苦手 等)で近隣児童館の活動に参加できない乳幼児とその母親達が毎回のように来室。「児童館にはいられないけど、ここには来られる」という声もあり、今まで居場所のなかった親子たちの居場所となることができた。多くの時間をコミュニケーションに割き、プログラムを強要するのではなく、和んだり、話したり、相談したり、ただ「居る」ということを受容するカタチが、今まで行き場のなかった親子に安心していただける居場所を提供することができたのであろう。固定されたプログラムを極力作らず、その分を職員が輪の中に入り、積極的にコミュニケーションをとっていった良さが出ていた。</p>	<p>日常活動 一日の流れ<通常>:来室→宿題・自由遊び→オヤツ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅 <学校休業日>:来室→勉強→自由遊び・集団遊び→昼食→自由遊び・散歩(夏休みのみ昼寝)→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅 「ゲーム会」(月1回)、「スポーツの日」(月1回)、「避難訓練」(月1回)、「お散歩」月(1回)、季節の行事製作 等</p> <p>延長保育 17～18時。延長児童の半数はお迎えに来ている。残りの児童は、班で帰宅。方向的に一人帰りになってしまう児童は、可能な限り、職員が自宅付近まで送っていった。延長保育限定のプログラム有り(室内ドッジ・タスケ、集団ゲーム、雑巾がけ、年末お楽しみ会 等)</p> <p>おやつ 個別包装で、準備時に手で触れない物にし、触る場合は手袋をすることを徹底。衛生面の管理には十分に気を配った。内容的には、出来る限りバラエティに富み、季節の行事に合ったおやつを出すようにした。</p> <p>グループ活動・誕生会等 月のゲーム会は生活班対抗。縦割り集団で協力し、達成する喜び・楽しさを感じられるよう設定した。また、クリスマス会・お別れ会では、自分で出しものを決め練習・発表した。誕生会は、ひとりひとりにカードと手作りのキーホルダーを準備。司会は3年生が順番で行った。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション・お祝い会(4月)、ミニ遠足(小松川公園)(5月)、塗り絵コンテスト・オヤツ釣り大会(6月)、お楽しみ昼食会・観劇(文化センター)(7月)、レトルご飯の日・大四と交流(水遊び)・ミステリーツアー(大島児童館)・遠足(日本科学未来館・本所防災館)・五目並べ大会(8月)、引取り訓練(9月)、ミニ遠足(10月)、ミニ遠足・塗り絵コンテスト(11月)、クリスマス会・レトルご飯の日・合同ゲーム会・大掃除・MVP発表(12月)、1年の目標(1月)、節分・塗り絵コンテスト(2月)、五目並べ大会・江東区ドッジボール大会・お別れ会・レトルご飯の日・お別れ遠足(平和の森)(3月)</p> <p>その他の活動 保護者会(5月・7月・12月)、個人面談(10月)、新年度説明会(3月)</p>																																				
活動・行事報告	<p>○日常活動 10:00自由来室・ひろば活動→11:25 片付け→紙芝居→連絡事項・予定報告→11:30ひろば終了→11:40片付け→12:00振り返り</p> <p>○特別プログラム: パネルシアター:講師に来ていただき行った(年2回)</p>																																					
登録者・来館者	<p>子育て支援活動 (登録数)</p> <table border="1" data-bbox="267 1575 534 1764"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	計	0歳児クラス	40	1歳児クラス	15	2歳児クラス	3	3歳児クラス	1	計	59	<p>学童クラブ (在籍児数)</p> <table border="1" data-bbox="816 1575 1216 1785"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <p>(その他の事業、特記事項)前年度に引き続き、グループ活動を多く取り入れた。縦割り班での生活・遊び・ゲーム会等を通じ、協調性・社会性を育むことができた。また、新たな取り組みとして、自由参加型の行事(五目並べ大会)を行う。児童が自主的に参加届けを出し、練習をするものとした。その中で、自由遊びの時間に自ら練習に取り組む・大会中にお互いに励ましあう・大会(練習)を通して交友関係が広がる等、様々な成長が見受けられた。学童クラブは、児童の放課後の居場所として、安全と安らぎを提供する場ではあるが、その中でも何かの目標を持って生活を送ることができる環境を用意し、日々を充実させていきたい。</p> <p>保護者との関係は概ね良好。保護者会・個人面談・送り迎え時の日々の会話を通して、安定した信頼関係を築きつつある。しかし、20年度はより良い関係を目指し、保護者からの意見・要望等を聞き入れ、今以上に、地域に密着したクラブを目指していきたい。</p>		男	女	計	1年生	15	15	30	2年生	3	4	7	3年生	4	3	7	4年生			0	計	22	22	44
クラス名	計																																					
0歳児クラス	40																																					
1歳児クラス	15																																					
2歳児クラス	3																																					
3歳児クラス	1																																					
計	59																																					
	男	女	計																																			
1年生	15	15	30																																			
2年生	3	4	7																																			
3年生	4	3	7																																			
4年生			0																																			
計	22	22	44																																			